太秦安養寺代官職ニ並ニ生田村年貢ヲ村民等押收ス

五分一進納催促

文明十二年九月十一日

一梅津長福寺塔頭正法院雜掌申、太秦內安養寺代官職幷生田村事、爲質券之地處、今度號德政責取借書、剩年貢少々押取云々、背御禁制之條、以外次第也、所詮任契狀之旨、以當年貢可被究返之、若猶有難澁之儀者、一段可有御成敗、次至功德院分目代分等者、子細同前也、堅可被加下知之由、所被仰下也、仍執達如件、

同日　　下野
伊〻

一〻同前

以上二通、同廿四日英基調進之、
御加判、同廿五日則渡遣之、

一備中國荏原鄉祥雲寺奈(須)次修理亮、伊達常陸介等借錢事、寄事於去年之德政、不致返辨云々、太無謂、既任御法令、進納五分壹之上者、被成奉書訖、早可被致催促之由、所被仰下也、仍執達如件、

文明十三六十三　　下野守

借主小南五郎左衞門
錢主清水新右衞門

珠龍侍者

此一通、同十四日英基調進、卽御加判、

伊〻

〔賦引付〕二

〔表紙〕
一〔錢〕主申五分一賦引付　文明十二年、同十三年、同十四年、同十五年、同十六年、同十七年、　親元」

一布野州梅津長福寺正法院　文明十二年、同十二廿三、

下河原門跡已下所々借錢、都合本錢百六十九貫餘、五分一、卅三貫八百餘、

一同珠龍侍者　〈文明十三也〉〻五廿四、

備中國荏(桂カ)原鄉百姓等ニ借與貳千疋事、五分一可致進納之、可被成下御奉書之由申之、

一同前尼幸法　文明十三四四、

小南五郎左衞門尉　文明十一借錢廿貫文事、

一飯加清水新右衞門尉茂吉〻七十七、

五貫文三石、可進納五分一之由申、

文明十二年九月十一日

文明十二年九月十一日

錢主佐竹
布野州
勝家
借主小笠
原政清
質地越中
石黒上中
郷

錢主三上
員光
借主勸修
寺教秀
加賀井家
莊江山
前莊代官
職

錢主仁儀
直俊
借主本誓
院

同細川淡
路彦四郎

一佐竹式部丞勝家〻――七廿七、
小笠原備前守政清方へ、文明八十一祕計貳百貫文事、以越中國石黒上
中兩郷年貢、可返辨之由契約候、仍可進納分一之由云々、

一三上越前守員光（松豊）同日、
勸修寺家領加州井家庄幷江州山前庄等、就代官職之儀、祕計申分九十
貳貫八十文井家分、卅貫文山前分、
以上五分一、廿四貫文餘、

一仁儀藏人直俊〻――八四、（布野州）
本誓院　拾貫文
同　六石
以上質券九條下地、
淡路彦四郎殿（細川治部少輔殿）　拾貫文、屋敷地子十二ヶ年分、

〔親元日記別錄〕下（文明十五年）
一本誓院雜掌〻――十一十四、（清八左）

質地近江
山前
錢主蓮光
院澄舜
借主曼殊
院
質券山城
八瀨
錢主資珠
庵
借主中山
宣親

錢主遠山
小太郎
借主勸修
寺教秀

〔賦引付〕二

對仁儀藏人借物質券地九條散在田地事、無盡期押取云々、

「錢（裏紙）主申五分一賦引付　文明十二年、同十三年、同十四年、同十五年、同十六年、同十七年　親元」

一遠山小太郎（中掃大）同日、（文明十三年八月四日）
勸修寺家　十三貫五百文　文正元、質券あり、
遠山小太郎（中掃大）同日、
勸修寺家　卅七貫文預錢　寬正六、質江州山前、
一蓮光院澄舜〻――八十一、（飯加）
竹內門跡　廿五貫文八瀨內野瀨田、限七ヶ年（朱書）「五貫文進納云々」
一寶珠庵（布但入）同日、
中山殿、同權大納言殿局（宣親）　拾貫文　寬正五、同六、（松豊）

一三上越前守員光（飯加）同日、
松梅院　廿貫文　返辨之殘、越前得光保事、（廿貫內且文正元）
鷹司殿　卅貫文　應仁元、越中直海大光寺ニあて、（文正元）

一三上與三左衞門尉員元〻――八四、（錢主三上員元）

文明十二年九月十一日

借主星野政茂　質地丹波山内莊鹽田村同高屋村　錢主相賀國次岩崎富賴　借主勸修寺敎秀　同三條西實隆　同大澤久守　錢主西田清重　借主理覺院　錢主島津經忠

星野宮內少輔（政茂）
一相賀彌五郎國次（布野州）――八十一、
　六貫文
一岩崎平左衞門尉富賴（清泉禪）――八十五、
　卅八貫百文
　四貫五百文
　二貫六百文
　卅貫文
　一貫
　以上
一西田彌五郎清重（布野州）八十一、
　五十貫文
一島津左京亮經忠八十六、
　十六貫文且返辨也、
　十四貫八百文
　十貫文
　以上
一高市下野光清（布野州）同日、
　十二貫八百文
　卅四貫五百七十五文
　以上
一下河原宗八高盛（布野州）同日、
　卅六貫文
一飯尾四郎右衞門尉種貞（松豐）同日、
　七貫文
一石井美作守秀安（清泉禪）同日、
　廿貫文
一招慶院雜掌（清式大）同日、
　廿二貫文
一宮內大輔重種（布野州）同日、三條西殿諸大夫也、
　文明十二年九月十一日

五十貫文　丹波國山內庄鹽田村井高屋村等、限五ヶ年、
西京桑原、同定使、餅屋、次郎兵衞、銀屋、五藤四郎、

勸修寺殿
三條西殿
大澤長門守（久守）
次郎三郎林五左中間、

理覺院　質券西九條兵庫寮、

三寶院民部卿
和泉守久我殿被官、

借主布施貞清　錢主高市光清　借主烏丸資任　同細川三郎　錢主下河原高盛　同飯尾種貞　同石井秀安　借主坊城俊名

布施新三郎（貞清）文明十一正十一、依無沙汰、被成返賦候了、

烏丸蓮光院（資任）十七貫文、□大宮大膳大夫、
細川三郎殿

本物返屋　馬場因幡守家也、

本物返屋　山名金吾御被官赤木家也、本鄕三郎方より、

小川坊城殿

密嚴院（うつまさ）敬育首座、

借主桃井政信　錢主馬淵貞顯　借主朝日時長　錢主松梅院　借主曼殊院　錢主大鹽賢惟　借主大草公友　錢主小畑友康　同仁儀直俊　借主細川淡路彦四郎　同大澤彦兵衛尉　錢主堀秀世　借主天竺上野介　錢主相國寺僧承正　借主細川式部少輔　錢主赤松範勢　同山田久宗

聖無動院　卅貫文

桃井彌六（政信）　十五貫文

一馬淵（清泉禪）新左衛門尉貞顯　同日、

朝日孫左衛門尉（時長）　四貫五百文

一松梅院（布野州）　同日、

竹内門跡乙藏主口入、　十三貫六百文

一大鹽（同前）新左衛門尉賢惟　同日、

大草三郎左衛門尉公友　五十貫文　返辨殘、

一小畑（布野州）隼人佑友康　八十六、

佐脇左京亮　十貫文　三石二斗

御牛飼松一　三石二斗

大草三郎左衛門　十五貫文

一仁儀藏人直俊　同日、

淡路彦四郎殿　二貫文

大澤彦兵衛尉　一貫五百文

一堀出雲守秀世（同前）　八廿五、

天竺上野介宿所本物返　七十三貫文

（北少路小川南頰）

一相國寺妙嚴庵納所承正（齋上州）　同日、

細川式部少輔殿　質芬屋地（東西九丈、南北七丈、柳原北頰、）　二貫文

一花王院（松對）　同日、

桃井彌六殿　十五貫文

一赤松次郎範勢代（松豐）　四十貫文

本物返屋、太田垣美作入道宿所

一山田掃部助久宗（松豐）　八廿五、

內藤河內守　十貫文

高志（細川淡路殿被官、）

醍醐執行　四貫六百五十文

吉田（但治部河內後家借物也、吉田ハ申次也、彼後室方へ以前遣賦之間除了、院廳被官、）　十三貫文

赤澤又次郎、本物返屋、　五貫文

富田（秋庭被官、）　四十五貫文　四貫文

以上八十三貫六百五十文

錢主上田定綱　借主進藤長泰

一布野州上田九郎定綱同日、一貫二百文

錢主大木久綱　借主上野勝益

一中掃大木源左衛門尉久綱同日、米廿石餘

同仁木貞長

一同六十七貫文返辨之殘、

以上六貫二百文

一布野州宮内卿淨慶八廿五、廿七貫文

一同北御所御阿禰局雜掌同日、五十貫文

近衛殿進(長泰)藤

彦五郎柳玉泉中間、

同彦五郎女房

越中守加茂御局御內、

上野治部少輔(勝益)殿

仁木右馬助(貞長)殿

和久但馬守、本物返屋、

澤井

一清式大山門本院南谷櫻本同日、三貫五百文

一飯加相國寺常德院瑞曇同日十貫文

一松豐彦八男同日、細河殿中間、五貫文

一布野州瑞旭藏主天龍寺、九二、四貫文

一松豐小原新兵衛尉同日、返辨殘、七貫九百文

一松豐西京西蓮寺九二、十貫文

一同東福寺午枕庵同日、廿五貫廿七文

文明十二年九月十一日

法花院元應寺塔頭、

山科高倉殿後室

富永五郎

葉室淨住寺

松尾社務

高雄金剛院

木谷又三郎大田垣美作被官、

高雄山同寺僧蜜(密)藏院

自應仁二至文明七度々、

錢主岡重長

清泉ゝ
一岡新左衞門尉重長 同日、
二貫文

錢主中尾正久

松豐
一宗珣僧 九五、
廿五貫文

清泉ゝ
一中尾次郎四郎正久 同日、
四十貫文

八貫七百五十文

十貫文

松豐
一小川淨寶寺 九五、

齋大
六貫文

一野村彥三郎秀信 同日、
二貫文

清式大
二貫文

松平
一遠江入道々慶 九十四、

木阿

安栖院 本物返、

中西 今町酒屋、

宗香 誓願寺僧、

新次郎長房 くもり屋、

三郎 椎名中間、

周存 都寺
光明寺順悟
兩人、

松田左京亮

錢主齋藤豐基

借主垣屋平左衞門

借主隱岐信吉

錢主古川正忠

錢主一庭久光

五貫文

同前
一齋藤上野介豐基 同日、
十五貫文

布但入
一住本寺靜圓房 同日、
七貫文

中掃大
一梅忠彌次郎 同日、
三貫九百文

松豐
一古川次郎兵衞尉正忠 九十八、
二貫文

飯加
一高雄密藏院榮濟 九十八、
三百貫文

清式大
一高田亀市丸 同日、
五貫文
十貫文

清泉ゝ
一一庭五郎右衞門尉久光 九廿九、

文明十二年九月十一日

安東因幡守母

垣屋平左衞門 本物返、五辻大宮西頰、

松尾社正禰宜相敦

繪所(宣吉)
隱岐

山本次郎左衞門

總寺ゟ口入本錢之殘也、

高雄總寺

同寺普門院

借主白川資益王　質攝津御園地頭恒富年貢

錢主松平勝親　借主細川氏久　錢主僧瑞筠

錢主伊勢盛頼　同大庭頼近

十五貫文
飯興三左
一簀川常光庵　同日、

五石
清式大
一見藏了尊　山伏同日、

三貫五百文　兩度分、
一貫五百文
同前
一松平大炊助勝親　同日、

廿四貫文　返辨殘、
松對
一瑞筠藏主　同日、

貳貫文
清備
一伊勢掃部助盛頼　九廿九、

九十貫文　三度ニ借用之、
同前
一大庭又三郎頼近　同日、

廿貫文
同前
一寶泉庵輪藏主　同日、

（白川資益王）伯殿　攝州御園地頭恒富年貢ヲ書入、
堀千松　宇治大路被官、
高辻東洞院南頰　風呂三郎、
川緣太郎左衞門　四條坊門町東北頰、
細川（氏久）上州　質券城州下津林、
飯尾（清房）加賀守
妙音寺　今河殿雜掌法音、
珠寶僧　悲田寺、

錢主松波永金　借主畠山政清　錢主御阿禰局　借主武者小路資世

三貫五百文
四貫文
一松波三河入道永金　同日、

八貫文　借書三通、
布野ゝ
一御阿禰局雜掌　十五、

十貫文　文明十一十二、但勘一倍、月次明十借書ニ十ニ云々、
同前
一山徒玉藏證祐　同日、此分一進納之事無引付之由、定泉出狀有之間、定法寺さのへ進賦候了、

七十五貫文
諏左將
一越後屋五郎左衞門　同日、

十貫文
中掃大
一安祥院淳助　十五、

一貫貳百文
一東福寺寶勝院　同日、

百八貫文餘
文明十二年九月十一日

富永駿河入道
同子息左馬助
畠山刑部少輔（政清）殿
烏丸（資世）武者小路殿
（公助）定法寺殿　借書數通あり、此內質券丹波國佐々岐保、
興雲庵調西堂

二石三斗
北岩藏本郷
右衞門太郎　八斗
同所
右衞門三郎
同所
三郎五郎

同
三百文

荒川左馬助長世

錢主齋藤元右　質地丹波春日部大道村　借主和氣富就

如此之處六十貫文之由、長世被掠申云々、可預御糺明之由被申之、合奉行中掃大、同十一二、十、

一齋藤々兵衛尉元右 十十、 齋上州

廿貫文 半分返辨之殘分、 清泉ゝ

一上乘院雜掌 同日、

三貫文

飯加

一臼井三郎左衛門尉久次 同日、

三貫文 七貫文內殘分、 諏左將

一長幸庵等阿十十七、

十貫文 應仁元、

同前

一福壽庵宗愛 比丘尼、同日、

八貫文 千疋內返辨殘、 諏左將

一能世太郎左衛門尉正次十十七、

廿八貫七百文 文明九十二、四千疋ノ內返辨之殘、 布野州

一澤村平左衛門尉定廣 同日、

米三石 文明十二九以前、改借書文明十三、

宇野大和入道 伊豆次郎被官、質券丹波春日部大道村年貢、

甲斐彌八 本錢返地、勘解由少路町ヱ室町之間、

近衛坂殿

伏見藏光庵

藥院 和氣 富就

江州今津三郎左衛門

梅津庄 連判 正永、道泉、左衛門、與四郎、妙祐、

錢主黑田長次　借主西坊城顯長　顯長分一ヲ納メ棄破ス

九貫百文 同前、 諏左將

一柳原麩屋小三郎 同日、

十貫文 文明十二雨度ニ、

一黑田大藏丞長次 同日、

二貫五百文 寬正五二

十二貫文 同年七廿九、

三貫五百文 文明八正廿八、 同前

〔賦引付〕一 （表紙）

〔借主申五分一賦引付 文明十三年、同十六年、（文明十三年八月十二日）

松豐

一西坊城家雜掌 同日、

七貫文 寬正五七、返辨之殘也、

〔賦引付〕二 （表紙）

〔錢主申五分一賦引付 文明十二、同十三年、同十四年、同十五年、同十六年、同十七年、（文明十三年）

布野ゝ

一慶雲院慶玉 十一三、

文明十二年九月十一日

同庄 正永、正善、道泉、右衛門太郎、

柳原大工太郎右衛門

同前

西坊城殿 （顯長）

以前十九貫也、然此內、於七貫者、今度西坊城殿爲借主五分一進納之間除之云々、

親元」

黑田大藏丞

親元」

借主日野政資

文明十二年九月十一日

一貫文 文明十二 四十、

二貫文 同年 九十四、

飯加

一澤野井三郎兵衛尉久家 十二廿五、

五貫五百文

一天得庵性賀書記 同日、

五貫文 文明十二 八十六、

二貫文 文明十一 十廿一、

布但入

一本能寺乘隆坊 同日、

十五貫文 文明十二 八十四、

飯三右

一相國寺法住院等湛監寺 同日、

借主下條政信

三貫文 文明十一 十五、

飯加

一柳殿雜掌 同日、

借主仁和寺南御所 要脚 錢主內藤氏久

廿八貫文 憙仁元、南御所御要脚云々、御室御門跡雜掌

中掃大

一內藤隼人佑氏久 ～ 十二廿五、

借主園基有

三貫文 文明十一 十一、

吉田刑部少輔兼冬

借主吉田兼冬

借主醍醐妙法院

一清泉禪清杭菊才丸 同日、

卅貫文

貳貫文

五貫文

以上

一大德院妙金書記 清式大 同日、

百廿貫文 文正元 四、

一大德院妙金書記 清式大 同日、

百十三貫文 文正元 十月十 一月兩度二、

有子細也、

醍醐妙法院

〔親元日記〕下

一逸見三郎國清 清式大 ～（文明十五年）五廿八、

平尾

三宅窪

茨木孫右衞門

醍醐妙法院 借主醍醐妙法院 訴訟 逸見國清ノ下

醍醐妙法院借錢事、本錢主爲大德院妙金書記之間、彼仁就御法、令進納五分一、申給御奉書之處、傳借之間、不知彼書記名之由被申歟、然者任亡父駿河入道宗見仁契約狀之旨、本錢二百卅三貫文、本利相當之分、以質券之地

文明十二年九月十一日

丹波國朝來村上方、若州末野村年貢內、可引給之、委細者院家被官筑後令存知云々、

〔賦引付〕二

（表紙）「錢主申五分一賦引付　文明十二、同十三年、同十四年、同十五年、同十六年、同十七年、親元」

一錢主申五分一賦引付　文明十二年、同十三年、同十四年、同十五年、同十六年、同十七年、親元」
（文明十三年十二月二十五日）
（同日、）

一益田但馬入道昌音　布野州　栗屋　貳十貫文

一藥師寺備後守元長　布野州　文明十四、六、七、　淵丶　五百四十貳貫文　連々、

四十石　連々、　香西孫右衞門尉

質券攝州山田村當知行云々　十九、

一三井寺檀林院有延〻——七十九、　諏信　住心院殿　但彼被官式部法眼借書也、　二貫文　文明十二、六、晦、

二貫文　同年九、八、

一安富四郎右衞門尉元信〻——閏七、五、　布野州

勸修寺門跡　就加州郡家庄代官職、連々秘計分、　千貫文

質地丹波朝來村若狹末野村　錢主藥師寺元長　借主香西孫右衞門　質地攝津山田村　錢主園城寺檀林院有延　錢主安富元信　借主勸修寺

一伊勢國朝明郡洪恩寺雜掌〻——九四、　諏信　四石貳斗　文明十、十一、廿九、　橫瀨彌三郎

壹石　同年十、二十三、　在國　飯加　疋田又三郎

一鳩津左京亮代桑原修理進〻——九五、

五貫文　文明十、六月、　御室

一遠山四郎左衞門尉重綱　同日、　諏信

拾貫文　文正元、卯三、　廬山寺　納所宗光　住持袖判、　上田

四貫文　文正二、晦、　河村

一中村帶刀守治〻——九十一、　松豐

九十四貫文　借書三通、　桃井殿　懸加州田上鄉借用、

一矢野丹後守爲次〻——十二、　諏信

拾貫文　寬正四、二、　小笠原備前守政清母儀　實參城州寺田鄉隱田

拾貫文　同五年七、

一伊勢國山田窪倉大夫弘眞〻——十廿、　諏信　（飯波秀忠）　祭主

三百六拾壹貫文　注文有、

錢主遠山重綱　借主廬山寺　錢主中村守治　加賀田上鄉　錢主矢野爲次　借主小笠原政清母　實地城州寺田鄉隱田　錢主窪倉弘眞　借主藤波秀忠

文明十二年九月十一日

一矢部掃部助定時〻——十一、十四、　松豐　下笠
　拾貳貫文　文明元、　作州光明寺中坊
一林與次郎安弘〻——十一十二、　諏信
　拾貫文　文明十二三、　竹田庄彌太郎、七郎次郎、兵庫、帶刀、與三郎、小太郎、又次郎、藤次、七郎、
　米三石
　以上借書三通、口入中島五郎兵衞尉、
一大原承榮僧　同日、　同前　北山靈鷲寺常住
　三貫五百文　寬正七正十一、
一日野殿雜掌〻——十二六、　松豐
　卅貫文　文明六八廿九、　藤中納言殿（高倉永繼）
一千本永久庵　同日、　諏信
　十貫文　寬正五五二、　相國寺法住院等休侍者　今清珠庵住持也、
一田那部又次郎高能〻——十二十一、　同前
　八十七貫文　文明十三、　本所法性寺三位殿（爲保）　江州朝妻庄十五條鄉
一安東左京亮重泰〻——十二十三、　布野州

一卅貫文　文明七、十貫文內返辨殘、同名平次助泰　清式大　淵田
一南禪寺雲臥庵掬西堂雜掌　同日、
　廿五貫文　寬正五、度々秘計分、　松對　御大工新左衞門尉宗行
一川口雅樂助依好〻——十二廿六、　上田
　貳貫文　文明七六十三、　二尊院臨崇
　六貫文　同九年正廿五、　同前
　五貫九百文　同十二年六廿九、　同前
　以上
一南禪寺東禪院英端首座　常住錢奉行云々、文明十五三廿、　飯與三左　沼田殿
　五貫文　寬正七二十三、　同寺常牧庵聖育侍者
一同前　同日、　同前　片岡
　五貫文　應仁元六十六、　清泉禪
一眞光坊承祐〻——四十三、　榎坊雲升
　壹貫五百文　文明十二正廿四、
　壹貫四百五十文　同年三十六、　前河坊榮俊
文明十二年九月十一日

質地山城久世莊安住名
錢主清水茂吉
借主重永之直

四貫五百八十八文同年六八、治部卿有賀
諏信
一足立次郎左衛門尉後家〻——四十三、上田
其時錢主者父隱岐入道也、
拾貫文文正元十二廿、
但且返辨之殘分七貫餘云々、
久我殿候人近江守但其時借主者父刑部卿、
同前
一清水新右衛門尉茂吉〻——五十六、杉江
懸久世庄內安住名年貢
五貫文文正元四朔、攝津殿被官
重永宮內少輔之直
米三石
同前
一南禪寺濟北院納所謹誘〻——六十八、俊明
廿貫文文明十一三廿七、岩栖院
十貫文同年五十六、同前
委細本賦引付ニ記之、

〔親元日記〕下
諏信
一南禪寺濟北院納所謹誘〻(文明十五年)——六十八、
以院主一芳和尙口入、岩栖院ゟ借進分、文明十一三廿七借書、靈香藏主、靈珠首座、
兩判、

文明十一五十六、借書、靈珠一判、
以上分一方引付ニ可有之、(ママ)已却畢、

〔賦引付〕二
(表紙)「錢主申五分一賦引付　文明十二、同十三年、同十四、同十五年、同十六年、同十七年、親元」
諏信
一清水新右衛門尉茂吉〻(文明十五年)——六廿五日、
拾八石返辨之殘也、下河原宗八高盛亡父周防時々舊借云々、
同同前同日、
八貫文寬正二三八、盧山寺納所宗勤
七貫九百文同年五十九、同前此一通者住持中濡袖判、
清式大
一河田左近尉重綱〻——七廿六、借主江志盛高
卅貫文寬正五、江志修理進盛高
質券備中國縣主庄門田村
諏信
一今井孫三郎滿俊〻——八十六、錢主河田重綱
三貫文文明九四廿八、借主下河原高盛
諏信
一井上中務丞後家〻——八十九、八條住人田中式部同彌次郎
八條住人此外左藤三郎

文明十二年九月十一日　蟲次
河村
五六九

錢主程島數經麹代

七貫文 文明五、
松豐
一程島三郎左衞門尉數經同日、
百拾四貫七百廿文 爲麹代連々、
諏信
一清水新右衞門尉茂吉〻——九廿二、
五拾六貫五百文餘
米百六十石
諏信 文明二同三、
一連明房清禪〻——十一四、
貳貫貳百文 文明九 但米壹石代五十五、
同前
一中島五郎三郎吉久 同日、
壹貫六百四十文 文明十一二、
六貫四百文 文明十二六一、
貳貫五百文 文明十一十二廿九、
五貫文 文明十四一、
以上
同前
一清水新三郎兼茂〻——十二七、

錢主中島吉久

錢主清水兼茂

一色兵部大輔殿
河井
八幡境内在所森
治部左衞門
使節
西勝坊榮慶
下笠
聖護院北坂
次郎
竹田三郎五郎
同左衞門次郎
川乘寺
飯村貞次
同
南又四郎兼貞
梅津
孫三郎
奧三郎
西田太郎三郎

錢主小山久吉

土一揆借書ヲ奪取スト號ス

借主栗屋賢長

質地若狹和田莊

質地攝津澤良木村時末名

貳貫文 應仁元 十二、
同前
一大德院安永書記 日付同前、
七貫文 文明十一七十三、八廿、聚祥院 九、四ヶ度分、全材藏主
飯濃
一小山次郎右衞門尉久吉 文明十六六廿九、
八貫五百文 文明十一三、
松左大
一清泰寺雜掌〻——十廿二、
貳拾貫文 寬正六一六、
五貫文 同前十二七、
以上若州和田庄年貢可返辨云々、
松對
一聖護院門跡候人金阿〻——十廿五、
拾貫文 寬正六四廿二、
理覺院
質物攝州澤良木村內時末名年貢、
同前
一良椿僧〻——十廿八、
三貫文 文明三十一十三、
文明十二年九月十一日

慈光院納所範授
上田
同十二年號土一揆奪取借書云々、
以壬生北八段田內二段半年貢可返辨之由約諾、
彈正殿
粟屋又五郎賢長
今八息長壽丸
陰山
寶地庵住持松藏主
淵

錢主小畑友康借主藥師寺範光
小槻長興近江苗鹿村代官自子山城守千阿
小早川元平
錢主隨法庵本物返治部國通寡婦

彼借書舍兄良德方より良椿ニ譲與云々、
諏信
一小畑隼人佑友康 文明十七十十五、
本錢 八貫文 文明十一九三、
諏信
一光聚院捻玖首座 文明十七九廿三、
本錢 貳貫文 文明十一三廿九、
聯輝
梵才藏主 蟋次

〔賦引付〕一

(表紙)「借主申五分一賦引付 文明十三年八月同十四年、同十五年、同十六年、同十七年、同十八年、親元」

一官長者長與、――(文明十三)八四、
布野州
知行分江州苗鹿村代官白子山城守ニ借物事、
清泉禪
一千阿、――八六、
細川殿中間彦八ニ借用錢廿五貫文事、可進納分一之由申、
松對
一小早河掃部助元平、――八十一、
聖壽寺內隨法庵事、拾五貫文本物返、
清泉州
一治部河內守國通後家、――八十一、
四十七貫文之內

錢主畠山政清
錢主湯河政春
政春政清所領紀伊濱仲莊代官トナル

五貫文
廿二貫文
九貫文 本物返
十一貫文
飯加
一畠山刑部政清代 同日、(文明十三年八月十一日)
拾貫文
同前「(朱書)二貫文進納云々、」
一同前
貳百廿六貫文

〔親元日記別錄〕下

松豐
一湯河新庄司政春 文明十三二廿六、
畠山刑部少輔殿 政清、借錢事、就彼契約、紀州濱仲庄代官職致祕計候處、
違變代官、要脚無返辨云々、
松豐 (文明十三年十月十七日)
一湯川新庄司政春 同日、
就畠山刑部少輔政清知行分紀州濱仲庄代官職事、借進分三百六十五
貫文也、然二百廿六貫文之內、刑部被掠申云々、可被遂算用之由申、

高市掃部 文明十八、
慶藏庵 直全、同十一十二、
山田掃部助 赤松又次郎被官、 同年十二、
上月葉山 同十二年六月、
松波三川
湯河新庄司 文明九年、同十年、

千秋政範
舟橋宗賢
島田種直
丹波定基

〔賦引付〕 一

（表紙）「借主申五分一賦引付 文明十三年、同十六年、同十七年、同十八年、」

一千秋刑部少輔政範 布野州 同日、（文明十三年八月十日）
拾五貫文

一清三位宗賢 清泉禪 同日、
七十四貫文此内
十貫東福同聚院
五貫又八
五貫 山田赤松廷尉被官、
一院廳刑部大輔種直 清泉禪 ～～ 八十一、
九十六貫六百文此内
七十八貫六百 文明十一、山田掃部
十八貫 同年、 慶藏庵
一典藥頭定基 清泉禪 同日、
廿五貫文内十六貫五百 文明十二、三、御物シ大藏卿
但千疋返辨

十貫 同正悟藏主
十貫 貞藏主
一井貫文 嵯峨嵯原十四ヶ年寛正二、三年、契約、
林又七

六石　三石二斗　小畑隼人
一石　興道寺
一貫三百　仁儀

松豊
一大草三郎左衛門尉公友〳〵——八十一、
上様御中間藤左衛門 文明十一、
五十四貫文

松對
一三寶院兵部卿宮千代丸 八十六、
四十二貫文餘 連々返 清泉禪 辨殘、
一菊亭殿 同日、
八木筑後守
十六貫三百文

本庄四郎兵衛尉 日野殿御內、
十五貫文

中掃大
一荒川左馬助長世 同日、
周琥藏主 勝定院、
廿貫文 文明九、同十年、 布野州
一松田左衛門大夫長秀 同日、
越後屋
十貫文
五貫文
五貫文

奈良屋小太郎
龍安寺前住口入
峅首座 普廣院、

五貫文
五貫文
十貫文
以上四十貫文

清式大 (俊名)
一小川坊城殿 同日、
五十貫文
卅貫文
廿貫文
十貫文
六貫文
以上百廿(十カ)六貫文

中掃大
一修理大夫俊通 同日、
二貫文 返辨殘、

清式大 (脩基)
一理覺院僧正雜掌 同日、
百貫文

文明十二年九月十一日

坊城俊名
富小路俊通
理覺院尊基

牧田 山名殿被官、
山田 赤松殿、
今井八郎右衛門 細川殿被官、

野田次郎左衛門尉 典厩被官、
東前源右衛門尉 日野殿、
大角太郎左衛門尉 平野神主被官、
修理大夫(富小路俊通) 日野殿、
彦五郎 津殿被官、

(物)
掃嚴坊

木幡森坊

文明十二年九月十一日

一朝日三郎 清泉禪 同日、
　十貫文 文明十一九、
一等闡 松豐 都寺 同日、
　七貫文 文明十一、
一紹盛 絕盛 首座 同日、
　廿貫文
一齋藤孫四郎基紀 齋上州 ——八十六、
　二貫文
一眞下太郎左衞門尉重廣 中掃大 同日、
　四十貫文
一安東因幡守高泰 布野州 同日、
　三貫五百文 (返辨殘) 同前、
　四貫文

越後屋五郎左衞門
宗禪 今景益藏主、
芳演 監寺
楠葉藏光庵口入、紹豐書記ニ借之、
山田掃部助
日輪坊
敎光坊 西塔北谷、
寶持寺
文堅藏主

一本阿彌五郎 飯加 同日、
　四貫文
一高兵部少輔入道照阿 齋藤大藏丞 同日、
　廿貫文
　五貫文 返辨殘、
　三貫文
　以上
一大館禮部重信代 清式大 八十六、
　米廿九石壹斗一升餘
一松梅院 布野州 同日、
　廿貫文
一千阿 清泉禪 同日、
　十三貫文
一飯尾加賀守清房 中掃大 同日、
　十貫文 米代、

文明十二年九月十一日

本阿彌五郎
錢主福井康信
高照阿
大館重信
松梅院
飯尾清房

福井主計允康信
瑞應寺 本和監寺、
瑞福寺 富森、
悅侍者 德芳軒、
寺井四郎兵衞尉
願勝寺 作州吉野保代官望時、
中村次郎左衞門
柳殿

五貫文　尾崎民部丞
三貫文　京藏主祕計
五貫文　同人
以上

一鴨社務三位祐宣（布野州）同日、　梨木祐宣
五貫文

一布施但馬入道遲秀（清泉禪）同日、　布施遲秀
五貫文　貳貫文賞券有之、

一布施新三郎（清泉禪）（貞清）八十六、　布施貞清
十貫文

一古志彦左衛門言綱（布野州）八廿五、　古志言綱
十一貫文　本物返付（安居院大宮西頬、）

一大草三郎左衛門尉公友（松豊）同日、　大草公友
三百貫文　長谷河善左衛門尉駿州田尻鄉入之、

百卅貫文　山門西塔公人乙承仕
卅貫文　丸七郎左衛門尉
以上四百六十貫文

一石橋殿代（布野州）同日、　石橋某
廿貫文（文明五、）

一同（同日、）　十念寺永順
卅貫文　江州大萱先代官常德院、庄主善監寺祕計、

一十念寺住持永順（中掃大）同日、　十念寺永順
十三貫文　大河原彈正左衛門尉（作州綾部鄉代官、）
廿三貫文

一井上後家（細川殿）　伊勢盛相
十八貫文（返辨、）　シヨク藏主
（飯加但文明十三四遣造替借書、）

一伊勢平三左衛門尉盛相（永昌、宗弘、專稱、隨芳、）八廿五、
百卅貫文（返辨、殘、）　松平遠江入道
二百貫文　三宅越中守
十貫文　山崎源兵衛尉

五貫文　馬屋原
以上
一西京太郎五郎男（清泉禪）同日、
二石五斗　小畠（松梅院）
一前田次郎左衞門尉長高（布但入）同日、
十貫文　小室彥左衞門
五貫文　山田藤次郎
三石　飯田周防守（清泉禪）
一木辻次郎右衞門男同日、（北野與三郎一色殿被官、）
五貫文
一乘藏定俊（清泉禪）八廿五、
四貫文　定水庵（質物重書、）
一伊賀右京亮光秀（布野州）同日、
五十貫文　判門田（本物返屋、）
一鹽冶五郎左衞門尉秀清（飯加）同日、

前田長高
伊賀光秀
鹽冶秀清

六貫文　福井主計允
一朝日孫左衞門尉（松豐時長）同日、
三貫文　大輔（法し、）
六貫文　女房阿茶
一本鄕與三郎政泰（布野州）同日、
十貫文　相國慶雲院
十貫文　中山五郎左衞門（細川殿被官、）
廿貫文　近藤彌六（さけ田殿、）
廿貫文
九貫文　寺町太郎三郎（同前）、
一飯尾加賀四郎（同前）同日、
七石　朽木信乃守（貞高）
一山科殿（言國）八廿五、
十貫文　大澤（河嶋鄕內知行支證質物、）
一小田太郎氏知（中掃大）同日、

朝日時長
本鄕政泰
飯尾爲輔
錢主朽木貞高
山科言國
小田氏知

文明十二年九月十一日

四貫八百文　安岡　入鹽小路町ヒ室町間地子、
一色政具
松豐（政具）
一一色次郎代　同日、
五十五貫八百文　各返辨之殘、　眞野　越中　西川四郎左衞門　越中　潤傳庵
布野州　越中　圓光坊　越後屋
一不動院　同日、
四十貫文
同　筑紫屋
一圓乘院　同日、
廿貫文　返辨殘、
清泉禪　同前
一富家主計允則次　同日、
富家則次
十貫文
清泉禪　布屋彌三　四條坊門町、
一富家入道兼次　八廿五、
同僉次
四貫文　光林坊　六條法花堂、
十貫文　北野　米屋林
同
一花臺院　同日、
十貫文
被官金阿

三貫文　井上　積善院被官、
貳貫文　返辨殘、　鏡順　御承仕、
二貫文　木幡執行
一飯加　曾我上野介教助　同日、
曾我教助
七十一貫文　玉井藤左衞門　知行若州三重村代官、
錢主玉井長貞

〔親元日記別錄〕下
諏左將
一玉井藤左藤門尉長貞　（文明十三年）十二廿五、
曾我上野介教助方借錢事、於去年九月德政已前分者不及力、至九月以後分者、不及五分一御沙汰之上者、可被棄破事、無其謂之由申、
合飯加　文明十四四三、
五分一チ納メズバ棄破セラレン

〔賦引付〕一
（表紙）
「借主申五分一賦引付　文明十三年八月、同十四年、同十五年、同十六年、同十七年、同十八年、」
布野ゝ　（文明十三年八月二十五日）
一北尾入道々安　同日、
北尾道安
二石　東福　春喜庵幸藏主
清泉ゝ
一大館刑部政重代　同日、
大館政重

百十貫文
六十九貫文
一桃井（布野ゝ）弥六政信代 八廿五、
二貫文
二貫文
卅五貫文
五貫文
廿一貫文
一荒川（中掃ゝ）左馬助長世 同日、
卅貫文
一丸（同）七郎左衛門尉孝連 同日、
十貫文
十貫文
一山田（同）與三郎信忠 同日、
五貫文

桃井政信
荒川長世
丸孝連
錢主町野敏康
山田信忠

被官 山本與三左衛門
同 山吉備中守

智尊藏主 大德院、
舜政坊 坂本、
越後屋五郎左衛門
同女房茶々
彦八 細河殿中間、

東福 法勝院

寺井四郎兵衛尉
町野（敏康）左近將監

寺井

五貫文
一市原（布野ゝ）又六國春 平野社司 同日、
十貫文 借書二通、
一荒川（松左大）治部少輔豊隆 八廿五、
廿貫文
一善本（松豊）藏主 同日、
十三貫文
一中村（清泉ゝ）六郎繼友 九二、
二貫五百文 返殘、
三貫文
一陶山（同前）又次郎宗兼 同日、
十貫文
一新開（布但入）彈正左衛門尉元貫 同日、
十貫文
一甲斐（布野ゝ）孫右衛門尉久貞 同日、

文明十二年九月十一日

市原國春
荒川豊隆
善本
中村繼友
陶山宗兼
新開元貫
甲斐久貞

南御所 慶隆房 本物返屋家主、
今小路四郎次郎
板倉四郎左衛門 越中安部郷、年紀沽却、
細川殿 新名與三右衛門 宛加州忌浪郷、
柳原 岡野井三郎左衛門
同
被官 山本右京進
河島民部丞

廣隆寺應官房賢
安富長盛
本鄉政泰
隱岐信吉
一色源光
淺井亮政

二貫六百文
一廣隆寺在廳房賢同日、
飯與三左
十貫文
一安富與三左衛門尉長盛九二、
清泉ゝ
廿貫文
十三貫文
一本鄉與三郎政泰同日、
布野ゝ
十貫文
廿貫文
一隱岐越後守信吉同日、
松豐
八貫文
一聖光院九五、
中掃大
十五貫文
一一色伊與入道源光代同日、
江州南志賀内
五貫文

坂井新右衛門尉
山伏見藏房錦小路室町、
南御所
壽泉房取次
同前
慶雲院
中津海備前守
彌次郎むめゝ、
江州南志賀内
正與寺下司源三
江州北郡淺井(養政)備前守

滿井忠康
渡邊俊清
粮井久次
小笠原政清
松尾社禰宜相賀

一同前同日、
十石
渡邊監物江州淺井郡速水庄名主、
齊大
一滿井忠康同日、
二貫文
山內太郎左衛門尉(新波義良)治部大輔殿御被官、
布野州
一渡邊備後守俊清九五、
六石
御承仕鏡順
同前
一粮井三郎左衛門尉久次同日、
十五貫文
道仙僧
三貫文
高屋三郎左衛門
同前
一六郎四郎新兵衛督殿御局御中間、九十四、
二貫二百六十文
大鹽
同前
一小笠原備前守政清同日、
百六貫文
常德院本壽號瑞應寺、
四十五貫文
清泉禪
被官矢野丹後守懸富野鄉懸寺田內隱田
一松尾社權禰宜相賀同日、

文明十二年九月十一日

三貫文　文都寺
七石　四宮四郎（細河殿被官、）
一同前（同日、）
十五貫文　嵯峨禪栖院
一竹内（布野州）御門跡（同日、）
廿二貫五百文　普廣院善盛寺
一小山（清泉ヽ）修理亮定祐　九十四、
九貫八百七十七文　北小路大宮酒屋
一松尾社檪谷祝相秀（同前）　大西左衛門太郎後家
五貫文　如意庵（唐橋西庄、）
三石　慶首座（建仁寺、）
二貫文　同人
二貫文　山崎倉帶刀入道行心
二貫文　竹屋倉藤五郎（四條烏丸、）
二貫文　家儀（日向守山名殿被官、）
二貫文

曼殊院
小山定祐
松尾社檪谷祝相秀

一宇治（松豊）小川四郎左衛門尉光則（同日、）
壹貫文　眞木嶋倉中西
一平岡（中掃大）加賀增秀（同日、）
四貫文（文明十二九三、）　播州坂本今倉後家

〔親元日記別錄〕（下）

一大光明寺（清泉ヽ）承欣書記（文明十三年十一三、）
岡崎殿御披官平賀加賀增秀、以去年九月廿二日借錢四貫文、號德政已前（九月三日、）借物、申給五分一賦云々、可預御糺明云々、

〔賦引付〕（表紙）一

〔借主申五分一賦引付（文明十三年八月、同十四年、同十五年、同十六年、同十七年、同十八年、）（文明十三年九月十四日）　親元〕
一山東下野入道常安（松豊）　同日、
卅八貫文　中村九郎左衛門（細河殿被官、）

〔親元日記別錄〕（下）

一中村（清泉ヽ）九郎左衛門尉定家（文明十三年十二月廿五日）　同日、
山東下野入道常安ニ預置料足事、號借錢進納五分一云々、驚入者也、可

中村定家預クル所ノ料足ヲ借錢ト號ス

小川光則
平岡增秀
山東常安

預糺明之由申、

〔賦引付〕一

（表紙）「借主申五分一賦引付　文明十三年八月、同十四年、同十五年、同十六年、同十七年、同十八年、　親元」

松豐 一安井上座宗胤 同日、（文明十四年九月十四日）

十貫文

松豐 一長尾法眼宗遍 九十四、

八貫文 返辨 殘、

同 一花藏院法印澄賢 同日、

二貫八百文

清泉く 一松藏實勝 同日、

三貫文

飯加 一一色彌五郎代 同日、

五貫文

十貫文

十貫文

長尾宗遍

花藏院澄賢

實勝

一色彌五郎

大曾禰山名（政之）六郎殿被官、

金臺寺納所融正

大曾禰山名六郎殿被官、

正意房 坂本、

午枕庵 東福、

重藏主 相國法住院、

祐乘坊 醫師、

彌郡吉時

花山院政長

伊勢盛時

小林氏職

筒井孫太郎

質券丹波拜師莊武正名年貢

密嚴院敬珉

松豐 一彌郡丹後守吉時 同日、能州住、

六十五貫文 返辨 殘、

飯加 一次郎左衞門男 淨土寺住、同日、

二貫文 返辨 殘、

松豐 一花山院家雜掌 九十八、

七十貫文

清泉く 一伊勢新九郎盛時 同日、

十六貫文 返辨 殘、

清泉く 一小林山城守氏職 九十八、新九郎殿被官、

卅三貫文 返辨之 殘、

同前 一筒井孫太郎 同日、但父孫右衞門尉元次借物也、

七十五貫文

質券丹波國拜師庄武正名年貢

中掃大 一密嚴院住持敬珉書記 同日、

三石四斗

文明十二年九月十一日

庄伊豆守被官渡部帶刀丞

錢主同前

津田與次

中村次郎左衞門 細河殿被官、

三貫文

一隨心院門跡雜掌（清泉ヽ）同日、
五貫文（二百貫借物返辨之殘、）

一淨土寺門跡奥坊宗範（松對）同日、
十石

三貫文

一禪双（常盤住僧、）
午枕庵（賀券播州三方東庄年貢、）

一立入貞久（賀券越中國城河原年貢、）
十貫文

一同前

一山東三郎右衞門尉重堅（松豊）九廿二、
廿四貫五百文

一帶刀宮内丞貞均（同）同日、
一貫二百文

一豊島五郎
八貫文

一關豊前入道
一北尾入道々安（布野ヽ）九廿一、
七貫文（德政已前借錢加利平、德政以後書改借書、）

一澤村平左衞門（同前）
一新兵衞督殿局代（同前）九廿九、
七貫文

一細川掃部頭殿

一松尾社月讀禰宜重俊（飯與三左）同日、
十六貫六百文

三石

一伊勢掃部助盛賴（清備）十五、
十一貫五百六十文

五度ニ借用之、文明十二七月已前也、但同十二十六遣作替借狀云々、

一赤尾三郎右衞門尉清吉（諏左將）同日、
十一貫文

二石

一町中務少輔行長（松豊）同日、
十三貫文（返辨殘、）

一前田兵庫助（布野州）十五、
十貫文

一十川七郎左衞門尉重繼（布但入）同日、
七貫文

文明十二年九月十一日

一文都寺性嚴寺
阿茶女（室町御倉之跡、）

一澤村平左衞門（細倉、）
同

三室戶下司（城州羽戶院內黑田年貢ヲ入置名代伯父兵部大輔借物廿三貫文內也、）

左野彌八

寺井四郎兵衞尉（書入屋地々子、）

松尾社月讀禰宜重俊
伊勢盛賴
赤尾清吉
町行長（賀山城羽戶院黑田年貢）
前田兵庫助
十川重繼

一淨土寺門跡雜掌 同日、
松對
八貫文

十石

一西村八郎 同日、
飯加

十貫文

一松原孫太郎 十十七、
松豐

貳石六斗

一十川七郎左衞門尉重繼 同日、
布但入

八貫文 文明十二四廿八、
作替同十三三廿、

一正實 布野、泰運

四十貫文 文明五、
返辨之殘、

一常在光寺雜掌 十十七、
中掃大

卅貫文 就當寺領加州二ヶ村代官職、
飯加

一嵯峨雲松院敬育 文明十一、

二貫文

立入貞久 江州栗本郡住人、

同名源左衞門妻阿茶
質券泉州土丸年貢、

小畠 松梅院被官、

彭藏主 梅津長福寺、

日野殿 山形三郎兵衞取次、
但連々返進云々、

雲門庵宗保都寺

淨土寺

西村八郎

質券和泉
土丸年貢

松原孫太
郎

鏡主日野
政資

常在光寺

雲松院敬
育

六貫八百文
清泉禪

一大祥院雜掌 十廿、

拾貫文 加州御寺領地下人齋賀ニ御借用、文明十、就譴責、口入永誠西堂
方より遣質物云々、

一宇治大路越中守經平 十一三、
中掃大

十石 文明二卯、

一安東因幡守高泰 十十七、
布野州

四十五貫文
九十貫內返辨殘、

同前

一同人 十廿、

五石

一本郷千代松丸 同日、
飯加

四十六貫文
父三郎國泰借用七十六貫內返辨之殘云々、

一賀茂神宮寺供僧祐譽 同日、
清泉、

三貫五百文

一赤佐左京亮秀久 同日、
同前

文明十二年九月十一日

大祥院

宇治大路
經平
質券近江
宮部道賢
跡

安東高泰

本郷千代
松丸

賀茂神宮
寺祐譽

赤佐秀久

顯副寺

松平遠江入道

岸五郎左衞門 毛利因幡被官、

澤田飛驒入道 逸見被官、

米屋兵衞三郎

安養寺堀入
質券江州北郡
宮部道賢
跡年貢、

文明十二年九月十一日

五貫文　布野州
一織田大和守敏定代同日、

卅貫文　諏左將
一林五郎左衞門尉元盛同日、

貳貫文　中掃大
一清備中守秀數十一三、

八貫文　文明七十六、　清泉禪
一盧山寺雜掌

七貫文　文明七十六、　諏左將
一平野神人市原若狹守國次同日、

壹石四斗本、　文明十一十、
三貫五百文同、

同前
一平野神人五郎同日、

三石　文明十二三月、　諏左將
一今川下總守元家十二廿五、

八幡森瑞正庵

私宅本物返　勘解由小路室町青蓮院殿御座、
依藤豐後守後家

珠龍侍者　備中國荏原政所、
澤井將監　山名殿被官、

北野今小路四郎次郎
同前

小畠　松梅院被官、

十石　文明十、
天竺上野介殿
質券丹波富貴庄內知行分

清泉ヽ　入江殿祇候、
一誓心房

五條油小路法藏寺行阿ニ借用、文正元之事、一倍預狀所望之間遣之、爲借物之上者、可預御成敗云々、

中掃大
一伯二位家雜掌同日、

貳貫文

十二貫文

清泉ヽ
一中野新九郎永次同日、

五貫文　文明十一、　松左大
一善峯蓮花壽院雜掌同日、

五貫文

布野州
一伊賀右京亮光秀同日、

三貫文　文明十二四、　松豐
一朝日孫左衞門尉時長同日、

文明十二年九月十一日

川匂　日野殿御被官、
高屋四郎左衞門　廣福院御被官、

小林　山名治部少輔殿被官、

山崎信善谷西坊

鷹尾新右衞門

文明十二年九月十一日

四貫五百文　錢主集證

同前
一相國寺雲頂院眞菊首座同日、

十貫文　五千疋內返辨之殘、　集證西堂
十貫文　二千疋內返辨之殘、　眞厚首座
四貫文　千疋之內返辨之殘、　集鶴監寺
四貫文　千疋之內返辨之殘、　集固監寺

以上廿八貫文

布野州
一勝智院雜掌同日、十二廿五、　勝智院

卅貫文　文明七、　德芳庵

清泉禪
一周鷹同日、

本坊造營之時、周琛首座借用之、質券丹波國上林庄內松尾名年貢、

五貫文　亂前借物殘、　勝定院周彙首座　質物寺領重書

同
一同人同日、

十貫文　同前、但老母借物也、　錢主同　質物屋地重書

五貫文　文明十二正本錢十貫文、利平相殘分云々、　大隅

清泉ヽ
一菊亭家雜掌ヽ——十二廿五、

十貫文　神子畑彥左衞門尉幸盛

齋上州
一石井雅樂助親治同日、

壹貫文　文明八、　正覺庵　河原口道場、

齋大
一齋藤兵庫允基友同日、

八貫文　南禪寺聰都寺

書加利平雖遣預狀、以因州知行年貢且返辨相殘分云々、

中掃大
一常在光寺雜掌同日、

百九貫文　加州二ヶ村代官　宗保都寺　南禪寺雲門庵、
百五十貫文內四十一貫返辨之殘、

布野州
一水無瀨家雜掌同日、

十三貫文　文明十一、十一　山崎實相坊

五貫文　文明十一、十二、　山崎近聽軒

清泉禪
一大館兵部少輔房清代同日、

四十石　文明十一、十一、　榎並三郎左衞門

松豐
一寺家仲緣ヽ——十二廿五、

文明十二年九月十一日

菊亭教季　錢主神子畑幸盛　石井親治　齋藤基友　水無瀨季兼　大館房清

小笠原政清
粟飯原胤慶

壹貫四百八十文　順泉
文明十二正十六、
清式大
一市原野左衞門太郎男　同日、
貳貫五百文　岩井小河、
文明十
布野州
一小笠原備前守政清〻――九八、
貳百貳拾貳貫文餘　矢野丹後守
被官人
米百四拾參石餘
懸城州富野郷
連々借用之、
清泉禪
一左衞門五郎男　三上民部被官也、
文明十四六七、
貳貫文　錢主五郎次郎　孫左
文明十二
七八月、
嶋津被官
三條坊門東洞院、
齋上州
一粟飯原下總守胤慶〻――六十七、
一貫五百文　田口彌四郎
文明十一
返殘、
入質參賀茂原田内一段、
一貫文　同十二年
三月、
入同前一段、
布野州
一花頂門跡雜掌〻――七十一、
花園
松山庵堯藏主、
車路松鶴、
二十貫文　兩人
文明六十二
借兩通、

〔親元日記別錄〕下

清式部
一松山軒等輩首座幷松鶴〻――同日、
（文明十四年十月十七日）

花園院家借錢事、以大津山上之年貢、可有返辨之由約諾候處、花頂門跡借物被申給五分一奉書云々、可有御糺明云々、

〔賦引付〕一

（表紙）
〔借主申五分一賦引付　文明十三年八月、同十四年、同十五年、同十六年、同十七年、同十八年、親元〕

清泉禪
一大舘刑部代　政重（文明十四年）〻――後七十九、
四十貫文　文正元
十二、
十五貫文　同前、
佛照寺　攝州、
攝州溝杭菊才
中掃大
一富小路修理大夫俊通〻――八九、
十貫文　廿貫文内返辨殘、
口入人
江近江守　實券越中國東條三ヶ村、但於所々者不知行、
清泉禪
一三井寺花園房伊〻――十廿、
五貫文　文明十年、
孫左
祇園鳥井坊ニ借用
飯三右
一田中元正〻――十一四、
壹貫五百文　水走次郎左衞門尉
文明十一十二、三貫五百文借用、一倍七貫内同十三、且四貫文返辨之、相殘三貫文之内本錢壹貫五百文也、
布野州
一籾井丹後守賢弘　同日、
勝藏
同前

伊佐孝綱　安東親泰　質券丹波中村

文明十二年九月十一日

廿貫文（文正六、十二廿、）諏信　一伊佐出雲守孝綱十二三、

貳貫文　文明十二、　諏信　一治部卿法眼泰溫〻——十二十三、

招慶院

五貫文（寛正二、十貫文内返辨之殘、）松對　一北白川正法寺次郎三郎同日、

壹貫五百文　文明十一十一、（鑿どう）〳〵　諏信　一安東薩摩守親泰〻——十四二五、

油屋右衞門

拾貫文　諏信　一長谷三位法眼玄精　文明十五六廿一、

比丘尼勢首座

三貫五百文（文明十二七、本錢五貫文且返辨之殘、）地藏院東塔南谷、

壹貫文　同月、　同前

以上　但無申狀之間、不能加銘、以書狀申了、御局御狀野州之書狀有之、

布野州　一堀川殿御局〻——七八、

細川掃部頭　質券丹波國中村、

拾貫文

法性寺中村新次郎

齋藤基聰　一色幸範　因幡勝見鄉

清式大　一齋藤加賀四郎基聰〻——八十六、　諏次

老母借物也、三貫文

諏信　一一色七郎幸範代〻——八十九、　河村

貳貫文　文明七、

安東薩摩守

同前　一下笠與三郎貞賀〻——十十四、（父德忠入道借物、）　靜住

秋井左京亮　於越中國布西保、

下笠貞賀

拾貫文（文明五、二六、）

駒井東實坊

三石　同六年、

布野州　一勝鬘院雜掌〻——十廿二、

常樂院

拾貫文

質券寺領因州勝見鄉、

〔親元日記〕下

布野州　一勝鬘院雜掌（文明十五年）〻——九廿七、

懸寺領因州勝見鄉、對常樂院借錢十貫文事、一倍廿貫文內、且十貫文返辨候、景芳藏主請取（文明十五、三廿二、）有之、相殘分可返辨之由申候處、過分可納取之由、入譴責使云々、

文明十二年九月十一日

轉五分一沙汰畢、

〔賦引付〕一

〔表紙〕

借主申五分一賦引付文明十三年八月、同十四年、同十五年、同十六年、同十七年、同十八年、〔親元〕

飯與三左　高雄神護寺雜掌　尾崎坊　（文明十五年十月廿二日）（同日、）被申云々、　俊明

貳拾八貫九百文　借書一通、預狀一通、

清八左　町中務少輔　〜　十一　八、

卅貫文　文明十三、此内同十年来九石之事也　西院庄内山岸千代滿丸

貳貫文　文明十五、武斗返辨、相殘分

諏信　布施新三郎　〜　十一廿二、

拾貫文　文明十一、正　嶋津左京亮

同前　眞木嶋海藏庵雜掌　二十　〜　十五、　竺芳和尚

貳貫五百文　飯與三左　文明十一五貫文半分返辨之、住持壽春西堂、

大澤長門前司久守　同日、

五貫文　文明十九、五十　秀康僧　大智院、相國寺

一倍之内五貫文返辨之處、可押取私宅云々、

諏信　山崎清住庵雜掌　〜　十一、十二廿八、　攝州溝杭兵庫

貳十貫文　文明十一、　但前住等正首座借物也、此内千疋者土師入道祕計云々、

清八左　一小山修理亮定祐　北御所御被官　（文明十六年）　四廿、　上田

七十貫文　文明十一、九、　但本錢辨之殘也、　北少路大宮西北頬酒屋

清式大　一官長者雅久　〜　六十四、　大西左衛門太郎後家

壹貫五百文　文明八年十月三貫文借用物同九年且半分返辨殘也、

松對　聖護院　一菊坊亮快　〜　六卅、　宮内卿注記　山門東塔北谷云々、　淵田

貳貫文　庵仁二、六、同三年正兩度ニ門跡領江州黒津庄依致御代官、下代官事、就申合之借用云々、　三井寺佛地院

飯濃　一周木　〜　九六、

拾貫文　寛正二五、四　河村

松對　大津光勝泉源

貳拾貫文　文明十一六、　高野山一心院　借書雜掌覺紹判、以攝州下庄年貢可返辨云々、　杉江

諏信　一花頂門跡雜掌　〜　十二八、　栖雲庵　在所柳筍與大宮間北少路與武者小路間、

七拾貫九百六十文　本錢九十五貫文且返辨相殘分也、　集祝都寺

諏信　一大炊御門家雜掌　文明十七四八、　大津商人與次郎左衛門

四貫五百文　文明五年六月兩度ニ借用米代也、然加利平以二倍作替借書云々、　淵田

諏信　一定法寺雜掌　〜　九五、

文明十二年九月十一日

文明十二年九月十一日

七拾五貫文　自長祿三至寬正五、連々錢主旗板倉妙藏賢運舊借也、彼息一之由、定泉出狀有之間、借主へ進賦了、此十五貫文上樣御參宮之時、人夫二人下行ゟ遣之了、

諏信　一中村千代夜叉　父隼人定則、

本殘　拾貫文　文明六、十七、堤長

清式大　一理覺院雜掌　〜——十廿九、　小河四郎左衞門

拾貫文　此內八貫借書、長祿四五二、於貳貫者無借書云々、　愛林房

清式大　此貳貫文　侍雜司十月十五日渡之、爲御所樣任大將御祝方被下之、　杉江

松對州　一森脇新三郎信重　文明十八、十二、六、　大木源六

米貳石六斗五升　文明七十二朔借用之、

貳石貳斗三升　文明八十二朔借之、　丹波籾井庄上坊

〔親元日記別錄〕下

飯加　一小村千代夜叉　（文明十三年十月二十日カ）

於私宅合力錢事、取過候衆、去年德政以來不懸之候間、破候處、赤松殿被官高屋一人及催促候、無覺悟候、殊自然之儀、爲親可辨之由不申定事候、

日野氏參宮ノ時人夫ニ與フ

義尙任右大將祝トシテ與ヘラル

森脇信重

一揆以下入足配當

任惣別御法可預御成敗云々、

清式大　一鍛冶屋妙淨入道　（文明十三年十月二十日）

賀茂乙丸下地　在坪者山森河原田一段、永代買得候處、去年土一揆蜂起之剋、押取賣券云々、

諏信　一中村次郎兵衞尉慶長　（文明十四年八月七日カ）

城州久多河井助太夫　法名道法、ニ借與四貫文事、號德政違亂質券地云々、

合飯與三左十一十九、

諏信　一相國寺崇壽院主事等鬪都寺　（文明十五年）〜——十一廿、

當院領和泉堺南庄々主職事、就被補任之、入部之刻、土一揆等號德政蜂起之條、及合戰屬無爲畢、仍失墜借物過分候處、前院主不可用之由被申、不便由歎申、

〔東寺百合文書〕ヲ　三十一之三十五　〇山城

今度土一揆以下入足配當之事

文明十二年十月十六日

合貳拾四貫百八十二文、本利定、

文明十二年九月十一日

石別廿六文
久世上下庄　三百廿石　八貫三百廿文
植松庄　二百四十石　六貫二百四十文
女御田　二百五十五石　六貫六百卅文
上野庄　五十石　壹貫三百文
拜師惣庄　七十八石　貳貫廿八文
以上貳拾四貫五百廿一文　餘三百卅六文
右配當如件、
文明十二年十月十六日算用畢、

（花押）宰相律師
（花押）實相寺
（花押）增長院
（花押）宮內卿僧都
（花押）寶茶院

北馬借ノ蜂起
京都通路閉塞

〔大乘院日記目錄〕三　九月廿六日、土民北馬借之蜂起、德政儀也云々、今度京都責之（ヤ、）造德政了、宇治山崎等近日責之之由聞之、觀禪院鐘搗之、廿七八九同前、

〔大乘院寺社雜事記〕〇七十五文明十二年十月十一日裏文書
〇上略、全文ハ九月二日ノ條ニ收ム、
一德政之沙汰候て、物忩之由申候、あさましく候、とふらくこそてゆき候時分候、〇中略、

金運院（花押）
寶生院（花押）
寶輪院（花押）

九月七日　嚴寶

〔大乘院寺社雜事記〕七十四　九月十六日、
（ウハ書）「大乘院殿　兒御中　嚴寶」
一京都通路一向不叶云々、土民共七口之關事可被上之由訴訟申故云々、先日德政事申出之間、自御臺方々領主共ニ被仰付之、其在所於御成敗候故、

先以止之了、近年御臺公物濟々在之、利錢御沙汰故、如此及嚴密之御沙汰了、然而又號七口關事、土民等蜂起歟、此關事も號爲內裏御修理被立之、莫太之公用雖被納之、於修理者有名無實也、一向御臺之御物ニ被成之、上下甲乙人迷惑珍事關也、

廿六日、立冬、

一松林院僧正(尊深)來、京都德政事、初ハ本利子細不及其沙汰、無理故也、其後ハ本錢計ニテ返辨、何も五ヶ年三ヶ年流質物共取返之云々、無法量者也云々、北里令隱雜物、德政事色々雜說云々、

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十月廿三日、

一京都七口新關悉以自土民方破之了、珍重々々、號大(內)裏修理料、此間被召御臺了云々、

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　○文明十二年十二月二日裏文書

御書畏拜見仕候、早々于京都可上申候、今般者路次幷京七口塞候、涯分致了簡可上申候由、能々可預洩御披露候、恐々謹言、

學延房(疑講)□(花押)

十月十五日

御番衆御中

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　○文明十二年十一月十三日裏文書

江次第御談義ニ、禁裏へ參ける〳〵と御まいり候まてこて候、十月三日ノ條參看、

惠林寺殿へ便宜候者、直綴ニくるし候とて申度候、

委細承了、

先度大納言得業方への御狀、則遣候て、慥々近衞殿より來候下部ニ渡候、近比くせ事候、只今近衞殿へ尋申候へハ、其もあくる日やうて被下候由仰事候、其方よて竹屋方へ御尋候へく候、返々驚入候、くせ事候、一昔の事候、得業返事則取進候、

京都無珍事候、口々起候て、公方關をハ皆破候、目出候、悉皆下より天下を可成敗分候、くせ事候、

其方より色々申候間、此よていハ是のミくやしく候處、さていハ無珍事候條、目出候、馬借ちとせゝり申しさる計いくるしからも候、

新御所へ申度候、二條大閤近日可有御落髮分候、とや御いとゝの事も被申入候、〇十月七日ノ條參看、此人夫急候間、一ふて申候、返々無殊事目出候、美濃へハ一

文明十二年九月十一日　六一三

一撰關所撤廢ヲ訴フ
義政夫人諸領主ヲシテ一揆ヲシテ鎭撫セシム
夫人利錢ヲ爲收納ノ嚴達ス
七口關稅ハ夫人ノ所得
初ハ元利共ニ返濟セズ後ニハ元金ノミヲ返濟ス
流質ヲモ取返ス

隨心院嚴寶ノ書狀

總ベテ下ヨリ天下ヲ成敗ス

向ニ無通路之由、石ニ仰事候へく候、このよし申へく候、らしこ、〇美濃戰亂ノコト、八月二十七日ノ條ニ見ユ、

十月十七日

〔大乘院寺社雜事記〕七十六　文明十三年正月七日、

一木津以下山城路次不通也、自十六日可爲無爲歟云々、舊冬松殿上洛之時人夫、昨日下向了、京都無殊事云々、自隨心院巨細御書在之、

十一日、

一石左衞門自京都下向、自隨門御文持來、〇中略次七口關所事、自御臺又可被立之云々、仍近所又土民共申合可破之由支度之間、不被立之云々、

〔大乘院寺社雜事記〕七十六　〇文明十三年三月二十一日條裏文書　〇上略、全文ハ十三年正月十日ノ條ニ收ム、就關事候又可被立候、然者可破候由、近日取立□沙汰共候、每事難申盡候、恐々謹言、

正月十日　嚴寶

〔補菴京華續集〕正宗西堂住建仁道舊疏　庚子歲、九月廿七日入寺、時有德政之變、〇道舊疏略ス、

〔皇年代略記〕後土御門院　首書十一九中旬、土民蜂起、破京中土倉、奪返質物、併〔文明〕

夫人又關所チ立テンドシ國人又破ラントス計ル

如先年三箇度、

〔大乘院寺社雜事記〕七十四　九月廿五日、

一來廿八日、土民共可責奈良中之由申合、事實也云々、仍自寺門申遣古市方、返事、牢人同心之由其聞在之、難申是非云々、仍北里殊更迷惑珍事云々、傳說分也、

廿六日、立冬、

一略〇中然而夜九時分土民寄來、觀禪院早鐘搥之、無殊儀者也、

廿八日、至朝雨下、

一日中以後天晴之間、土民寄來、觀禪院鐘搥之、古市衆少々出陣、惣而無殊儀者也、此一兩日善勝寺橋之邊、自寺門用構之處、自仲川方申分ハ、路次難義之間、不可叶之由申、人夫等事追上了、寺門旁以珍事々々、

晦日、

一土民寄來善勝寺燒之、本堂計□觀禪院以下在々所々鐘搥之、古市□者馳上了、

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十月朔日、

文明十二年九月十一日

一撰奈良チ攻メントス　一撰奈良チ襲フ　古市胤榮兵ヲ出ス　興福寺善勝寺橋附近ニ要害チ構フ　一撰善勝寺チ火ク

一撰奈良チ攻メントス大和牢人一撰ニ與ス

一山城土民近日寄來德政云々、去月廿六日より每日觀禪院鐘搥之、古市以下手者馳上、昨日ハ善勝寺燒失、本堂計相殘了、

本堂殘存ス

二日、

一今日土民寄來、無殊儀之間、田舍衆白土以下罷歸之處、夜ニ入、重而寄來、觀禪院菩提院等之鐘搥之、鄕民等罷出、無殊事引退了、傳說云、善勝寺之火付三十貫文頸ニ裁之、其外山城之惡黨帳(張)本衆以多代錢可申付云々、定而可爲難義者也、

三十貫文ノ懸賞ヲ以テ放火者ヲ索ム

五日、

一土民寄來、古市以下罷上、土民頸三取之云々、

九日、

一今卯刻土民寄來、觀禪院鐘搥之了、

十日、

一夜前土民寄來云々、所々鐘搥之云々、

十九日、

一夜前土民淨土(寺脫)邊ニ寄來云々、

淨土寺ニ攻メ寄ス

觀禪院ノ鐘鳴ラバ門跡衆及ビ坊人出ベシ陣スベシ

一乘院ハ雲井坂ニ備フ

永久寺ニ千座不動

法長千座ニ岡寺愛染ヲ修

廿九日、

一夜土民寄來、觀禪院鐘搥之無殊事、

十一月朔日、

一土民寄來、觀禪院鐘搥之、古市勢共罷上了、

二日、雨下、

一土民寄來云々、觀禪院等鐘搥之、

三日、

一土民寄來、觀禪院等鐘搥之、〇(略)中就土民蜂起、種々浮說在之、難信用、

四日、雨下、

一學侶書狀到來云、京中幷邊土惡黨數百人令下向、寺社案(安下同ジ)否此時候、觀禪院早鐘鳴者門跡衆幷御坊人可罷出之由、可有下知云々、一乘院殿ヘハ雲井坂邊ニ可被出之云々、以上昨日書狀今日到來了、

一同寺門祈禱事、永久寺千座不動法、長岡寺千座愛染法可申付云々、則成奉書、今日集會狀也、學侶書狀二通在之、門跡方奉書二通、各寺門加用持之、入文箱下向了、

尋尊候人等ニ防禦ノコトヲ示ス

一六方書狀到來、學侶申狀同前也、則以泰弘、候人共上下北面衆、御童子力者以下ニ仰付之、申入子細共有之、珍事難成事共歟、先年馬借時ハ、御領内以下事、自衆中不召仕、近來事ハ一向門跡儀不知行也、人夫等事不可有之、且如何、

六方陽忍房書狀

學侶六方モ油斷ス

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　文明十二年十二月二十一日裏文書

以被仰下候趣、尙々內外之儀可申合候、委細上意返々畏存候、得其意可申御披露候、

防禦ノ備チ立テザレバ寺社ノ安否ニ關ス

被仰下候越畏以承候了、抑其後無殊儀候間、不參上申入候、非緩怠儀候、近日寺邊日々夜々物忩以外次第候、寺社案否此時節候、如被仰下候、京都之足輕共下向之由風聞候、只今土一揆之儀者、寺社令亂入、物共を取候ハんする由心算にて候由、自諸方聞候、學侶六方も只今者事之外油斷候、如何樣よも內外之計略候て、勢共召上防禦之料簡候ハてハ、忽滅亡之段勿論候、山城方儀被立、奈良へ亂入候ハヽ、奈良中上下同諸院諸坊亂入候ハんすると不移時剋、可令頓滅候、返々珍事之至極候、身々の案否候、誠京中足輕事、爲上意御成敗候者、可爲難儀候、さ樣之氣をも取合、料簡候ハんする段可然候、所詮於于今者、身々の案否候之間、晝夜之さういも候ハす候、可有御存知候處に、以外之無沙汰共候之間、今日少々愚意之趣申遣候、如上意寺社之案否此時節候、只今被仰下候趣、尙々可申合候由、以御機嫌御披露所仰候、恐々謹言、

十一月四日　　光（花押）

御番衆御中　　陽忍房

一ハ坂良ノ時馬奈借坂固

一ルチ以テ若中ムル寺ハ城

善勝寺本堂火ク

仲川ニ筒

井順尊成

身院順宣緩

若寺善勝外

寺チ城

アリテ緩

大乘院北

ヌリ等ハ

面等出陣

〔大乘院寺社雜事記〕七十五

一永久長岡兩寺御請文到來、自今日千座法云々、

一土民寄來、觀禪院鐘鳴之、善勝寺本堂幷門炎上、古所也、本尊以下燒失歟云々、無念々々、先年馬借ニハ、奈良坂、一坂等罷向之間、般若寺等皆以城中也、今度ハ仲川ニ筒井、成身院等手者在之間、事々相亂難義之間、般若寺、剩、善勝寺兩所城外ニ成沙汰之間、伽藍滅亡了、無念々々無申計、自宗法藏僧都舊跡有子細在所也、无首大堂也、先年ハ元興寺金堂燒了、朱雀院悉以燒了、今度又如此、各土民之所也、（爲脫カ）

一北面衆以下今日出陣、

明恩、善賢、堯善、堯順、寬明、宗順、宗禪、舜恩、木阿、春阿、立阿、（成就院）三郎、（多聞院ノ內）、（多聞院ノ內）

文明十二年九月十一日

楯ツキ人夫ノ配置

大乘院人夫ヲ集ム

青侍、因幡ノ内、若黨二人、兎善内、

以上侍分

小法、御童子、千松、同、松菊、同、入道丸子、同、太郎、同、鶴若、同、勝菊、同、菊若、同、宿院春藤、同、伊勢屋春若、同、北鵲孫三郎、同、彌六、牛飼、松菊、同、小南院春松、同、

以上御童子等、此外力者三人、慶力、慶万、慶力、

楯ツキ人夫事、任先例加下知了、古市爲官符方、近來新儀ニ衆中召仕之之間、人夫以下無其足之由雖申之、先例每度御領内元興寺令召出之間、堅仰付之間、兩方へ出之云々、罷出衆方々、探ニ取之了、

南鵲一人明恩方、　塔本一人善賢方、　西桶井一人堯順方、　東中院一人寬明方、

同新屋一人舜恩方、　幸一人宗順方、　相内堂一人宗禪方、　窪一人、木阿方、

福智院一人順圓方、　五ヶ所一人　元興寺鄉悉堯善方、

六日、

一土民寄來、北面方以下出陣如昨日也、領内元興寺鄉人夫、楯ツキ用召出之、如昨日也、河原者兩人、三乃公、舜勝ニ給之、野田御領人夫召出之、遣成就院了、花薗鄉公事足三人戌亥方ニ召出之、眉間寺口番等事仰付之處、六方又

童子鄉民ニ混ジ六方ノ命ヲ受ク

六方夜番

善勝寺口之堀ニ今日召之、自戌亥方不可叶旨申遣之間、堀方ニハ不出云々、

當門跡方楯ツキ人夫事ハ、三人中ヨリ沙汰立、可進上之由仰付之、戌亥方事も可隨其役、當門跡方事も可應御下知之由仰付了、自餘御領内近日二方三方召仕各此儀也、御領共事、自餘所召仕之由申立之ハ、一向領主號不可有之間、無力如此加下知了、

一御童子共事令混亂鄉民共、自六方召出間、門跡方出陣無人數之間、不可叶之由成奉書了、各召出之、中市以下御童子ハ兩方へハスヲ合輩等在之云々、

七日、

一各出陣之間事、自衆中申請子細在之、巨細返事了、所詮衆中合力事申請之、又自然奉公衆中可沙汰云々、

九日、

一龍花院方三輩書狀到來、就土民蜂起、六方々分ニ夜番致其沙汰、今夜當方ニ相當云々、押上邊ニ出陣云々、御勢事申請之間、各夜番ニ出之了、楯ツキ

人夫、御領内元興寺鄕如例召出之、方衆共自身罷出旨集儀書狀ニ見了、就中方衆共罷出之間、龍花院方留守事鄕民等ニ仰付之云々、於福智院鄕以下御力者御童子者、自門跡召出之令出陣了、

一非院方夜部夜番云々、就其鵤中院御童子共不罷出ㇾ、公人九人付之云々、

十日、

一龍花院方學侶各書狀到來、出陣事神妙集悅之由云々、上下衆書狀之趣仰聞、畏入云々、

十二日、雨下、冬至、

一堯善申給衆中ハ昨日悉以歸陣了、六方々分番も不可有之云々、今在家番ハ森田請取之、自十六日ハ就西金堂當行事、蒙罪科、古市之被官人令免除之、甲濟々相具、可勤番之由一決了云々、自西金堂訴訟故罪科輩也、旁以西金堂衆失面目了、且ハ可爲珍事者也、

十三日、

一〇中略後夜時分土民寄、燒眉間寺門十三堂了、

衆中歸陣ス、六方夜番チ止ム

眉間寺チ火ク

永久寺祈禱卷數チ興福寺ニ遣ル

密ニ酒ヲ一揆ニ與ヘテ退散セシム

學侶六方之ヲ怒ル

四恩院火ク

十三重塔火ク

塔ハ建保三年ノ建立、覺蓮房ノ建立

〔大乘院寺社雜事記〕〇七十五文明十二年十二月十三日裏文書

先度自寺門不動千座事被仰出候、自來八日致(せカ)同十五日令勤行、御祈禱一枝寺門令進候、可然樣預御披露候者可畏入候、恐々謹言、

十一月十五日　永久寺年預

井上殿

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十一月十九日、乙未、

一土民北馬借事、全々自寺門可給酒直可退散之由申付之間、近日無音也、森田ら長敎房申合如此云々、云學侶六方、云衆中、以外腹立也、如此例不可有之、希代珍事云々、此森田今度爲寺門成中牓事、先以越度也、彼躰又惡黨也、下地ハ馬借ト可內通條勿論也、不思儀々々々、

廿日、

一夜前丑剋四恩院悉以拂地燒失了、土民所爲也、十三重塔婆ハ建保三年乙亥十一月十日延供養、導師權別當範圓、有七僧、故覺蓮房上人建立、當時隨□□彼門才行達房之由、見後非山御房一見御記、自建保三年十一月十日至文明十二年庚子十一月十九日、經二百六十六年炎□(上カ)□(丁カ)彼覺蓮房ハ聖圓事

文明十二年九月十一日

歟、如何、

四恩院事無勿躰之由、申遣一乘院了、彼返事、於本尊者、佛舍利以下悉以奉取出了、但其内舍利殿一紛失糺明衆中云々、遣人令見之處、誠以悉燒了、所殘分社一宇、倉一宇、辰巳坊如形相殘、其餘ハ一切不殘之云々、當時彼院主ハ修南院僧正光憲也、

廿五日、

一一昨日一坂發向、木津之沙汰、六方罷向令檢知之云々、今日四恩院火付兩人、自木津召取之渡之云々、兩人高札分四百六十貫文、寺門公物無之、珍事旨風聞、

〔大乘院寺社雜事記〕七十六 文明十三年正月二十五日裏文書

一祭禮ゟ寺門ゟ料足候いて、珍事無申計候處、又十三重之燒手二人、自木津召取出候ゟ、四百六十貫可入候、寺門之貧者無今古時宜と奉存候、尚々御屏風事難申盡候由、可有御申候、恐々謹言、

十一月廿五日　　兼雅

兼雅ノ書狀

木津四恩院放火者ヲ捕フ

放火者ノ代四百六十貫文寺門公物ナシ

本尊ハ坂出ス

御番衆御中

〔大乘院寺社雜事記〕七十六 文明十三年二月十八日裏文書

一今夜土民沙汰、子守御殿ニ放火、前机等燒了、鄉民等見付之無爲云々、以外珍事也、先日十三重放火之帳(張)本以下於木津雖召取之、無其實歟、寺門作法無是非、珍事々々、色々雜說共在之、行末尚々無心元事也云々、

十二月朔日、

一夜前子守御殿放火事、一御殿東御簾幷机戶平以下燒了、三御殿階燒了、可有造替之間、一段寺門大儀也、珍事、

三日、

一十三重燒火付手二人、自木津執行方出之、此內一人ハ他所者取出之間、料足自寺門可出之、二百貫文、一人ハ執行取出之、不可有下行云々、寺住衆六方少々奈良中幷古市衆相催之、於奈良坂請取之、衆中則及强問云々、

四日、霰下、

一訓英書狀到來、馬借同意輩、可有糺明之由一決了云々、尤可然旨仰了、

子守社ニ放火ス

四恩院放火者ハ無實トノ噂

放火者ノ一人ハ他所者ナレバ興福寺懸賞金ヲ出ス

馬借與黨ヲ糺明ス

訓英ノ書狀

法花寺殿御借下御催促可畏存候、近比迷惑至候、
先日御書被下候折節、打紛御請不申上候、其恐不少候、抑四恩院以下放火、前代未聞之亂吹、誠而猶有餘事候、則木津執行之沙汰而、兩人搦出候、此一人事者執行寺門之忠節ニ出候、今一人者勸賞可令拜領旨申候、後惡斷絕基、先以珍重候、就中堂衆功幷森田題目悉皆六方沙汰候、未盡沙汰不限此事候間、無力次第候、馬借引級事、可致糺明通候、於高之助男者、依寺訴、則所司代召籠候、山城國人方少々被成御奉書候、目出度候、自御寺務可被遣事候へ共、路次難治、自此方而則遣狛方候、先日雜掌書狀參著候哉、內馬借多候間、順魔ニ成候て六借候、是併寺門を大事ニ不存故候由、可預御披露候、恐々謹言、

十二月四日　□（花押）

（ウハ書）
御當番御中

長教

鵲堂夜番

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十二月五日、大雪、

一彼公人鵲堂ニ置之、衆中結番守之畢、

十五日、雪、入夜大雪也、

子守社夜番

一子守夜番事、鄉民等ニ自學侶申付之云々、角振中院御童子事、月迫御用之間、可有故實旨、仰遣供目代方了、

〔興福寺年代記〕文明十二年十一月一日、善（勝）鐘寺炎、就德政、同年四恩院炎、十月十九日夜、

〔興福寺略年代記〕庚子文明十二年十一月廿二日、興福寺十三重塔幷院中悉燒、馬借沙汰、

〔親元日記〕六　文明十三年八月十五日、丁巳、天晴、

一被仰付所司代、浦上、發向廣瀨、就去年德政之儀事也、

十六日、戊午、天晴、

一所司（浦上則宗）代御感被下御劒御馬、貴殿有御祗候、御申次、所司代卽御太刀御馬進上、

〔清水寺文書〕○五播磨

就德政事、土一揆等蜂起之由、其聞在之、所詮有彼等寄合在所者、卽押寄可追散、於張本人者、搦捕可被引進、尙以及鉾楯者、加誅罰、以首可致注進之由也、仍執達如件、

文明十二年九月十一日

幕府所司代浦上則宗ニ命ジテ大和廣瀨ニ發向セシムル幕府則宗功ナリ賞シテ劒馬ヲ與フ

待所ノ沙汰一揆集合ノ在所ハ追散シ張本ヲ捕ヘ進ズベシ

文明十二年
十月三日

清水寺衆徒御中

○興福寺、四恩院十三重塔ヲ再建スルコト、便宜左ニ合敍ス、

〔大乘院寺社雜事記〕七十六

一興弘相語、四恩院領本七百計在之、近來二百計取納也、爲寺門可再興云々、

勸進聖孝心

勸進聖事、孝心ニ可相計之由、自學侶申付之、彼領知事同申付之、今春中塔婆可立柱云々、禮堂事千部論時平帳(雖下同ジ)等在之、今度ハ可禮堂弘云々、平帳每度三十貫計公用入事也、

本尊塔内ノ莊

件十三重塔ハ、建保三年乙亥十一月十日述供養也、導師權別當法印範圓、七僧在之、本願覺連上人、上人五月廿八日入滅之間、門弟行蓮房當時願主也、

殿春日淨土相

去年十一月十九日夜、爲土民所爲、院內悉以燒失了、經二百六十六歲了、本尊春日、御本地尺(釋)迦座像、藥地、觀、文各立像、在四天、塔內柱繪在之、障子十六羅灌(漢)、後戶春日淨土相云々、同面春日御本地來迎相、各座像五躰之外ニ、彌

日本地

則伊(協楊)(花押)
重能(花押)
則家(花押)

來迎相扉ニ法華曼陀羅

勒在之、希有繪也、八枚戶平法花万タラ、佛壇青貝纓絡等在之、又塔內ニ一千粒舍利在之、殿ハ四條院御寄進見事也、

舍利殿ハ四條天皇ノ御寄進

廿一日、

一四恩院建立事、學侶六方沙汰人差定之、自舊冬十方勸進事、被申付孝心房、先以十三重塔婆可建立之云々、一院料所如上、法花經書之、一字ニ一文入之、彼孝心ハ修學者之時ハ號詮箏觀禪房也、予門徒也、蓮花院詮英僧都弟子也、依道心令隱遁了、東大寺之內(庵)電(塔)室在之、

勸進帳草案ハ淨法院任圓ノ作

廿五日、

一孝心來、十三重塔勸進帳讀之、草案任圓僧正沙汰、清書光明(隆憲)院法印、無殊事、當院建立及二百餘歲云々、不審也、奉納(加力)帳令加判了、寺務(東林院僧綱)僧正同加判了、別當一乘(敎玄)院院主、修南(光憲)院既以被加判了、

舊禮堂ノ大サ新禮堂ノ設計

孝心相語、聖圓上人號慈蓮房上人、後菲山御記ニハ、號覺蓮房上人、第二號之行蓮房、後菲山記無相違者也、次才(材)木共申付之、禮堂ハ本面九間南北行也、奥ヱ三間也、今度ハ奥ヱ四間分通也、面一間通ハ可爲廣緣云々、柱ハ山出五寸、間ハ六尺五寸分也云々、此外本連坊二字在之、今度可爲一字也、其故ハ

禮堂ヲ西エ引退テ可立之分申定云々、只今先以塔婆可立之云々、次尺迦堂ニ可引立之、辰巳小路藥師堂可蒙許可之由所望、不可有子細、大綱仰之、

廿九日、

一昨日六方集會在之、物忩云々、十三重事也云々、學侶申合云々、

〔大乘院寺社雜事記〕七十　七月八日、

一四恩院鐘鑄之、勸進沙門孝心、

鐘ヲ鑄ル

〔大乘院寺社雜事記〕七十　十一月十三日、

一一昨日六方蜂起、四恩院々主代處重過(科)被官所進發、番匠大工同進發云々、

六方蜂起

孝心大勸進ヲ辭ス

孝心大勸進事辭退之故云々、

伊勢養田地下人塔上葺ヲ爲ス

〔大乘院寺社雜事記〕八十　文明十四年二月廿日、

一十三重塔婆上葺事、伊勢養田、地下人可沙汰之由申、捧(奉加)帳判昨日給之、

〔大乘院寺社雜事記〕八十　七月廿八日、

一就四恩院作事、當門跡番匠大工鵲左近五郎可加召之由、仰遣供目代方了、

緣次第罷加之由聞之故也、

閏七月五日、

一四恩院地引云々、

四恩院上棟

八月三日、

一四恩院道場立柱也、來六日上棟云々、

七日、

一昨日十三重之法堂上棟、別會供目代鈍色出仕、馬寺侍引之云々、凡嚴重次第也、

德政ノ例

〔塵塚物語〕四　德政之事

德政ノ由來

中古天下德政といふ、ふしきの法をたてゝ、我かまゝをふるまひきたれり、そのおこりをたつぬれい、世のみたれうちつゝき、軍產とほしきゆへに、かれこれの商人職人の金銀をうはひ、あるひい借りとりて、そのぬしにかへさす、されはとて此事おとなしからされは、後の人のきく所もうとましく思ひて、より〳〵此法をおこなふ、たとへいかりたる物いかしぬしのそん、かしたる物いかり主の德となれり、これを一國平均の德政といへり、我國神代よりこのかた、かゝる無理なる法をきかすといへり、此事公方にいたらせ給はす、彼三職のことき人のふるまひなりといへり、やゝもすれいこ

戰士ノ境涯

れらのともから、家督をあらそひて、恥にもならぬ事を、一家の恥辱なりと號して、唯今まて無二のこゝたしき中も、たちまち虎狼のこゝろをさしはさみ、戰におよふ、されはとて、其張本のともからはかり討死にするにもあらす、それ〳〵の家の子郎從をひきゐて、おほくの人をそこなはしむ、是ふひんの事なり、およそ武勇人の戰場にのそみて、高名いとやすき事といへり、されとかたきなから見ゝらぬ人也、又主人のためにこそあたならめ、郎從下部こゝきに至て、いまた一ことのいさかひもせさる人なれい、あたりへさまよひたる敵も、わか心おくれてうちかたき物也、とかく義はかりこそおもからめ、その外は皆ふひんの心のみおこりて、おほくはうちはつす事、敵も味方もひとし、又戰場にいたりては、いかなる白日晴天も、朦朧とくもりて、物のわかちも見えかたく、扨漸々たゝかひつかれ、日もくるれは、たかひに幕のうちへいりて、けふは先いきのひたりなと、大いきしてやすみ、ゑはらくこゝろもゑつまりぬれは、故郷のちゝ、はゝ、妻子の事を思ひ出し、又唯今夜討もや來るらんと、心いそかはしく、いさゝかもゆるかせなる間なしといへり、近比軍に出し武士、かやうの物かたり申侍しか、尤さもある

德政ニ不易ナルベキ御敎書ヲ望ム

德政ト旅宿

へき事也、ゑからは足もとの敵をも、うちはつし見はつし侍ることはり也、されは、大人は、おほかたのはちにはこらへて、たゝかはさるか、おとなしく侍るへし、これゑかしなから、おほくの家臣僮僕のためなり、中昔よりさま〴〵のいくさうちつゝきて、いたましき事のみおほし、其ついへをおきのふものはたれ人そや、皆竹園椒房出世坊官商人村民所持のものなり、いにし比より、將命御敎書をねかふもの、武家の外、おほくは先德政たりとも不易たるへきのよしを、第一にねかひのそむとみえたり、たとへい、今度何々品に就て、粉骨をぬきんて、御馳走申上い、たとへ德政の法度これ有といふとも、御下知のむねにまかせて、買得分の田畠並借けす（ママ）米錢ゑち物預り狀永地之事、一切改動あるへからす、若相違犯の輩於有之者、成敗を加ふへきの狀仍如件、およそかやうのたくひおほし、又ある人の申けるい、去る文明の比の德政に、おかしき事ありしと申つたへたり、其比三條五條のあたりに、おほくの旅人とまり侍れい、にきはしかりけり、此折から德政のふれ、ちかくあるへきとの風聞しけるあいた、亭主の町人、よきつゐてなり、たからを、もふけ侍るへしとたくみて、かの旅人の所持の物を、一いろ〳〵見て、こ

徳政貸借ヲ平均ニス

のわきさし玄はらくかし給へ、此つゝみたる物は何にて侍るやらん、くるしからすはかし給へと申けるあいた、旅客此事たくみていへるとは夢にも玄らされい、やすきほとの御事なり、御用に立ん物い何にてもかし申へしとうけかひける間、おほくの旅民の所持の具ともに、皆かしたまへといふ一と葉をそへたり、かくのとくして、一兩日もすき侍るに、案のとく公儀よりのふれなりとて、貝をふきたて鐘をならして、辻々に徳政の御法度あるとのゝしりける、そのゝち彼亭主、旅人をあつめて申けるい、さて〳〵うとましき事をも申かけ侍るものかな、此徳政と申い、かたしけなくもうへさまよりの御觸也、此下知のこゝろい、何にてもかり侍ると申と葉をかけたる物は、皆かりぬしへたまはり、かしたる物は皆ぬしのそんにて、天下のかしかりを、平らかにひとしくせさせ給ふ御法なり、されは此ほとかし給へと申物は、皆此ほうの物なり、是わたくしならす、則唯今の御ふれこれなりと、さもきら〳〵しく申けるに、旅人は何のわきまへもなく、これいいかなる御ふれそとはかりいひて、人々目を見あわせ、仰天してとほうにくれて居たり、中にいとこさかしき者ありて、罷いてゝ申けるは、よし〳〵たかひにくるしからす、うへさまの御ふれそむき侍らす、かすへしと申したる物は、皆そのほうへとりたまへ、但し此ふれにつきて、いたましく思ひ侍る事あれと、それも是非なし、かりそめに貴殿御やとをかり侍る事、是時節也、今さら此家をかへすへき事に侍らす、されはむかしより久しく所持したまふ家なるへけれと、折あしく借りあわせ、妻子所從ひきつれたちのき給はん事、笑止に侍ると申せは、亭主もこれは理不盡の仰にて候とあらそひけれと、とかくわたすましといへるあいた、かれこれ大事になりて、奉行所へうたへ侍るに、家主をめされて、にくきふるまいかな、いそき立出候へし、嚴重の捌なれは力およはす、大かた家をとられて、いつくとも玄らすのき侍るといひつたへたりとかたり侍し、家主かすこしのよくにふけりて、あさましき目にあいたりとて、その比天下の口にわらはれしと也、

○幕府、土御門内裏修理ノ爲メ、京都七口ニ關ヲ設クルコト、十年正月十一日ノ條ニ、關ヲ撤シ復之ヲ設クルコト、同年七月八日ノ條ニ、課役苛酷ナルニ依リ、山城國人之ヲ撤セントシ、通路ヲ塞ギテ幕府ニ訴フルコト同年十二月七日ノ條ニ見ユ、

學侶家榮ノ段錢ヲ課スルヲ止メントス

古市澄胤筒井順尊ニ亦使ヲ發ス

家榮課役停止ヲ肯セズ

十二日、己丑、越智家榮、古市澄胤、筒井順尊等、段錢ヲ大和ニ課ス、興福寺、使ヲ遣シテ、之ヲ停メンコトヲ求ム、

〔大乘院寺社雜事記〕七十四　九月十二日、

一松林院僧正相語、昨日於四恩院學侶六方講衆滿集會條々事及評定、神水云々、一國中私反錢事可停止云々、此由越智方ニ可問答、不事行者十二大會等可打止云々、當時表裏之寺僧共沙汰千万無心元、尙々可失寺門滅之基歟、

十六日、

一私反錢以下事、寺門懸生涯可有其沙汰之由云々、今日學侶內々使節付緣々令下向田舍、□聞之越智彈正忠方、古市方、筒井方□□無用事也、中々不可事行、此上ニ尙々寺社之冷(零)落可出來者也、使節衆宗藝五師、昌懷、興弘擬講、營尊五師、尊藝、

廿二日、

一傳聞、先日自學侶使節宗藝五師□□□越智彈正忠返事、私反錢事停止不可叶□旨返事申切之、足輕事、是又不可叶云々、□仍余方返事又同篇、營尊

家榮橫田莊ニ段錢ヲ課ス

學侶閉門セントス

閉門延引

五師、與憲擬講、筒井へ行向、興胤、宗賀ハ成身院へ行向、興弘擬講、尊藝、古市へ、訓英了弘五師、十市ニ行向云々、

一橫田庄ヱ自越智方反錢懸之、當年庄家依炎旱、御米不可有之、可爲如何哉之由、名主沙汰人等參上之由、奉行披露之、近日寺門作法如此也、不及了簡事哉、

廿三日、

一就宿院名事、竹屋殿被來、則申遣興弘五師方ニ、次ニ申給、今度國中反錢等事ニ、越智幷古市(胤榮)西返事申切之間、來廿六七日可有閉門云々、

廿五日、

一越智方反錢事無承引之間、明日可有閉門之由、學侶儀(衆)一決畢云々、筑前守(長田家則)罷上、午貝定學侶集會在之、訓英申給之、

廿六日、立冬、

一閉門延引、越智方學侶申合、夜前後夜之時分延引之由一決云々、無正躰、越智不可有緩怠之由、於奈良成者致成敗故也云々、

廿七日、大雨下、

一越智方反錢事、色々申入子細在之間、閉門事來朔日ニ延引分也云々、昨日當門跡方諸庄々披露學侶集會了、得其意云々、

出雲庄　院入庄　小大田庄　草川庄　河合庄　羽ツリ井、　狹竹庄　保田庄　横田庄　伊豆七條　福田庄　安堵庄　小矢部庄　楠本庄　新木庄　松南院領　豐前領内出雲庄間田　檜垣田之内同間田　以上

（平清水押領）（押領領）

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十月二日、

一越智方國中私反錢事、自學侶重々問答、使節宗藝五師、昌懷、大略失面目樣ニ成下之處、重而内々尊藝罷下、色々相屆之間、於奈良成候下地者、一切不可懸之由請申條分明之由尊藝申給、仍横田、出雲、羽津里井、狹竹、院入、小大田河合、草川、保田、伊豆七條、福田、安堵、小矢部、楠本、新木、松南院領、豐前之内出雲間田、檜垣田之内出雲間田、先日學侶ニ披露之間、庄家ニ仰遣之、

十日、

一松林院僧正來、越智方以下私反錢事、於奈良成之可除之由面ハ領狀分也、下地ハ不可閣之由必定旨申定云々、仍所々嚴密ニ致催促、但南兩鄉多武峯ハ越智方事不用之云々、

家榮等ノ意向

皇子御所ニテ行ハルル御製

十三日、庚寅、觀月連歌御會、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　九月十三日、けふの御ゑん歌　(半井明茂法名常茂)　玄やうも入さふ玄、おう極へ、御うさの御所まて御さゝあり、中院もんよしおうよてめす、○中略　ひいよく御らせ(被カ)らるゝ、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　○山城　御湯殿上日記　九月廿九日、○中略　こよひ御ゑん歌御はさゝあり、中院、うひちうさん、侍從中納言いうりなり、十月十四日、○中略　中院、侍從中納(言脱カ)御れん歌のてん玄るまゝにて、□物五色五うゐいらをらるゝ、御しやうくもんあつて、あゑもくるまて御しんをらるゝ、

〔十輪院内府記〕九月廿九日、晴、○中略　晝時分自民部卿許傳勅、今夕可參、以古

〔十輪院内府記〕九月十三日、參番、○中略　於宮御方有御連歌、

おう月の光や中れミらい水、御製也、

○二十九日、又連歌御會ヲ行ハル、コト、便宜左ニ合敍ス、

古今集ノ詞ヲ用フ

今詞可有御連歌云々、申領狀了、及晩參內、人々遲參、奉仰余催促、人々、（西）三條、海住山新宰相等也、基綱卿所勞之由申之、海住山罷出云々、西參入已秉燭之時分也、卽被始行、已被親檠之時分也、御發句頻可申入之由被仰、然而堅斟酌申入之、仍御製兩三被仰、

御製

百草よ秋いろ〳〵なる名殘うお、依衆儀（緩）被用、御脇、もみち亂く夕風そふく、只景氣計也、侍從中納言候執筆、裏三四句邊海住山參候、天明之時分事終、歸路難堪、仍申入之處、猶可祇候之由有仰、然而退出了、被勸御酒一盞飮之、宵又有小獻、

萬松軒買得相傳ト號ス

〔親長卿記〕十一　九月廿九日、晴、依御連歌雖有召、依故障不參、

十四日、辛卯、信濃守護小笠原政秀、京都ノ邸地ヲ、相國寺常德院萬松軒ノ押妨スルヲ、幕府ニ訴フ、

〔親元日記別錄〕下

中掃大（中澤之綱）一小笠原左京大夫政秀代（一宮長門入道正久、同日、（文明十二年九月十四日））

屋地四町之（西室町、東烏丸、北六角、南四條坊門、）事、任應永卅三七十三御判之旨、知行無相違候處、万松軒號買得相傳御知行、更無覺悟云々、

山名政豐、伯耆法勝寺城ヲ攻ム、

〔田總文書〕門○長

去月十四日、於伯州法勝寺城責口合戰之時、被官人等被疵云々、尤神妙也、彌可被抽戰功之狀如件、

文明十二年十月五日　　政豐（花押）

田總藤藏人（豐貞）殿

○政豐同族豐氏ノ森二郎ト因幡ニ戰フヲ援ケントシテ、但馬ニ下ルコト、十一年閏九月四日ノ條ニ見ユ、

二十一日、戊戌、義尚、三條西實隆ヲシテ、和歌色葉集ヲ書寫セシム、

〔實隆公記〕五　九月廿一日、戊戌、晴、○中略自大樹和歌色葉中可書進上之由、被仰下之、御使一色式部（政熙）少輔也、

廿三日、庚子、晴、經師大夫嚴清來、大樹御草子堺事申付之、昨日召遣之故也、

○コノ後、義尚、中御門宣胤、甘露寺親長等ヲシテ、諸書ヲ書寫セシムルコト、便宜左ニ合叙ス、

甘露寺親長ヲシテ一字抄ヲ書寫セシム

〔親長卿記〕十一　九月廿九日、晴、○中略室町殿御方御所（權大納言）殿、有仰、一字抄

今日終書寫之功了、遣飛鳥井（雅康）許可校合云々、

〔宣胤卿記〕十一月四日、庚辰、雨降、○中略行一條黃門亭之處、自大納言殿（室町殿）有御使、中御門宣胤ナシテ續拾遺和歌集ヲ寫サシム、原本ハ清水谷實秋（卿筆、御臺御本云々）幷御料帋賜之、御使嚴清也、

六日、壬午、晴、自大納言殿、一昨日續拾遺先可被御覽云々、付御使進之處、則又返給、戲寫一枚入見參之處、神妙之由有御感、

七日、癸未、晴、終日續拾遺集書寫之外無他、

十九日、乙未、晴、終日書寫續拾遺、

十二月三日、己酉、晴、○中略去夜自大納言殿有御使、（伊勢守貞經）余所書寫御草子先可入見參云々、仍早旦持進之處、御寢之間、申次伊勢次郎（貞頼）左衞門預置、（進カ）進可進入云々、經剋進入返給之、早可終書寫、手跡有御感云々、

十七日、癸亥、晴、續拾遺集令校合了、

十八日、甲子、晴、余所書寫續拾遺集、今日持參大樹御亭之處、自昨日御小川亭云々、○十二月十七日ノ條參看、則參小川（准后御所之後北小路殿）申次付伊勢次郎左衞門、御悅喜之由、種々芳言有勇、

伊勢貞熙
伊勢貞頼

飛鳥井雅康校合ス
中御門宣胤ナシテ續拾遺和歌集ヲ寫サシム
原本ハ清水谷實秋筆義政夫人所藏

〔親長卿記〕十一月廿九日、晴、參北御所、先度被仰下之伊勢物語、早々可書進之由、昨日有御使、近日可進上之由令申之、有御心得之由有仰、

十二月十日、晴、參權大納言殿（室町殿御方御所）、持參伊勢物語、去月可書寫進之由有其仰、

甘露寺親長ナシテ伊勢物語ヲ書寫セシム

參籠ヲ賀セラル

二十六日、癸卯、義政、山城長谷觀音ニ參籠ス、尋デ、義尚、之ヲ訪フ、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一（山城）○御湯殿上日記　九月廿六日、○中略

むろまち殿々ふよりいとくらのくとんおんよ、御こもりときこしめ□□

□

十月一日、○中略むろまち殿おうさにくとんをんよ、御おり（も脫カ）のよしきこしめして、めくさと、てんそう御つう申よて御申、御うしこまりあるよし御申、

りれゝち大おり五うう、やなぎ十う疋いる、御つう申てんそう、

〔後法興院政家記〕五　九月廿六日、癸卯、晴、自今日武家准后長谷之觀音堂七日參籠云々、此間聖門宿坊被定參籠所云々、依夢相（想）有此事云々、可有隱居歟之由、內々有世聞、

廿九日、丙午、晴、○中略武家御參籠所御禮事、可參申歟之由、相尋傳奏處、返事如此、御參籠所御禮事、諸家相尋教秀候也、可被略之由、各可申旨、去九日出仕之時

七ヶ日聖護院道興宿坊ニ參籠ス
參籠ハ夢想ニ依ル
義政隱居ノ風聞
諸家ノ參籠所ヘノ禮ヲ略セ

被仰下候キ、仍不可有御出之由存候、内々可得御意候、恐々謹言、
シム

十月三日、己酉、夜來甚雨下、今日從長谷武家下向云々、

〔十輪院内府記〕九月廿六日、自今日室町殿岩倉御參籠、

十月一日、旬如恒、晴、岩倉御參籠留守徒然之事次、仍二荷五色土器遣春局（日脱）喜悦云々、
夢想ニ依ル

〔宣胤卿記〕九月廿六日、癸卯、晴、〇中略今日室町殿自長谷御參籠云々、御夢想
歸亭

之故也、

十月三日、己酉、雨下、〇中略今日室町殿自長谷還御云々、此ヤ、被隱居荒（巷）說之處、
解脱寺

無別事條、珍重々々、

〔長興宿禰記〕中略九月廿六日、癸卯、晴、今日室町殿准后、御參籠岩藏長谷、解脱寺智證大師御作觀音、一七日、依御夢想也云々、御宿坊聖護院僧正（道興）御座御坊也、近日爲
解脱寺觀音開帳
義尚義政ヲ訪フ

室町殿御沙汰加修理、御共人々番衆奉行布施下野守（英基）等七日之間祗候、

十月一日、丁未、晴陰不定、時々雨下、今日長谷解脱寺觀音開帳、草創以來初開帳云々、准后御參籠故也、每日自御宿坊御參詣云々、將軍大納言殿昨日御參御宿坊、

三日、己酉、雨下、今日自長谷室町殿還御也、自去月廿六日至今日一七日也、

〔古文書〕二十二〇内閣記錄課所藏

文明

九月廿六日、

御成　長谷

御供　細川淡路守（成春）殿　畠山又次郎殿

武田彦太郎（信親）殿

御物奉行　伊勢守（伊勢貞宗）殿　伊勢因幡守（貞誠）殿

今日始而參勤之、松平修理亮

同廿九日、

御方御所樣御成　御十六歲　長谷

御供　右馬頭（細川政國）殿　有馬殿　兵庫（伊勢貞陸）殿　赤松次郎（範行）殿

御方衆大舘治部少輔（重綱）殿　一色式部少輔（政熙）殿　上野刑部少輔（政直）殿

走衆　後藤左京亮　高嶋彌太郎

伊勢肥前（盛）殿　同次郎左衞門殿　同彈正（貞陽）殿

安東平五郎殿

義政扈從ノ人々

義尚扈從ノ人々

聖護院道興實相院增運共ニ長谷ニアリ

景三ノ道舊疏

〔大乘院寺社雜事記〕七十四　九月廿七日、大雨下、

一室町殿准后、自昨日御參籠北岩倉觀音云々、就其色々雜說在之云々、彼寺ニ聖護院准后（道興）、實相院僧正（增運）等被住所也、寺末寺也、

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十月三日、雨下、

一室町殿准后、自去月廿六日北岩倉觀音仁御參籠、至今日一七ヶ日也、

二十七日、甲辰、幕府、龍統正宗ヲ建仁寺住持ト爲シ、入寺セシム、

〔五岳前住籍〕東山建仁禪寺歷代住持位次　明十二年九月廿七日、

二百十七入牌、正宗龍統禪師、（榮西）千光八世、八住靈泉院、文

〔補菴京華續集〕正宗西堂住建仁道舊疏庚子歲九月廿七日入寺、時有德政之變、

兜率顏色有如白雪、維邑近接彼天、菩提節會無非黃花、鷲峯遠來此土、雖瑞世居一釋迦后、而下生當万慈氏先、時豈偶然、衆所與也、某、佛法司命、文章正宗、春誦夏絃、蕭維摩富天下半之學、都歌里詠、狄法曹稔斗南一之名、聲鳳鳴而出岐陽、跨驢背而看富士、執靈源拈戰筆、洗木兵於阡陌中、講淸凉翻譯經、頒金印於雲霄上、機關銀山鐵壁、法施明月淸風、無用霜皮四十圍、臥龍雲起、同來野僧六七輩、候虫秋殘、莫違初心、宜保晚節、

正宗拈語曰、今之耆英、古之老成、九峯作疏、華袞非榮、

〔蕉庵遺稿〕正宗住建仁諸山

晦堂昔得靈源、愈盛家世、明庵後登台阜、首傳心宗、創業之難、其不然乎、荷法之任固亦當耳、某識高前古、名重當時、坐斷主人翁、仰之泰山喬嶽、揭示左邊底、歸然玄路重關、祖業續十世箕裘、文章成一家機軸、藤州明白合爲一矣、輔敎屬吾、楊岐積翠分作兩焉、正宗契旨、瞻祇林之垂晩、逢道樹之回春、盍念故家、速迈高步、願執厥御、五龍騰而雲從、既得所圖、一鶚翔而風迫、奚招同列、幸接近隣、

○龍統、筑前聖福寺ニ住スルコト、三月是月ノ條ニ見ユ、

二十八日、乙巳、義政夫人日野氏、酒饌ヲ獻ズ、近臣ヲ召シテ宴ヲ賜フ、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　○山城　御湯殿上日記　九月廿七日、○中雨ふる、略

御さいよりおり十うう、御さる五うゐいる、

廿八日、よへの御さるよけさ御さう月ゐいる、又いつもの御いゐひをゐいる、おゝし、おとこさち内々とさゝゝのしゆめしてくもしさふ、ひしめきてしやうくゐんをらおゝ、

〔十輪院内府記〕九月廿八日、自室町殿被進御棰可參云々、仍欲參之處、無僕

也、申其由、

〔親長卿記〕十一　九月廿八日、雨下、參內、依召也、有一持(歟カ)、

〔宣胤卿記〕九月廿八日、乙巳、雨脚未休、自勸修寺大納言有廻文、自武家被進御檜、四時分各可參、又相番衆可相觸云々、右衞門督(烝泉爲廣)忠顯(松殿)朝臣、菅原和長(東坊城)等、以使者申遣此子細、番頭葉室依遼遠、余所相觸也、全申故障之由不參、後聞、無殊事云々、

十月　大盡　丁未朔

一日、丁未、御祝、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十月一日、○中略あさ御さうにて、夕うさもいつものことし、ふしみとのより、御つう哥まて御申、

二日、戊申、幕府、一色政熙ニ命ジテ、料所加賀倉光保ノ年貢ヲ沙汰セシメ、守護違亂ノ所々ヲ成敗セシム、

〔木村家藏一色家古文書〕(縮寫)〔惣照院義政公奉書　折紙奉書紙〕

御料所加州倉光保年貢事、右可被致執沙汰、次於守護違亂所々者、一段可有御成敗、上者、先代官地下相共堅相觸之、可被令所務由被仰出候也、仍執達如件、

文明十二年十月二日　　英基(花押)(布施)

貞康(花押)(松田)

一色式部少輔(政熙)殿

邦高親王御聽聞

古今和歌集ヲ講ズ

近衞政家ニ江次第ヲ書寫セシム

三日、己酉、一條兼良、江次第ヲ進講ス、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一 御湯殿上日記 ○山城

十月三日、ゝふよりかうえさゝ丹のさむき夜、前うう御申、御さう月うと万いる、ぞんしゆのやうちやうもんよしおう、ゑしと殿も御万いり、

六日、かうえさゝ丹のさむ夜御申、雨ふる、

十九日、かうえさゝ丹御申、つゐてよこきんをもあそいす、

十一月五日、かうえさゝ丹れさつきよ、前うう御万いり、こきんをも□御さう月うと万いる、侍從中納言(三條西實隆)ゑ、こうおきよより、ゑしみ殿御万いりの事まて、〳〵この御と丹きん御申あり、

十日、かうえさゝ丹のさんた御申、こきんもあそいす、

廿日、きんうう御さんきに御万いり、このやとのことく二色御申あり、

〔後法興院政家記〕五 十月六日、壬子、陰、自午剋雨下、自去三日於禁裏、禪閤被講尺江次第云々、今日又祇候云々、

十七日、癸亥、晴陰、風頗吹、小雨時々灑、自禁裏江次第本一帖第一也、可書進之由、被仰下間、令申畏承之由、一條禪閤自當月始被講尺云々、

海住山高清江次第ヲ校合ス

當時公事ノミ講ズ

四方拜小朝拜御藥元日節會

節會細記及ビ雨儀

古今和歌集春上

嵐ヲシテ江次第ヲ書寫セシム

中御門宣

十一月七日、癸未、晴、入夜小雨灑、招海住山大納言(高清)、終夜令校合江次第、

〔親長卿記〕十一 十月三日、雨下、江次第御談義也、禪閤令參給、先日依仰予申了、當時公事許可被申云々、今日四方拜、小朝拜、御藥等許也、

六日、雨下、御談義也、江次第、元日節會許也、

十二日、晴、今日江次第御談義也、節會細記幷雨儀等也、

十九日、晴、江次第御談義也、其次有古今御談義、依仰、先日申禪閤了、

十一月十日、晴、參內、江次第御談義也、次古今、春上部

廿日、晴、○中略 江次第御談義也、禪閤參、

〔宣胤卿記〕十月三日、己酉、雨下、○中略 今日禪閤參內、被談申江次第云々、尤可聽聞之處、正忌參內有憚、無念此事也、初度

十二日、戊午、晴、○中略 今日江次第御談義也、余有存子細之間、不聽聞、

十三日、己未、晴、○中略 以俊量朝臣、江次第九卷可書寫進之由被仰下、御本二、御料紙御出之、

十八日、甲子、晴、江次第今日始筆、

廿二日、戊辰、晴、江次第書寫之、

進獻

璽心院嚴寶書狀

十一月二日、戊寅、雨降、當番第二也、食後參內、所書寫江次第九卷、今日以元長進上之、一昨日書了、加校合了、早速御悅喜之由被仰下、晩頭退出、

十日、丙戌、晴、今日江次第御談義也、

〔長興宿禰記〕中　十月三日、己酉、雨下、○中略是日一條准后禪閤御參內、被始江次第御談義、御所望爲勅定、

廿一日、丁卯、晴、○中略此間一條禪閤細々御參內、江次第御談義在之、各依勅定也、

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　○文明十二年十一月十三日裏文書

江次第御談義ニ、禁裏へ參けゝ〳〵と御まいり候まてニて候、○中略、全文ハ九月十日ノ條ニ收ム、

十月十七日

○兼良、源氏物語ヲ講ズルコト、十年四月十日ノ條ニ、江次第ヲ講ズルコト、同年六月五日ノ條ニ見ユ、

五日、辛亥、亥子御祝、餘饌ヲ義政父子ニ賜フ、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　○山城　御湯殿上日記　十月五日、○中略御いけこ、むろまち殿より、てんそうまて御申、うけ申、りやうとし〳〵のことし、き

善法寺野瀨餅ヲ獻ズ

んやう寺よりのせゞいる、御くそともきらるゝ、十七日、御いのこ、むろまち殿御ふさより御申、りのやういつものことし、

中御門宣胤餘饌下賜ヲ乞フ

〔親長卿記〕十一　十月五日、晴、入夜參內、亥子也、

廿九日、晴、今夜參內、亥子也、

近衞政家萬部經聽聞

〔宣胤卿記〕十月五日、辛亥、晴、○中略今日亥子也、禁裏御まいり切事、元ハ以雜色於勾當局申出也、歸路入夜當時難義間、兼而語都護申出之、翌日令頂戴了、

廿九日、乙亥、晴、○中略亥子御マイリ切事、申遣都護事同前、

文明十一年再興不足僧衆中御門宣胤等聽聞

北野萬部經會、義政父子、之ニ臨ム、

〔後法興院政家記〕五　十月五日、辛亥、晴、北野經如去年云々、

八日、甲寅、晴陰、朝間時雨下、○中略

十二日、戊午、晴、○中略次令聽聞北野經、

〔宣胤卿記〕十月五日、辛亥、晴、自今日北野一万部經也、亂中退轉、自去年再興、但僧衆不足、千人纔三百人許也、一條前黃、勸修寺中、橋本羽林等令同道聽聞、今日室町殿大納言殿御一所、御聽聞、武家輩管領、畠山、細川五良一色、細川兵部少甫等

候聽聞所云々、

十四日、庚申、晴、〇中略中宣秀參詣北野經、

讀經衆千百人ノ規定

〔長興宿禰記〕中十月五日、辛亥、晴、北野万部經初也、將軍大納言殿渡御有御聽聞、准后御臺等無御詣、侍所守護等如例云々、經讀衆千百人先規也、上洛不叶、二百餘人參集云々、

結願

十五日、辛酉、晴、今日北野經結願也、室町殿准后、早旦渡御鹿苑寺、自其於經堂御局御聽聞、御臺同渡御、有御聽聞、予異躰、人々相伴參詣、聽聞了、

義政夫人モ亦聽聞ス

〔古文書〕二十二〇内閣記錄課所藏

義尚供衆

十月五日、

御方御所樣御成　北野御經、

同民部少輔殿

御供　細川淡路守殿（成春）

武田彦太郎殿（信賢）

畠山又次郎殿

伊勢守殿（伊勢貞宗）

赤松伊豆次郎殿

同因幡守殿（貞藤）

同兵庫助殿

義尚供衆

走衆　後藤殿　高嶋殿　藤民部殿　御奥副

竹藤殿　波々伯部殿　廣戸殿　同

同十五日、

義政供衆

御成　鹿苑寺、直ニ北野經王堂へ、

御供　細川右馬頭（政國）殿　畠山又二郎殿

武田彦太郎殿　伊勢守殿

同兵庫助殿　同因幡殿　吉阿

同日、

同夫人供衆

上樣御成　出車、

御供　大和佐渡守殿　鹽冶宮內少輔殿

中條殿　松田勝田殿

安東薩摩守殿　垸和筑前守（政慈）殿

西郡殿

〔大乘院寺社雜事記〕七十五十月廿日、

僧衆希代ノ不足

一隨心院殿より書狀到來、北野御經衆僧百五十人在之、希代不足也、

〔大乘院寺社雜事記〕五十七　○文明十二年十一月十三日裏文書

○上略

一北野御經百五十人よて、如先々始行、近比の不足こて候、○中略、全文ハ六月是月ノ條ニ收ム、

嚴寶

嚴寶」

十月十九日

（ウハ書）「大乘院殿　兒御中

ゐるへく候

前關白左大臣從一位藤教房、五十七、前關白、十月五日薨、號妙華寺關白、

妙華寺關白

年內ニ前關白二人薨去

〔公卿補任〕四十三　前左大臣從一位藤教房、土佐ニ薨ズ、

〔親長卿記〕十一　十一月廿七日、晴、○中略一條前關白教房公、十八歲、五薨去之由、自土左畑（佐下同ジ）注進、亂中就知行分、令居住畑給也、年中前關白兩人薨去之事、希代事歟、

〔宣胤卿記〕十一月廿八日、甲辰、晴、○中略一條前關白殿教房公、自大亂始下向土左幡多御在國送年序、去十月五日令薨給之由、飛脚一昨日參著云々、御歲五十

脚氣毒腫

一條冬良猶子トシテ系圖等チ相續ス

和漢才有識父祖良トシテ勝劣ナシトノ評

八、被號妙華寺云々、禪閤御老後御愁歎奉察者也、二條殿九月二日、又此御事、十月五日、連月各先父公給、希代之事也、

十二月六日、壬子、晴、○中略歸都護亭改朝衣、參一條殿、驚申土左前殿御事、依日次不宜于今申者也、禪閤御對面（冬良）左幕下無出座、爲御猶子御系圖等相續分也、雖然只御輕服分云々、如何、

〔長興宿禰記〕中　十一月十三日、己丑、晴、今日聞、去月五日、一條前關白殿教房公、於土佐國薨給、年五十八歲、御父禪閤七十九歲、御存生哀御事也、一亂中御在京難叶、彼國御家領、御下向、數年有御在國、和漢才有識、禪閤不可有勝劣由、人々存之、可惜御事也、

十三年四月二日、丙午、晴、○中略、一條兼良薨去ノコトニカル、十三年四月二日ノ條ニ收ム、長男前關白、去年冬於土佐國薨給、

〔大乘院日記目錄〕三　十月四日、土佐前殿薨、五十五日イ

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十二月七日、

一土佐御所、去十月五日薨給之由、注進狀到來旨、八幡殿有音信云々、自惠林（秀鳩）

息子房家四歳

土佐下向後十三年ヲ經

東福寺長老法諱ヲ授ク國人十餘人入道中納言局姪娘

煩ノ日數

國人房家ヲ推戴ス

妙華寺ニテ葬ル

文明十二年十月五日

（寺カ）方殿承、驚入者也、今日美乃公自攝州罷歸於彼國承及云々、去月廿九日ニ自國注進御使京著了、若君ハ四歳ニ成給、彼國ニ御也、無力次第也、御歳五十八也、去子年九月六日、自成就院出御、四國御下向也、至當年子、經十三ケ年了、當大將殿御子分也、定而可爲重服、爲先途不可然事哉、（後聞、追號妙花寺前關白、法諱宗惠、東福寺長老奉名付云々、國人十餘人入道了、中納言殿懷姪云々、

〔大乘院寺社雜事記〕七十七 ○文明十三年四月二日裏文書

土劦前殿十月五日御他界候、言語道斷子細候、飛脚僧一兩日已前上候、あさはしく候、自是下人候、脚氣毒腫よて三四十日御歡樂候、中々無是非候、此秋人のつけ候事、併天魔所行候歟、若（房家）公當年四歳候、これを國人先不相替尊敬分候、行末不知候、又中納言懷姪とやらん申候、近比あるれある事共候、國人十餘人入道仕候、妙華寺と申在所にて御葬送候、方々便宜尋候へ共候ハもと候間、先一ふて松林院へ書進候、重而委細可令申候、祭禮始行候由其聞候、事實候歟、目出候、恐々謹言、

十一月廿八日　　嚴寶

尋尊法華經ヲ讀誦シテ菩提ヲ弔フ

敎房兼良ニ贈ル歌

（ウハ書）大乘院殿　兒御中　一條殿より　嚴寶」

〔大乘院寺社雜事記〕七十五 十二月八日、

一松殿小（少）將（忠顯）相語、土佐足スリ院主法印入滅了云々、中納言懷任（姪）今月來月可有誕生云々、注進僧申之云々、四十日計御違例云々、御葬送事者、於妙華寺在之云々、自今日予御訪、法花經轉讀之、

十一日、雪下、

一自法花寺土佐中納言局書狀到來、一見禪閤へ被進御歌、

たらちおおもれもをりこうなけうをめ子おをくれおしうらミかもらて

〔大乘院寺社雜事記〕七十六 ○文明十三年二月二十三日裏文書

態以書狀申入候、就中土佐之御所樣之御事、近日承及候、近比驚存候、尤罷上可申上候へ共、當季之御祈禱共に不得寸隙候間、可然之樣被得御意候由所仰候、恐惶謹言、

極月十六日　　顯秀

文明十二年十月五日

興福寺學侶教房薨去ノ月ヲ尋ニ問フ

近衞房嗣ノ弔問

成就院殿

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十二月十七日、

一自學侶前殿薨給月事尋申之、

〔大乘院寺社雜事記〕七十六　○文明十三年正月六日裏文書

一條殿先殿薨御之御事、何之月之御事候哉、於寺門可令存知子細候、被示下候者畏存候由、學侶評定通可有御披露候、恐々謹言、

十二月十七日　　供目代昌懷

伊與法眼御房

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十二月廿一日、

一自（近衞房嗣）陽明禪閤御使竹屋（冷光）殿光臨、前殿御事御訪也、見參畏入之由申入之、

廿七日、節分也、

一自禪閤御書被下之、廿四日日付也、昨日春日祭上卿御妻（勘修寺經逸）被下向、今日則上洛之間、自傳害事傳到來、土佐中納言局書狀同到來、薨給日十月五日也云々、四日之由先日風聞了、御書同五日之由被仰下之、

尋常輕服

追號

〔大乘院寺社雜事記〕七十六　文明十三年正月五日、

一故關白月忌日也、法花經轉讀之、予輕服至今日九十个日也、

〔大乘院寺社雜事記〕七十七　○文明十三年四月三日裏文書

○上略、全文ハ十二月十一日ノ條ニ收ム、

一土州事沙汰外事候、根よりかれ候間、無力次第共候、

幡多ノ御寺也、妙華寺前博陸左相照岳、法諱宗惠、東福寺長老名つけ申され候、松林院得業房方へ、舊冬委細如此事共書狀進候つる、さてい其もまいり候いも候哉、珍事候、先日御狀憚（應）得業所へ遣候、これより一二町候、今度便宜ニ龍與方へ可遣狀候、萬事重而可申候、恐々謹言、

正月五日　　嚴寶

〔大乘院寺社雜事記〕七十六　正月七日、

一土佐御所御追號、幡多御寺名也、

妙華寺前博陸左相照岳、法諱宗惠、

東福寺長老名付被申云々、

十五日、朝雪下、

一風呂在之、妙花寺殿百ヶ日也、仍立之、懃行了、

百箇日風呂

【土佐國群書類從】四十八 土佐國編年紀事略 文明十二年庚子十月五日、從一條(冬良)前關白左大臣敎房中村ニ薨ス、年五十八、妙華院ト號ス、第二子房家、家ヲ嗣ク、宣胤卿ノ記并牌子妙華院二回天岳院一明ノ一條系圖ニ、妙華寺ヲ以テ、一條房眞ノ追號トス、未タ孰レカ是ナルヤ否ヤヲ知ヲス、今姑ク牌子ニ從フ、

岡豐ニ居ルハ中村ノ古城修築中村ノ御所

【一條家傳記】○土佐 前殿下敎房公、一條太閤兼良公ノ御嫡子也、文明二庚寅年攝津國兵庫ノ浦ヨリ、長宗我部兵部丞秦文兼御供ニテ、甲浦ニ御著、其後文兼ノ居城岡豐ニ移、一ノ郭ヲ點シテ御座、其後文明十一己亥、中村ノ古城ヲ結構ニ築テ、敎房、房家移リ給ヒ、中村ノ御所ト申テ、國中ノ諸士國司ト仰キ奉リケル、

母ハ中御門宣俊ノ女

一條敎房公ト申ハ、カケマクモ忝クモ、天兒屋禰ノ御末、從一位關白左大臣經嗣公ノ御孫、從一位准三位(后カ)左大將攝政關白太政大臣兼良公ノ御子、御母ハ中納言宣俊(中御門)卿ノ御娘、牛車兵仗隨身、左大將、左大臣、氏長(香祝カ)從一位、關白ヲ歷

給フ、文明元年辛卯、南都ニ歷居シ給ヒ、同十戊戌、土州長岡郡岡豐ニ御下向、同十一己亥、幡多郡中村ニ移住シ給ヒ、同十二庚子十月十五日(行)、中村ノ城ニオヒテ薨シ給フ、妙華寺殿ト號ス、其御子房家卿、文明六年(マヽ)甲午、京都ニ御誕生、同十戊戌年、御父敎房公ニ隨ヒテ、土佐ニ御下向、時ニ五歲(マヽ)ナリ、五位、四位少將兼土佐守、中將參議權大納言ヲ歷給ヒ、○下略

【諸家傳】一條下 敎房(妙華寺、權中納言宣俊女、母) 應永卅年、癸卯(朱書)誕生、永享十年十一月廿八日元服、十六歲、同日正五位下禁色昇殿、此間傳闕、年月日從四位上、永享十一年三月十八日權中納言、十七歲、直任、中將如故、同日從三位、十七歲、越階、嘉吉二年正月五日正三位、二十歲、中將如故、同四年二月六日權大納言、廿二(朱書)歲、同年三月廿七日奏慶著陣、○家譜、文安三年ナス、コト、文安三年正月五日從二位、廿四歲、同六年正月五日正二位、廿七歲、同年二月十六日兼左近大將、廿七歲、右大將實量可轉左之由被申年二月十一日內大臣實熙辭大將之時不被任、今日任之、所存、不可叶之由堅支申之間、勅許去辭享德元年十月十日內大臣、卅歲、同年月日左大將如舊、康正元年八月廿七日右大臣、卅歲、三(四イ)同日辭左大將、同三年六月十七日(五日イ)爲關白氏長者、卅六歲、依無現任上首不及左大臣、卅五歲、官次宣下、長祿二年十二月十五日

文明十二年十月五日

座宣下、寛正四年公卿補任云、此聞之處、可爲實量公下之由、依勅定奉押以補任云々、然而後日任父太閤執奏、以前關白爲上了、**同三年正月五日從一位**、廿七歳、**同年十二月十八日辭左大臣**、〇公卿補任、八日ノ誥ト云ナス、**寛正四年四月日辭關白氏長者**、(朱書)應仁二年九月六日下向土州、文明十

〔**攝家系圖**〕一條殿流

攝政氏長關白

兼良

關白氏長

母、小林寺殿、癸卯歳誕生、文明

教房

十二年十月五日薨、妙花院寺、

權大納言

母、爲之卿女、横死、應仁三年十

政房

十七日、東光寺殿、丙寅歳誕生、

菲院弟子

母同、

尊仁

灌頂、

母從三位顯郷女、實舍弟也、

冬良

右大將、左大將、權大納言、

母顯郷猶子、於土佐幡多丁酉誕生、

君

〔**尊卑分脈**〕藤氏一條

北家甲一

兼良

教房

氏長者、左大將、關白、左大臣、從一、牛車兵仗隨身、

母中納言宣俊女、文明十二、十三薨、先父公、號妙華寺殿、

政房

權大、正二、

文明元十十七薨、横、

房家

權大、正二、

天文八十一、於土州薨、

〔**一條家譜略**〕〇佐

兼良

卿〇事蹟略ス、

教房

卿牛車、兵仗、御隨身、左大臣、氏長者、從一位、關白太政大臣、

御法號妙華寺殿、

文明元辛卯年、御父兼良卿ト南都ニ閉居シ玉ヒ、同十戊戌年、土州御下向、長岡郡岡豐ニ居シ、後チ同十一己亥年、幡多中邑ニ御移住、同十二庚子年十月五日、中邑ノ城ニヲイテ薨去、御廟所中邑ニ有リ、御行齡八十(マヽ)歳、

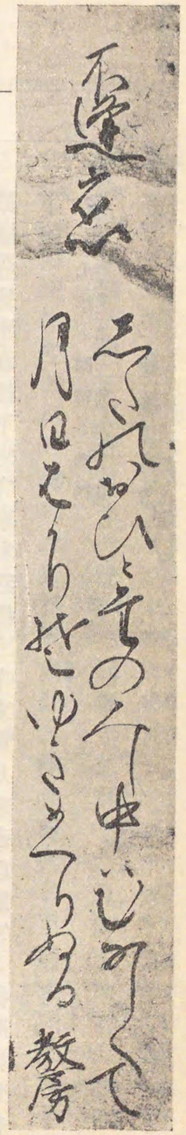
房家

卿土佐ノ國司ト奉稱、御家領一萬六千貫、

依爲卿

於攝刕兵庫、赤松下野守奉弑、延德三辛亥歳、足利義政將軍ノ御時御敎書下向、

〔**筆陳**〕上一條敎房短册〇越後保坂潤治氏所藏



教房ノ付句

〔新撰菟玖波集〕九 戀連歌中

をし鳥の袖行かけふおとろきて　妙花寺前關白左大臣

ひとりふすまのゆめそみしかき

〔新撰菟玖波集〕十 戀連歌下

わひしきも人つれなきもひと

忘れはやうらみても又いかならし　妙花寺前關白左大臣

〔新撰菟玖波集〕十四 雜連歌二

よりふみるより袖い露々し　妙花寺前關白左大臣

古郷のよもきう本にさちうへり

鐘なりてこそ尚さひしきれ

山うけいそのまゝくれてふる雨み　妙花寺前關白左大臣

和漢聯句

〔新撰菟玖波集〕十五 雜連歌三

春秋と盡に心のそてもなし

時ま去さうふ歌乃とろも

〔新撰菟玖波集〕十七 雜連歌五

すてよといとゝみは老にけり　妙花寺前關白左大臣

かくれ家をおもひ定めぬ年々に

〔新撰菟玖波集〕十七 聯句連歌 後花園院位ゐたゝしましける時、內裏ゐて侍し和漢連句の中ニ、

吟詩欲滿囊　妙花寺前關白左大臣

花いこれ春の手向けぬさおれや

〔大乘院寺社雜事記〕七十九 文明十三年十月五日、雨下、

一妙花寺關白殿一廻也、爲追善風呂立之、東門院僧正等來了、

〔大乘院寺社雜事記〕三八十 文明十四年十月五日、

一風呂在之、助德也、妙花寺殿下第三廻也、予奉祈菲了、依計會御佛事等不及其沙汰、無念々々、古市參申、風呂ニ入了、

一周忌

三回忌佛事ヲ行ハズ

七回忌
百萬遍念
佛

〔大乘院寺社雜事記〕百五　文明十八年十月五日、

一妙花寺殿下第七年也、助德風呂立之、百萬反勸進之、人別三萬反、又泰弘以下面々、昨日今日ニ同音經一部、

〔政覺大僧正記〕十一　文明十八年十月五日、丁丑、

一妙花寺殿今日七年忌ナリ、仍御風呂在之、時栄(榮)ヲ沙汰、

十三回忌

〔大乘院寺社雜事記〕百十二　明應元年十月五日、

一妙花寺殿下十三廻也、奉訪、御息士州若(房家)君者當生十六歲也、未及御元服、

二十五回忌

〔大乘院寺社雜事記〕百六十六　永正元年十月五日、

一妙花寺殿廿五廻也、時濟(濟下同ジ)地藏堂ニ三百文可下行旨仰了、予持濟、所々巡禮了、

三十三回忌

〔雪玉集〕六雜　藥草喻品

十月五日妙華寺關白卅三回ふるはゝゝゝ色はもミねろ木葉とて雨やいろそる谷せうけくさ

月忌

〔大乘院寺社雜事記〕百七　文明十九年正月五日、

一妙花寺殿月忌日也、〇毎年月忌異事ナキモノハ略ス、

〔大乘院寺社雜事記〕九十三　文明十六年十月五日、地振、

一妙花寺殿御忌日也、勤行了、〇毎年正忌日異事ナキモノハ略ス、

〔政覺大僧正記〕二十一　延德二年十月五日、甲寅、

一妙華寺殿御忌日、如形奉訪者ナリ、

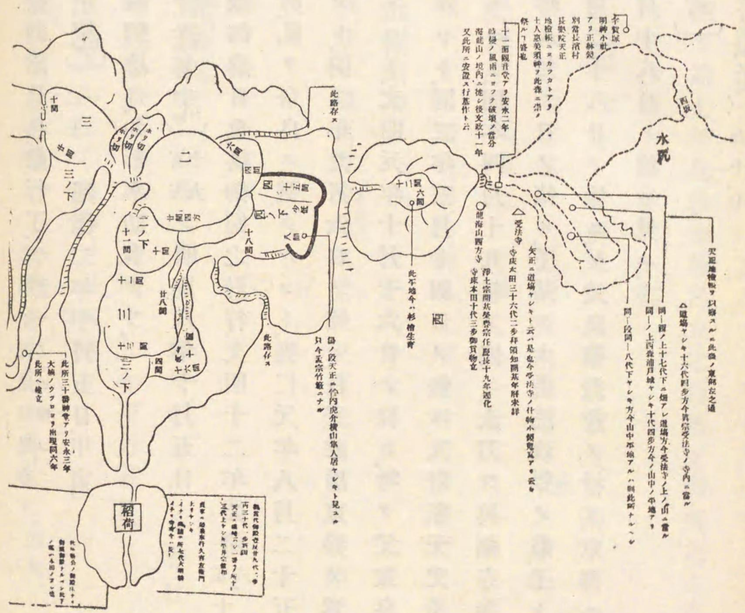
〔大乘院寺社雜事記〕百五十九　明應八年十月五日、

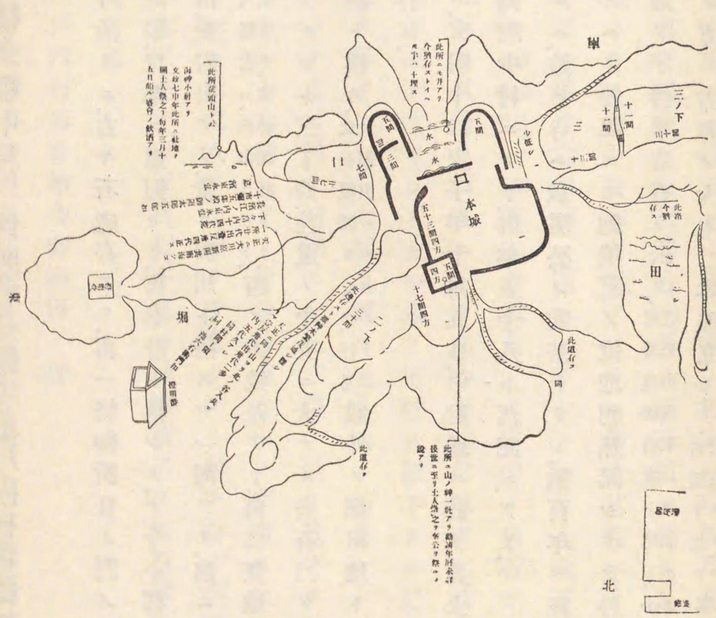
一妙花寺殿御忌日也、供御備之勤行、文明十二年薨給、五十八、當年廿年也、

〇敎房、亂ヲ奈良ニ避クルコト、應仁元年八月二十五日ノ條ニ、土佐ニ如クコト、同二年九月六日ノ條ニ、長子政房、東兵ノ爲ニ、攝津兵庫ニ殺サルヽコト、文明元年十月十六日ノ條ニ、物ヲ父兼良ニ贈リテ、下向ヲ勸ムルコト、同二年三月十四日ノ條ニ、入野家元父子ノ降伏ヲ春日社ニ祈ルコト、同年四月十九日ノ條ニ、太刀ヲ興福寺寺務經覺ニ贈ルコト、同年八月三日ノ條ニ、子某ヲ、大乘院政覺ノ弟子トナスコト、同十年十二月二十八日ノ條ニ、父兼良第造營ノ材ヲ京都ニ送ルコト、同十一年正月十八日ノ條ニ見ユ、

〔參考〕

〔土佐國群書類從〕九十七　一條殿御殿之圖


水戸
紹介


本城
南
北
東
西
堀
田

〔高知縣下幡多郡中村一條神社幷御墳墓戸内村舊藤林寺御廟所取調書〕

略○上

一中村京町通リニ、古キ石礎存アリ、舊一條御所日ノ門ノ舊跡也ト申傳フ、

一條氏第址ノ古傳京都ヲ模ス

市街家並等、京都ニ類似セリ、舊秦府ト稱シテ、于今小都府ヲナセリ、東南ニ比叡山、愛宕山アリ、麓ニ鴨川ト稱スル一河アリ、南ニ男山八幡宮ヲ鎭座ス、此八幡宮ハ、高山ニシテ、社地廣シ、當時縣社ナリ、西ノ方城趾アリ、舊二條城ト稱ス、一條神社ヨリ隔タルコト三丁餘、徃還ノ中央ニ大ナル臺石二ケ所顯レアリ、大手門ノ古跡ト稱ス、此石根深クシテ、容易ニ掘出シカタシト云、城外ノ堀田地トナリ、自然城廓ノ舊形ヲ存ス、

妙華寺ノ舊址

一敎房卿ハ、文明十二庚子年十月五日、中村城ニ於テ薨去、御法號妙華寺殿ト謚ス、御廟中村ニアリ、御年五十八ト舊記ニアリ、

按スルニ、妙華寺ハ敎房公ノ開基ナラン、數百年ヲ經過シ、終ニ朽果タルモノニテ、傳記ニモ、御墳墓ノ位地判然記シナク、妙華寺ノ舊寺跡ノ山ノ邊ヲ、字妙華寺谷ト云フ、當時奥御前宮ト稱シ、小社アリ、近來山内家ニテ設ケタル社、妙華寺舊跡右ノ方ニ、古杉ノ大木二本並立セリ、周圍十二尺程アリ、一本杉ハ、明治十九年

ノ暴風ノ爲メニ、根元ヨリ折レ、其ノ朽タル穴四尺四方ニテ、深サ五尺餘アリ、右ノ穴中ニ、三尺四方ノ角ノ板石顯レアリ、是則チ妙華寺殿ノ御墳墓ナリト、舊臣有志者手ヲ降サス、荏苒其儘ニナシ置ケリ、今回舊臣有志者ニ議リ、古記傳ニ照スニ、正シク妙華寺殿下ノ御墳墓地ト確認ス、他ニ敎房公ノ御廟跡ト申傳ナシ、有志者戮力シテ、穴中ノ角石ヲ引揚ケ見ルニ、果シテ奥行九尺程ノ石室ニシテ、其中央二尺四方ノ棹石アリ、棹石ノ周圍貳尺餘掘下ケタレトモ、一本ノ生杉ノ根下タニ壓サレテ、少シモ動カス、之ヲ鑿タンニハ、大杉ヲ倒スヨリ他ニ術策ナシ、有志者モ終ニ志ヲ遂スシテ止ム、因テ周圍ニ七五三繩ヲ張リ置ケリ、又妙華寺ニ、仁王門アリタルト古記ニアリ、前年妙華寺山ノ半腹ニ仁王ノ形アリシヲ覺エアルト云老人アリ、因テ搜索セシニ、則チ山ノ半腹ヨリ、仁王ノ石像一對出テタリ、竪三尺程、手足ニ破損所アリ、其石像仁王尊ハ、御墳墓ノ地ニ安置ス、

平田戸内村舊藤林寺御廟所ノ件

一藤林寺ハ、房家公ノ御開基ニシテ、寺領ヲ賜リ、見立山藤林寺ト付ラレタ

文明十二年十月五日

リ、中村地ヨリ巨離(距)五里隔タリ、平田戸内村ト稱フ、○中略下アリ、○略

一兩御廟ノ中央ニ小宮安置シアリ、其社内ニ御位牌ヲ奉祭シアリシ寫左ニ記ス、

妙華寺殿從一位前殿下　尊靈

諱教房、皇考從一位准三后前殿下兼良、文明十二庚子年十月五日薨

于中村鄉、得壽五十八、

七日、癸丑前關白二條持通薙髮セントス、聽サレズ、幕府モ亦之ヲ抑止ス、

〔宣胤卿記〕十月七日、癸丑雨降、(發小袖有沒)樂林來、令同道參二條殿、○中略大閤御對面、○中略

御得度事、近日可被申之由有仰、然者准后宣下事可被申云々、

十二日、戊午晴、參二條殿、大閤御出座、御得度事爲公武被留申云々、

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　○文明十二年十一月十三日裏文書

○上略新御所(大乘院政覺僧)へ申度候、二條大閤近日可有御落髮分候、とや御いとゞの事も被申入候、○中略、全文ハ九月十一日ノ條ニ收ム、

十月十七日

○持通ノ薙髮ヲ諭止セラルヽコト、其日詳ナラズ、姑ク宣胤卿記竝ニ大乘院寺社雜事記ニ依リ揭書ス、政嗣薨去ノコト、九月二日ノ條ニ、又持通、三宮ニ准ゼラレ、薙髮スルコト、延德元年四月五日ノ條ニ見ユ、

前和泉半國守護播磨守從五位下細川常有卒ス、

〔地下家傳〕一　細川常有　從五位下、刑部大輔、播磨守、文明十二年十月七日卒、

〔永源師檀紀年錄〕乾　同三十一年十二月二日、卯剋、八屋形(持有)次息ヲ誕生ス、彌九郎(常有)殿ト稱ス、

同二年四月廿七日、刑部(政春)大輔殿疾ニ罹テ卒ス、享年廿八、舍維ノ永源ニ斂ム、

等觀寺殿刑部郎誓翁道弘大禪定門ト號ス、居士ニ嗣子ナシ、賢弟ノ彌九郎殿此ノ繼子トナル、○下略、寶德二年四月廿七日ノ條參看、

同年夏、屋形ヨリ第二代ノ追善料寄投ス、

海老名跡替事、先以江田庄年貢每年拾貫文、爲薦福(禪長)院殿御追薦令寄附候、雖何時可然候、在所々々可寄附申候也、恐々謹言、

六月十二日　永源菴住持珠大首座　常有判

位牌ヲ藤林寺舊址ノ廟ニ安置ス

准后宣下ヲ請ハン

經歷

兄敎春卒シ家ヲ嗣グ

阿波高越莊海老名跡替トシテ江田莊年貢ヲ寄附ス

和泉篠田中尾寺住持永源庵ニ求ム

同年秋、屋形ヨリ篠田中尾寺ノ住持ヲ當庵ニ請フ、老臣片山有弘ノ狀ニ曰、

泉州篠田中尾寺ノ住持職事、可被預置由被仰出候、可然仁躰可有御下候也、恐々謹言、

七月廿二日　　大書記（咏大）參侍者御中　　有弘判

仍大書記移任（住カ）ス、此レ合浦琮成長ノ故ニ、永源菴ヲ讓ラシメンカ爲ナリ、

和泉中尾寺後ノ山ヲ同寺住持ヲ珠大ニ寄ス

同年、屋形ノ命ヲ承ケテ、泉州ノ守護代ヨリ中尾寺へ寄附狀ニ曰、

中尾寺後之山之事、雖神山、當住大書記樣別而御扶持間、於于御一期仁、堺ヲ別而進置者也、一西者東方屋舖をかきり、北者道をかきり、東者同路うきり、一鎭守之後ふ谷ヲ留をく也、右此分御一期之間、不可有相違候、仍證文之狀如件、

寶德二年十一月十三日　　信太遠江守　忠俊判

刑部少輔ニ任ズ

（享德三年）同年、屋形刑部少輔ニ任ス、

（長祿三年）同年、屋形ノ大方殿ヨリ、約諾ニ依テ、日根野秋段錢分ハ、永源菴一世之中チ、毎年受納ノ旨、香川ノ書到來ス、

和泉日根野村秋段

自大方殿別而依御契約子細、其樣御一期之間、泉州日根野村秋段錢之內

錢ヲ永源庵主永琮ニ寄ス

三貫文、每年可被進之由候、恐々謹言、敬白、

長祿二年四月十日　　建仁寺永源菴琮藏主參　　景次判

阿波高越ニ莊ヲ建テ大充ニ住持トス

同年、屋形ノ元臣香川ヨリ代官ヘ命セラル、狀、

日根野段錢內參貫文、建仁寺永源菴琮藏主ヘ可被渡申候由、恐々謹言、

長祿二年九月廿六日　　大庭五郎次郎殿　　景次判

寬正元年七月十日、屋形ヨリ妙性軒ノ料所ヲ寄投ス、

（文明元年）同年、阿州麻殖郡高越庄ニ於テ、屋形ヨリ一寺ヲ營建シ、永源菴惟忠和尙ノ高徒ノ滿室大充和尙ヲ請ノ、開山ト爲ス、山ヲ雲頂ト號シ、寺ヲ瑞高ト稱ス、

當寺將來ノ法式ヲ建テ、開山及ヒ屋形ト俱ニ花押列ス、以テ香火之場トス、且ツ屋形ヨリ滿室ニ就テ、衣盂法名ヲ受ク、春岳通泰ト筆受ス、

同年、入山田段錢等之事、妙性軒江買得ス、仍テ屋形ヨリ照帖ヲ授ク、

永源菴領泉州入山田大木菖蒲村段錢棟別之事、今度就御產所之儀、衆中江用之子細申候處、雖少事領掌候、然間別ニ過分錢主出來之處、琮藏主佗事候之間、四千疋分ニ妙性軒江賣度（渡カ）候、永代不可有相違者也、恐々謹言、

十一月十一日　　妙性軒　　常有判

大充ニ衣盂法名チ受ク

永源庵領和泉入山田ノ段錢棟別錢チ妙性軒ニ賣ル

文明十二年十月七日

播磨守ニ任ズ
剃髪
死去
法號
大充ノ贄
世系

同年、泉州大木等ノ段錢棟別免許ノ旨、屋形ノ老臣ヨリ執達スル狀ニ、
永源菴領當國入山田大木菖蒲村段錢棟別加免地在所、任御判之旨、永代
可有御知行由、被仰出候也、仍執達如件、
妙性軒　琮藏主　侍者御中　玄成判
同九年、〇中略此月、屋形ノ刑部少輔ヲ、五郎殿ニ譲テ、播磨守ニ任ス、
同年(文明十二年)五月、播磨守殿剃髪ヲ、播磨入道春岳居士ト號ス、
同年十月七日申下剋、播磨入道殿卒ス、春秋五十七也、舍維ノ永源及ヒ瑞高
ニ分骨ノ斂ム、瑞高寺殿刑部郎奉嶽通泰禪定門ト號ス、五郎殿ヨリ眞照ヲ
寫ノ、贊ヲ滿室ニ請フ、贊辭ニ曰ク、
奕葉撮略攝泉播備之域、累代坐斷阿土豫讚之壕、聲價喧南海、名世之治業、威
勢稱西藩、作家之貴豪、賦性恒愛禪、燕雲頂晩開瑞高、遊優間適青山外、坐臥徑
行聆松濤、

〔熊本細川家譜〕一

持有
　敎春

常有　爲兄敎春嗣、
合浦永琮長老　永源庵第五世住職、
常有　敎春養子、實弟、彌九郎、刑部辰十二月二日生、文明十二年庚子十月七日卒、年五十七、
岩屋坊　號勢譽、
賴常　早世、九郎、右馬介、(助)
政有　五郎、刑部少輔、初賴次、〇事略ス、四月二十四日ノ條參看、
元有　爲兄政有嗣、

細川常有譜　細川彌九郎源常有ハ、持有ノ二男ナリ、敎春子無キ故、常有ヲ
以テ繼嗣トス、寶德二年庚午四月廿九日、遺領相續ス、和泉半國守護職先例
ニ依ルヘシトノ證書ヲ給ハル、
(享)亨德二年癸酉五月、備前宇治鄕ヲ再ヒ返シ給ハル、右宇治鄕ハ舊ト南都雜
掌ノ所務ナル故、一旦雜掌ニ返シ與ヘラレケレ共、嘉吉元年、敎春勳功ノ賞
トシテ、格別ノ拜領ナル故、其趣キ訴ニ依テ、今度返シ給ハリシナリ、管領勝
元執達狀アリ、〇享德二年五月七日ノ條參看、
三年甲戌九月、刑部少輔ニ任セラル、十一月、山名右衞門督(持豐)入道宗峰退治ニ

嫡男頼常山名持豊征伐ニ従フ

和泉ヲ平定ス

應仁ノ亂ニ東軍ニ屬ス

畠山義就征伐ノ功

頼常

付テ、將軍義政ヨリ、不日馳向フヘシトノ命アリ、常有此頃病氣ニ依リ、嫡男頼常台命ニ應シテ上洛ス、時ニ年十三、〇享德三年十一月三日ノ條參看、

康正元年乙亥、畠山義就河内ニ在テ、義政ニ叛キ、其餘黨泉州ニモ一揆蜂起ス、常有台命ニ依テ、泉州ニ進發シ、勝利ヲ得タリ、義政ヨリ感狀ヲ給ハル、〇康正元年六月二十七日ノ條參看、

寛正元年庚辰六月、畠山義就征伐ニ付、義政ヨリ軍勢ヲ駈催シ、河内國ニ發向シ、戰功ヲ抽ヘシトノ書ヲ給ハル、此時常有泉州ニ在テ病氣ユヘ、頼常父ニ代リテ出陣シ、勝利ヲ得、討取タル首級ヲ常有ニ送リ、直ニ管領勝元ニ達ス、勝元ヨリ台感アリシ由、賞狀到來ス、此冬、畠山義就攝州ニ出張シ、勝元ト合戰ノ時、頼常、勝元ニ應援シ、勝利ヲ得タリ、將軍義政感狀ヲ給ハル、

應仁元年丁亥、細川勝元ト山名宗全確執ニ因テ、同意ノ輩雙方ニ馳集リ、大軍ヲ以テ、東西ノ京ニ對陣シ、屢合戰アリ、常有モ勝元ニ屬シ勤勞アリ、

文明十二年庚子五月、剃髪シテ、播磨入道春岳ト稱ス、十月七日常有卒ス、歳五十七、

〔永源師檀紀年錄〕乾　嘉吉二年正月七日、屋形長男ヲ設ク、九郎（頼常）殿ト稱ス、

政有

元有

常有夫人逝去法號

〇頼常ノ事蹟ハ、文明六年正月十五日卒スル條ニ收ム、

寶德元年十月、〇略　同ク六日、屋形次息ヲ誕生ス、五郎（政有）殿ト稱ス、〇政有ノ事蹟ハ、文明十二年四月二十四日卒スル條ニ收ム、

（長祿）同三年正月十五日、申刻、於于屋形三男（元有）ヲ設ク、預メ出家ヲ期スルカ故ニ、小字ヲ記セス、〇元有ノ事蹟ハ、明應九年卒スル條ニ收ム、

（永正）同二年四月廿四日、瑞高寺殿ノ室物故ス、七十九歳也、慈眼院殿普濟妙應大姉ト號ス、

〇常有、兄教春卒シ、家ヲ嗣グコト、寶德二年四月二十七日ノ條ニ、守護職ヲ安堵スルコト、同年同月二十九日ノ條ニ、修驗者等其徒ノ殺サレシヲ怒リ、今熊野神輿ヲ奉ジテ、常有ノ邸ヲ襲ハントスルコト、同年七月十七日ノ條ニ、和泉善法寺ヲ祈願寺ト爲シ、攝津祐禪寺ヲ山城建仁寺永源庵末ト爲スコト、同年九月十五日ノ條ニ、備前宇治鄉預所職ヲ安堵スルコト、享德二年五月七日ノ條ニ、和泉吉見莊ヲ安堵スルコト、同年九月十四日ノ條ニ、刑部少輔ニ任ゼラルヽコト、同三年十一月二十九日ノ條ニ、和泉日根野村極樂寺竝ニ同寺領ヲ永源庵ニ寄進スル

庚申和漢

コト、寛正二年七月十日ノ條ニ、讃岐東本山内功米ヲ同庵ニ寄進スルコト、同三年六月十三日ノ條ニ、永源庵領和泉入山田村ニ譲位段錢ノ督促ヲ停ムルコト、同五年十一月十日ノ條ニ、義政夫人日野氏、常有ノ邸ニ義尚ヲ生ムコト、同六年十一月二十二日ノ條ニ、常有同族持久、成春等ト、兵ヲ率キテ入京スルコト、應仁元年十月二十日ノ條ニ、子頼常卒スルコト、文明六年正月十五日ノ條ニ、子政有卒スルコト、同十一年四月二十四日ノ條ニ見ユ、

八日、甲寅、和漢聯句御會、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十月八日、夜よ入く、御れんくちと御さゝあり、

十四日、およひうゑん御ゐうんあり、

九日、乙卯、義政夫妻竝ニ義尚、嵯峨天龍寺、大堰河等ニ遊覽ス、

〔後法興院政家記〕五　十月九日、乙卯、晴、今日武家兩所幷女中、歷覽嵯峨天龍寺邊云々、

〔長興宿禰記〕中　十月九日、乙卯、晴、今日室町殿准后、幷大納言殿、御臺等渡御

天龍寺ニテ酒宴ニ大堰河ニ舟遊義政西芳寺ニ詣ツ

備中ヨリ歸京

爲富ノ詠歌ヲ天覽ニ供ス

嵯峨、於天龍寺方丈（假屋也云々、）有御一獻、其後大井川船乘御、有御酒宴云々、

廿日、丙寅、晴、今日室町殿渡御西芳寺云々、

十一日、丁巳、橋本公夏、播磨ニ下リ、尋デ、歸京ス、

〔宣胤卿記〕十月十一日、丁巳、雨下、行一條（清水谷實久）前黄許、今日橋本中將播州下向、爲暇乞也、

文明十三年六月廿六日、陰、午晴、〇中略橋本中將公夏朝臣今日自備中國上洛、自去年下國、

廿七日、甚雨、晴又降、〇中略次向一條許、橋本同宿也、賀上洛事、

〔十輪院内府記〕文明十三年六月廿九日、橋本中將來、自備中上洛云々、杉原十帖惠之、

十五日、辛酉、一條兼良、冷泉爲富ノ勅勘ヲ赦サレンコトヲ請フ、是日、之ヲ聽ス、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十月十四日、〇中略

前うより、(のカ)あゐひ事のかと、又とり御申、うゑ淡よみて(御返事カ)ゐ入らるゝ、こと事まつこれよりと御申、

十五日、○略中前うう昨日の御返事、色々御申のうへもとて、御めんのやう御申あり、よろこひ申さるゝ、

十六日、○略中れんさ寺大納言御れ寺よ、云もをろさまて申、

〔宣胤卿記〕十月十八日、甲子、晴、○略中次冷泉前大納言爲富卿、來、昨日勅免令出仕云々、

○爲富、拾遺和歌集書寫ノ命ヲ奉ゼズ、勅勘ヲ蒙ルコト、十一年閏九月二十二日ノ條ニ見ユ、

十六日、壬戌、幕府、景茁（廣坡、）ヲ等持院住持ト爲ス、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一○山城　御湯殿上日記　十月十六日、○略中らんとともうち院へ入院の御れ寺よ云こう、御さいめんあり、

○景茁、等持院住持ト爲ルノ日詳ナラズ、姑ク本文ニ據リテ揭書ス、

十九日、辛未、義政、山莊ヲ造ランコトヲシ、山城岩倉嵯峨等ノ地ヲ檢ス、

〔大乘院寺社雜事記〕○七十五文明十二年十一月十三日裏文書　○上略

一公方よい御山莊被立候いんとて、□□（岩倉下同ジ）石藏邊嵯峨邊、被御覽時分候、但御料足候いも候如何、○中略、全文ハ六月ノ條ニ收ム、是月ノ條ニ收ム、

十月十九日　嚴寶

（ウハ書）「大乘院殿　御中　いるへく候　嚴寶」

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十月廿日、

一隨心院殿より書狀到來、○略中公方爲御山莊可被立之云々、嵯峨岩藏以下御見知、但御要脚不審云々、

二十日、丙寅、島津友久、同國久等、連署シテ、誓書ヲ薩摩守護島津武久ニ致シ、相共ニ事ニ當ラントコトヲ盟フ、武久モ亦、誓書ヲ遺リテ之ヲ約ス、

〔薩藩舊記〕前集二十八案文在山田七郎右衞門久通

契狀案文

一御當家或者被引緣者、或者依年來之知音、動背守護之下知國家以及動亂度々事、先祖以來口惜題目候、仍此番（度カ下同ジ）一家親類以一味同心之儀、一遍ニ仰武久御成敗之儘、各可進退事、

一雖爲親子兄弟年來之知音、對武久有存非儀族時者、依爲舊好、再往可加敎訓、若違背其儀者、直申入御成敗之儀、可致奔走事、

文明十二年十月二十日

一家親類一味同心シテ武久ノ成敗ニ從フ　親子兄弟ト雖モ武久ニ背クモノハ其成敗ヲ仰ガン

一依三个國代々傳(轉)變候、成敵成御方、近所他方私ニ雖挿宿意、於此一筆以後
者、不存舊惡、可爲武久御爲題目之時者、從前之捨鬱憤、相互一味同心ニ可
有扶助事、
一一家一味同心之談合之以後、萬一不慮之子細出來、於一家中有不和之儀
時者、自餘之一家應一大事、武久受御意相償、內外可存無爲無事之儀事、
一寄々之所領依相交、有四過鄉境論、百姓逃散、夜討山賊時者、相互ニ決斷候
テ、可有其沙汰事、
一一家中如此申談候上者、談合之時不殘心中可申出候、縱又雖非愚意、可同
衆中之儀過半之宜事、
一如此申談候衆中ニ、自然從屋形モ、無理之子細欲仰懸時者、相共ニ侘事可
申事、
右條々爲申候者、
御神名、

文明十二年十月廿日

（本筆下同ジ）「相州家」相模守友久
「薩州家」薩摩守國久

武久ノ誓書

武久一味同心ニ申合ベシ
大小事ハ相謀リ急事ハ後事ハ解ニ披ベシ
政治ハ先規ニ依リ成敗セン
一家國人非儀ヲ抱者催促ヲ加ヘン

上書在之、

御一家契約狀

右御返答山田七郎右衞門尉久通有之、

一當家代々心々ヲ入他之手裏、國之成敗不事行候條、古今非案之處、此番驚(驚)
合一家、爲一味同心之談合、打非可助理御心中共承知候、偏ニ諸天之加護
候、然者武久モ一味同心ニ可申談事、
一就大小事、此御旁不申談候テ、不可相計候、若有急速之事時者、於以後可申
披事、
一國々政道者、守先規、一家中申談、可致其成敗事、
一到一家親類國方內之者、及有存非儀族時者、再三可加催促、若無承引者、一
家申談可致其沙汰事、
一一家親類一味同心ニ、不引親類兄弟緣者、我々ヲ可有扶助、專一之御談合、

「伊作」式部大輔久逸
「豐州家」修理亮忠廉
「知覽」下野守忠山
「新納」近江守忠續

一代々ニ無比類候、如然御心中之時者、偏親與可憑存事、

御神名、

文明十二年十月廿日　　武久

〔島津國史〕十二圓室公　多十月二十日、島津友久、島津國久、伊作久逸、島津忠廉、佐多忠山、新納忠續、相與盟曰、凡我同族、祇事吾君、今日既盟之後、若見不忠於我君者、可誨則誨之、可誅則誅之、雖曰親子兄弟、其弗敢赦、有渝斯言、諸神殛之、是日公與友久、國久、久逸、忠廉、忠山、忠續盟曰、卿等忠純、志存滅親、自今以後事無大小、請與議之、有渝斯言、諸神殛之、據圓室公舊譜、

○武久、東郷重香等ト締盟スルコト、便宜左ニ合敍ス、

〔薩藩舊記〕前集二十八忠昌公御譜中正文在濫觴谷恕兵衛重増

契狀

一三ヶ國如何樣雖轉變候、如御親父之時、大小事無二ニ可申談事、

一不被引緣者親類年來之知音、可有御志之通承候、大慶候、自是も一家親類、自然對貴樣有無理之子細時者、可致其成敗事、

東郷重香父ノ時ト申ニ同樣ニ申談ズベシ

一家親類ハ無理ノ成敗スベシ

一如此申談候之處、自然和讒凶害出來時者、相互可申披事、

若此條々僞候者、

奉請所者、上梵天帝尺、下堅牢地神、別而日本鎭守伊勢天照大神、正八幡大菩薩、春日大明神、稻荷、諏訪、當國鎭守新田八幡、開門鵜戸、霧嶋各々御罰可罷蒙也、仍契狀如件、

文明十二年十一月十日　　武久御判

和讒凶害ノ時ハ互ニ披陳スベシ

武久入來院重豐ト盟約ス

〔薩藩舊記〕前集二十八入來院氏文書

契狀

一三ヶ國如何樣ニ雖轉變、無二ニ可被成御志之由承候、我等モ世中雖如何樣之子細候、無二ニ可申談事、

一對我々彌御叮嚀之由承候、如此之御心中之時者、御大事ヲ身之大事ト存、偏憑被憑可申事、

一如此申談之處、若和讒凶害出來候者、互無覆藏（腹中同ジ）可申承事、

若此條々僞候者、

伊勢天照大神、熊野三所權現、正八幡大菩薩、天滿天神、諏訪上下大明神、可罷

蒙御爵候、

文明十三年辛丑六月廿三日　　武久御判

入來院殿（重豐）

重豐ノ請文

請文

一三ヶ國如何樣ニ雖轉變、如前々無二ニ御屋形御用ニ罷立、餘儀ヲ存マシキ事、

一私之心中再三村田殿ニ申入候、其外之儀不可有候事、

一若話說（和與）凶害之時ハ、乍憚被仰下、私之懇意ヲモ可申上事、

右此條々僞申候ハヽ、神名、

文明十三年辛丑六月廿三日

入來院氏十代ノ家督也、
進上　村田肥前守殿　　下野守重豐

契狀

武久入來院重聽ト盟約ス

重聽ノ請文

一三ヶ國雖如何樣轉變、無二可申合旨、得其意候、御親父重豐年來叮嚀之儀、殊去一亂之時、甚深之御志、父子共ニ自今以後、彌可被懸御意、子細專一候、如然之御心中之時者、一段他ニ異申談、御大事ヲ身之大事ト可存事、

一於御親類中之時宜、再三年（承）分候、可存其儀事、

一和讒凶害之時者、互無覆藏可申承事、

若此條々僞候者、

伊勢大神宮、八幡大菩薩、諏訪上下大明神、可罷蒙御罰候、

文明十三年八月廿二日

十一代忠昌公初御名
入來院又五郎（重聽）殿　　武久書判

包紙
御使川上又八郎殿

一三ヶ國如何樣雖轉變、無二御屋形御用可罷立事、

一言葉之意趣、私於親類之時儀、再三村田殿ニ親ニテ候者之被申上候、不可有其外之儀事、

一若和讒凶害之時者、被仰下無覆藏可申上事、

文明十二年十月二十日

右此條々僞申候者、

神名、

文明十三年辛丑八月　　入來院彈正少弼重聰
　　重聰

進上　村田肥前守(經安)殿

〔島津國史〕十二圓室公　文明十三年辛丑夏六月二十三日、公與入來院重豐盟、據圓室公舊譜、○中略　秋八月二十二日、公復與入來院又五郎重聰盟、重聰重豐之子也、據圓室公舊譜、入來院主馬系圖、

〔薩藩舊記〕前集二十八案文在之

契約

一於天下向者、雖如何體轉變候、無二心可申談事、

一萬一誰ニモ、我等ヲ可被背時者、同心アルマシキ由承候、如此之御心中時者彌々憑入、我等モ聊等閑ヲ存マシキ事、

一自然和讒凶出來(害脫カ)候時者、無覆藏可申承候事、

此條々僞候ハ者、

武久肝付方ヘ契約之御返事、

武久肝屬筑連下盟約ス

○久逸、村田經安、平田兼宗ニ、武久ヲ共ニ輔佐センコトヲ盟フコト、便宜左ニ合敍ス、

〔薩藩舊記〕前集二十八寫在之

契狀

一雖世上如何樣轉變候、無二申談御屋形武久之御所、一篇可仰申事、

一就公私、一段無等閑可申承候、然者可任御指南事、

一如此申談候之處、自然和讒凶害出來(讒脫カ)候者、互無覆可申披事、

此條々僞申候者、

神名、

文明十二年卯月五日　　久逸

村田殿(經安)

平田殿(兼宗)

〔島津國史〕十二圓室公　四月五日、伊作久逸與村田某、平田某盟曰、同心協力、共輔公家、有渝斯言、諸神殛之、據圓室公舊譜、村田某、平田某、蓋謂肥前守經安、右馬助兼宗、

〔薩藩舊記〕前集二十八載大平文書內

文明十二年十月二十日

此間もそしを不存候上、かさねてねんころの状を給候間、向後も御大事を
い身の大事と可存候、如仰公方のきい、ちうらにをよいす候、其外の事にを
き候てい、すこしもそ意のきを存ましく候、御同心こ候いゝ恐悦候、このて
ういつついり申候いゝ、あふきさてまつり候正八幡の御むちをまうりのふ(う脱カ)
べく(る脱カ)、恐々謹言、

文明十二年卯月廿二日　　藤原久範

字キレ殿

二十一日、癸酉、日本書紀御讀始、侍從吉田兼倶侍讀ニ候ス、尋デ、其勞ヲ賞シテ、從二位ニ敍ス、

〔歷代殘闕日記〕八十八元長卿記

來廿一日、可有日本紀御讀始、可令候侍讀給者、依天氣上啓如件、

十月十七日　　左少辨元長

謹上　侍從三位(吉田兼倶)殿

〔京都御所東山御文庫記錄〕○甲二十一　御湯殿上日記　十月廿一日、う(る脱カ)
とも三位きんたのことくの(も脱カ)ちよくさ奉かされく、ゑこうまてつ
ゐてよ、日やんたをよませらるゝ、へちしてのたとて、くろとれおちまて
よむ、この程のさむきよゑおうのとまもうらちやうもん□□いら(る脱カ)、労(労)しみ
殿も御ゐいり、御ひやうふの御うしろ御ちやう(もん脱カ)あり、あんをん寺とのも御
ゐいり、めてさし、
廿三日、日やんきのさむき、ふしミ殿御ゐいり、
廿六日、日やんきのさむきあり、
十一月六日、日やんたのさむ炎申、労しミとのも御きゝあり、
九日、○略中日やんたのさむ炎申、
十三日、日本きのさんきあり、(つ)げいつる(こ)と申、ふしミ殿、御むろ御ゐいり、御斗
ゐよて御さう月ゐいる、こよひ五(ご)まちあり、
十七日、日本きのさんきあり、御むろ御ゐいり、
廿一日、日やん炎のさんき、御むろ御ちやうもんに御ゐいり、
廿八日、○略中日やん炎れさんたあり、
十二月一日、○略中ふしミ殿、日やんきのさん炎よ御ゐいりありて、御さう月
まてゐいる、

文明十二年十月二十一日

黒戸ノ落間　邦高親王御聽聞　安禪寺觀心尼御聽聞　道永法親王御聽聞

四日、日やんきのさんたあり、
六日、日やんきのゑんきあり、ふしミ殿御刀いり、
七日、さんたおおし、
十日、御けつり御くし新内、日やん後のさんたあり、
〔後法興院政家記〕五　十月廿日、丙寅、晴、入夜小雨下、海住山亞相（高清）來、從明日、於禁裏吉田三位談日本紀云々、余所持本令借用間借遣之、
〔親長卿記〕十一　十月十七日、晴、早旦參內、請取番也、今日仰云、日本紀事可有御講尺、被仰吉田三位、兼俱卿、御侍讀事可書遣勅裁之由、可仰元長、伴日祇候在所事、先日被仰談禪閤之處、黑戶簀子此間有假室禮、被敷赤緣疊之處、可爲如何哉之由有仰、其分可然之由被申、於聽聞之輩者、可候上云々、可爲此分歟、予所存如何之由有仰、予申云、此落間事爲簀子、爲假室禮不可然歟、殊候御讀之間、隔聽衆之條不似物儀（儀）、寬元之度、於御學問所有御讀云々、殊舊院御在位之時、御讀書之時、每度於御學問所有此事、故清三位業忠講尺之時、故万里小路前內府（時房）、于時大納言、故洞院左府（實煕）、于時大納言、連々聽聞、各候簀子了、爲御學問所者旁可然歟仰云、此儀尤可然之由被思食也、可治定之由有仰、

兼俱祇候ノ場所ヲ一條兼冥ニ諮ラセラルル赤絲疊

御學問所ニ祇候セシメラルベシ

甘露寺親長ノ意見

黑戶前簀子ヲ假室ノ所トセントス

一條兼冥

吉田兼俱御學問所ハ初度ノ儀ニハ如何ト說ク

黑戶近年ハ內々ノ御所ナレバ用ヒラルベシ

黑戶御所ニ決定

廿一日、晴、今日日本紀御談義、並御讀書始也、此事此間以民部卿（白川忠富）被仰兼俱卿、御侍讀事可遣勅裁之由被仰元長、去十七日書遣之、次參候在所事、先日被仰合禪閤、黑戶前簀子有假室禮之所、緣赤疊敷、此所可然之由被申意見云々、仍去十七日被仰合予之間、申所存了、侍從三位兼俱卿所存、寬元四年御讀書始於清涼殿有此事、後堀河院御時、於常御所有此事、寬元連々講尺之時、於議定所有此事、御學問所事雖有例、於初度之儀者、如何之由猶申云々、午剋參內、被召御前、此子細有仰、予申云、清涼殿事者、出御當時不可叶（依無御物具、出御座不叶）、議定所事、就講尺可有群參、議奏敷奏之輩之外參列之條、當座不覺悟、先規常御所是又雖令勘進例、其所不審、縱雖候御讀、就講尺之儀、不可有參仕之人、參仕常御所事、無左右人々不可叶歟、云彼云是、就無其所、任先例御學問所計申了、雖然存不足之由者、於黑戶此間如御連歌群參之上者、可有御沙汰歟、黑戶事近年內々御所也、是又至舊院御代、外人無參仕、雖然嘉吉四年、內裏炎上之後、造內裏之時、就無泉殿、自然御會無其所之間、仍替已前被改指圖、如此之間、可被宥用歟、仰云、此定ニテコソアラメ、中院大納言（通秀）、勸修寺大納言（敎秀）等可仰合云々、仍予招兩卿、仰之趣予所存分相語了、兩卿同心、此子細奏聞、然者可用意黑戶云々、

先御讀書始次ニ講義

予申云、今日御講尺歟、可爲其分、予又申云、先任例可有御讀書始之儀歟、其後更有講尺者、可然之由言上了、尤可然之由有仰、先儲御座（黑戸東間）、常御座之前立屏風、敷小御座、敷御茵、御前立白木机、（新調）、其下落間立白木机、出御、以元長被召兼俱卿、參仕、御讀之儀畢退出、次御屏風小御座御茵等撤之、立御屏風於本御座（白木机、如先、但自已座引退被立机、）次諸卿參入、

次第

聽衆

中院大納言、（通秀、）勸修寺大納言、（教秀、）海住山大納言、（高清、）源大納言、（雅行、）予、中御門中納言、（宣秀、以予申所望之由、就勅許參候、）侍從中納言、（實隆、）滋野井前宰相中將、（教國、）民部卿、（忠富、）四辻宰相中將、（秀經、）新宰相（基綱、）等也、殿上人言國朝臣、元長等有次落間、卜部兼致、菅原長胤等候簀子、直垂之輩、於地下聽聞、事了各退出、

殿上人ハ次ノ落間ノ直垂ノ輩ハ地下

又可爲明後日云々、

廿三日、晴、日本紀講尺也、參內、

廿四日、晴、自今日禁裏犬死穢云々、仍日本紀御讀義（緩カ）延引云々、

犬死ノ穢ニ依リ延引

十一月廿一日、雨下、日本紀御談義也、（吉田三位、）

廿六日、朝晴、自晝雪下、（○中略）參內、日本紀御談義也、

廿八日、晴、參內、有日本紀御談義歟、於御講尺不可苦之由、有御尋、雖爲三ケ日

一條數房蔀去ニ依リ講義ノ可否ヲ親長ニ問ハセラル

中不可苦、或御會音奏等被停止歟之由申了、仍今日有之、

〔宣胤卿記〕十月廿日（丁丑）、晴、今日於禁裏日本紀御談義、兼俱卿申之、余爲聽聞、先行都護許、著衣冠、午剋都護、左少丞等同道參內、（頭カ）順之、兼俱卿參、先有御談儀、（幾下同ジ）日本紀卷本、草子本也、置小机上談申之、先兼俱卿參之後、聽衆參進、中院勸修寺、源大、海住山等大納言、都護、余、侍從中納言、滋野井前宰相中將、伯二位、民部卿、四辻宰相中將、姉小路宰相等同間、左右相分參候、殿上人言國朝臣、元長、卜部兼致、菅原長胤等有下壇也、自御前不見所也、直垂衆於西小庭聽聞、日野中、兵部卿、西川前宰相、侍從右衞門督、宣親朝臣、重治朝臣、清三位等也、兼俱卿候所事、兼而可爲簀子之由被定之處、以例申所存之間、臨期被改者也、今日端四五行可申分、致文字讀之處、不慮經剋之間、日本書紀卷第一神代上、此十字許申之、

廿三日、己巳、晴、今日日本紀御談義也、於都護許午剋著衣冠參內、在所幷聽衆同一昨日、但兵部卿、俊量朝臣等依番參候、

日本書紀卷第一神代上ノ十字ヲ講ズ

寒嵐ニ依リ聽衆少シ

廿六日、壬申、晴、〇略中午程於都護許著衣冠參內、日本紀御談義也、聽衆中院、勸修寺、都護、左少丞等不參、其外同前、兵部卿、侍從、黃門以下直垂於庭上聽聞之、

十一月二日、戊寅、雨降、〇略中今日日本紀御談義也、於都護許著衣冠參內、頃之兼俱卿參、聽衆中院大納言、海住山大納言、余、伯二位、民部卿等也、源大納言後參、其外不參、庭衆勸修寺中納言、廣光、侍從宰相、政爲卿、右衞門督、爲廣卿、卜部兼致等也、又可爲來九日云々、

九日、乙酉、雪降、日本紀御談義也、參內如六日、聽衆海住山大納言、余、滋野井前宰相中將、伯二位、民部卿等也、菊亭大納言（公興）候番之間、申請聽聞之、其外庭衆等一向無人、依寒嵐也、

十三日、己丑、晴、今日日本紀御談義也、著衣冠參內、聽衆中院大納言、海住山大納言、余、伯二位、民部卿等也、卜部兼致直垂有庭、

十七日、癸巳、晴、日本紀御談義也、自都護亭參內如例、聽衆中院大納言、海住山大納言、按察、余、伯二位、民部卿、元長等也、日野中納言、卜部兼致有庭上、

廿一日、丁酉、雨下、今日日本紀講尺也、參內如例、聽衆源大納言、海住山大納言、按

神鏡ノ段
劍ノ段中臣祓御傳受
景賢聽聞
上卷終ル
下卷ヲ始ム
吉田齋場勸請

察、余、伯二位、民部卿、卜部兼致等也、今日神鏡段也、

廿六日、壬寅、陰時々雨、自申程雪甚、〇略中今日日本紀御談義也、劍段也、先中臣祓御傳受、他人不聞也、今日聽衆、源大納言、海住山大納言、按察、余、伯二位、民部卿、卜部兼致等也、又等持院（蘭坡）住持參聽聞之、

廿八日、甲辰、晴、日本紀御談義也、聽聞如例、海住山大納言、直垂有庭、按察、余、伯二位、民部卿、俊量朝臣、番也、卜部兼致等聽聞之、上卷今日申了、

十二月一日、丁未、晴、月朔幸甚々々、今日日本紀御談義也、參內如例、聽衆中院大、源大、海住山大、余、伯二位、民部卿、四辻宰相中將等也、卜部兼致直垂有座、下卷今日始也、

二日、戊申、晴、早旦行水、湯也、參詣吉田社、社頭亂後未立、勸請齋場所、兼俱卿宿所、咫尺之間、立寄賀日本紀御談義參事、

四日、庚戌、晴、僧兩口招請如例、今日日本紀講尺參內如前、聽衆源大納言、海住山大納言、余、伯二位、民部卿、姉小路宰相等也、卜部兼致直垂御庭（笑說カ）、下卷書一段申了、

六日、壬子、晴、日本紀御談義也參內、聽衆源大納言、海住山大納言、余、伯二位、民部

結願

神祕御傳授講義以前敍位

卿、四辻宰相中將、以量等也、下部兼致直垂候庭上、
七日、癸丑、晴、寒嵐、日本紀御談義也、參內如昨日、聽衆中院大納言、海住山大納言、
勸修寺中納言、余、伯二位、民部卿、以量等也、下部兼致有庭上、
十日、丙辰、晴、今日日本紀講尺也、參內如例、聽衆中院大納言、按察、余、伯二位、民部
卿、言國朝臣、下部兼致等也、海住山大納言直垂候庭、
十四日、庚申、晴、今日日本紀講尺結願也、著衣冠參內、自都護亭相伴、○中略今日日本紀聽
衆中院大納言、源大納言、海住山大納言、按察、余、侍從中納言、滋野井前宰相中
將、伯二位、民部卿、姉小路宰相、下部兼致等也、就神祕御傳受、今日被仰賞、從二位、
講尺以前、於便宜所、藏人左少辨仰兼俱卿、故可遣一通云々、
十七日、癸亥、晴、○中略遣使者於侍從二位、賀講尺無爲幷加階事、
〔長興宿禰記〕中　十月廿一日、丁卯、晴、今日吉田預三位兼俱卿參內、日本紀神
代卷講談申云々、此間一條禪閤細々御參內、江次第御談義在之、各依勅定也、
○兼良江次第ヲ講ズルコト、本月三日ノ條ニ見ユ、今日兼俱卿依昇殿御免、被召黑戶內下座參候、衣冠、
可候簀子歟由有御沙汰、參候殿內、父祖昇殿以後有其例之由言上、仍參候黑
戶內云々、

〔公卿補任〕四十三　非參議從三位卜兼俱　神祇權大副、侍從、月日敍從二位、
越階、
〔諸家傳〕十四下吉田　兼俱本兼敏、文明十二年十月廿二日從二位、
二十六日、戊寅、山城宇治平等院ニ太刀ヲ寄進セラル、
〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十月廿六日、○中略
○山城
うちのひやうとう院の御やうの御さちやふいさるゝ、
二十八日、甲戌、德大寺實淳、大炊御門信量等、酒饌ヲ獻ズ、
〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十月廿八日、なふ
○山城
の御さゝ月ゐいる、（實淳）とく大寺の申さゝよて、をり五うう、御おさへ物、御さゝ
月のさゝ、御さゝる五うゐいる、大ゝんの御りと□折三うう、二うゐいる、五
十し松のさうさありて、御ひし〳〵と一こんゐいりてめてさし、（實遠）さいをん
寺、（雅康）あそう卒りのやういつものゝ人をゑこう、ひうのゝち、うさ卒なとあり、
ない し所へ御さゝる一ゐいる、
〔後法興院政家記〕五　十月廿八日、甲戌、晴、雨下、內府、右大將等令持參折樽於
禁裏、有御續歌云々、

人數
勅題
手付

〔親長卿記〕十一　十月廿八日、雨下、參內、內府、右大將等一獻申沙汰也、人々祇候、依仰也、
前內大臣、實遠、(大炊御門信量)(勘解由小路兼綱)(庭田雅行)(海住山高清)(德大寺實淳)
(西園寺)
人言國朝臣、元長、(山科)(西坊城)菅原長胤等也、有五十首續歌、勅題、有披講、讀師內大臣、講師元長也、
〔宣胤卿記〕十月廿八日、甲戌、雨下、自西園寺前內府被借之間、冠袍遣之、今日於禁裏德大寺一獻申沙汰、爲御人數令參云々、
二十九日乙亥、中御門宣胤ヲシテ、鳥子紙ヲ近江坂本ニ徵セシメラル、
〔宣胤卿記〕十月廿九日、乙亥、晴、民部卿折紙到來、於坂本鳥子百四十枚申付可進由被仰、手付先二ヶ被下之、
冷泉爲富、本間久季ヲ其所領遠江高部鄉ノ代官トナス、
〔本間文書〕○京(冷泉爲富)(花押)
遠江國高部鄉內冷泉方御代官職事、所被仰付候也、於御年貢者、任請文旨、無不法懈怠之儀、可有執御沙汰候、仍補任狀如件、

平松資親　知行
崇賢門院　御借用
大聖寺宮　御借用

文明十二年十月廿九日　　冷泉家雜掌
本間中務丞(久季)殿　　吉田(花押)

○爲富、拾遺和歌集書寫ノ命ヲ奉ゼズシテ、勅勘ヲ蒙ルコト、十一年閏九月二十二日ノ條ニ、勅勘ヲ赦免セラルヽコト、本月十五日ノ條ニ見ユ、

是月、前參議平松資冬、山城仁和寺齋宮町ノ地ヲ安堵センコトヲ請フ、
〔京都御所東山御文庫記錄〕甲百五　諸寺雜々
(表書)「諸寺雜々之內本紙有新寫」　○山城
前宰相資冬(平松)申
右子細者、仁(藤原伸子)しさいくうはちの事は、後光こん院御宇延文二年、おうそ權中納言すけ(平松)親卿知行仕ところよ、康曆元年、すうけん門院かりめされ、其後應永二年ニ返下され、同十二三年まてい知行をかまつる所ニ、又大しやう寺殿のちこれう五(義持)いんさ申、かりめさるゝあいさ、度々そせう申所に、廿年あまりニなり候時、かの御ゝとしすてニ九旬ニをよとるゝ間、御一期のゝち返下さるへきよし、こゑしやう院をもつて被仰畢、さうあるニ、れう五う院御かくれ

資繼領所ニ下ル

山名政豐山城守護下爲リ此地ヲ渡付ス

のみきり、亡父中納言もけ繼卿、きう院御時、いとまを申入、さいこくれあひ
さ存知仕らす、おけき申入さる所に、返し付られもけつく五こん院と申そ
う寺へ御きえん、ゆへおくそんし、えうそをふくんてはうり過者也、爰こん
と一らんこつきて、山名(政豐)かうさん申、たうこくえゆこえきとして、仁ヒしう
ちせいもいの時、たう家のちきやうゆうえよのよし、えせうをもつておけ
く所に、きゝヒけてこのさい所わさし侍候、よつてひろいし贈内府(綱光)申入、ヒ
んしをおし下され候、てうおんとして仰付られ候、はらこもへおきにあら
す候也、たゝゆふえよもなく申かもめさるやうこ仰られ候、めいヒく仕候、
かんよういせんきのむほこまうせられ、御下知さあつおらい、かさしけお
くかしこはり入可存者也、仍言上如件、

文明十二年十月　日

十一月 大 丁丑 朔 壺

一日、丁丑、日食、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十一月一日、けさ
○山城
よりい御よしにおる、日えよくよて、あう月よ［　］もる、御おて物返ヌ
いる、くら人とみ(五辻)おう、

〔宣胤卿記〕十一月一日、丁丑、晴、日蝕、寅卯時不正現、

御祝、

〔京都御所東山御文庫記錄〕○甲二十一　御湯殿上日記　十一月一日、○略中
○山城
あさ御さう月いつものとし、花山より御まお二色二ヌいる、およひ御さ
らはちつ祢のおとし、

二日、戊寅、御生母大炊御門信子ノ第造作始、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十一月二日、ひむ雨ふる、
○山城
うしのとうおん殿とりさてらるへき御うとういしめけさあり、めて受しゝ
ゝ、

廿五日、○略中　ひんうしのとうおん殿おとひ御ヒさまし、めてさし、なういし

禮ニ祇候

御つゝひに御まいり、
廿八日、〇中略ひんかしのとうゐん殿御うつりの御れいに御まいる、御たるニか御てんしん色々まいる、

幕府、越前守護代朝倉孝景ニ命ジテ、春日社興福寺領同國坪江郷河口荘ヲ同寺ニ還付セシム、

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十月十四日、

一納所興弘擬講申、松林院得業母儀ハ、甲斐緣者也彼書狀於國大切、明日可申上、松林院幷門跡より可申上云々、御方御所御內書同可然云々、則巨細書狀出之了、

廿二日、

一兼親得業書狀到來、屋形甲斐方へ之母儀書狀二通進之、一切經納所へ可付云々、伊勢守（伊勢貞宗）書狀ハ御奉書到來之時可進云々、

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　〇文明十二年十一月十一日裏文書

納所より可封候へハ不封候、早々可申出候旨、納所申候、此使より可被返下候、只今慈恩院候、

坪江川口事、武衞幷甲斐方へ書狀、兼親母狀兩通幷兼親狀懸御目候、國へ之書狀不損候樣に被御覽、此使に被返下、納所方へ可遣候、兼親狀も御覽之後可被返下候、

一御奉書成候樣に、我々狀をくれ候へと、自納所申候、明日上候とて候之間、今日納所へ可遣候、御奉書成候事者、安事にて候、必可成候、御奉書成候者、勢州狀可下候由申候、

一明日自賢聖院、入京へ可上候、御狀候者可被遣候、

一御方御所の御內書の事者、必定不可成候事候、其故者、惣天左樣之御內書被成よて候事ハ候ハす候由、能可存知候者申候、

一先日言上仕候夏法服事、萬一御講よ參勤候者、一向奉憑候、御左右如何候哉、但重天外（拜）見仕少候者、其子細重天可申入候旨、可有御申候、恐々謹言、

十月廿二日　　兼雅

御番衆御中

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十一月九日、

一河口庄坪江鄉事ニ、京都奉書到來之由、納所興弘申入之、門跡定使令下向

者可事傳云々、不定之由仰了、伊勢守內狀事ハ近日不和之間、難出之由申旨、兼親得業申給之、

春日社兼興福寺領越前國坪江河口兩庄事、以前被成奉書處、于今不事行云々、太以不可然、所詮不日可被沙汰付寺門雜掌由、被仰出者也、仍執達如件、

文明十二　十一月二日　　英基（布施）　貞康（紘田）

守護代（朝倉孝景）

廿三日、

一虎松丸越州下向、卷數幷書狀共遣之、斯波殿甲斐、朝倉（朝倉氏景）、同孫衞門（光玖）、慈心院也、寺門より京都內書等付之云々、

再ビ延引

八日、甲申、權ニ春日祭ヲ停メ、尋デ、之ヲ行フ、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十二月廿六日、春日まつりよて御神事也、

〔宣胤卿記〕十一月廿日、丙申、晴、今日春日祭延引云々、

廿三日、

一虎松丸越州下向、卷數幷書狀共遣之、斯波殿甲斐、朝倉（朝倉氏景）、同孫衞門（光玖）、慈心院也、寺門より京都內書等付之云々、

八日、甲申、權ニ春日祭ヲ停メ、尋デ、之ヲ行フ、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十二月廿六日、春日まつりよて御神事也、

〔宣胤卿記〕十一月廿日、丙申、晴、今日春日祭延引云々、

十二月廿四日、庚午、晴、○中略、又、春日祭上卿（明後日）勸修寺經茂奈良下向、依路次不通、廻西路之故也、

廿五日、辛未、晴、○中略、今夕沐浴始神事、明日爲春日祭遙拜也、

廿六日、壬申、雪降、今日春日祭也、式月依訴延引、社司訴ニ依リ延引、早旦行水、著衣冠遙拜、庭上敷一枚、次奉拜大原野、吉田、多武峰等、抑春日祭上卿勸修寺中納言經茂卿一人參行、近年之作法也、爲寺門付五百疋訪、仍彼黃門每度參行希代事也、其外六位外記等參向如例、興福寺訪料五百疋ヲ出ス

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十二月廿七日、節分也、

一略○中昨日春日祭上卿御妻被下向、今日則上洛、

〔春日祭歷名部類〕（文明十二年）同年十二月廿六日、壬申、祭、式月依訴延引、社司訴ニ依リ延引、上卿權中納言經茂、

十二日、戊子、和漢聯句御會、關白近衞政家、酒饌ヲ獻ズ、一條兼良祇候

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十一月十二日、○中略（近衞脫カ）殿御申ハよて、御ひらん（久我通博）大炊御門信量）（德大寺實淳）ういつもの人すゑこう、前右ふ、內ふ、右大將、けさはゑこうなし、こん御ゆつけともに七こんまいる、きくていの右ふよりも、御まゐ二色、御さる二ゐ、菊亭教季モ酒饌ヲ獻ズ

いる、御ひし〳〵めてさし、

文明十二年十一月十二日

獻料千疋ヲ獻ズ

連歌兼良發句

政家獻饌ノコトヲ伺フ

〔後法興院政家記〕五　十一月十二日、戊子、晴陰、巳刻令參內、余令申沙汰一獻、兼日獻料千疋付長橋、西園寺申沙汰之時如此云々、今日御和漢也、每事如先度御會、以後御連歌一折有御張行、禪閤發句也、盃酌數巡以天酌頻被下間、沈醉以外事也、子半刻退出、今日不參衆、久我前右府、內府、右大將、飛井（烏脫）（雅康）中納言、按察卿（甘露寺判長）等五人也、右府今日進上折樽云々、

〔親長卿記〕十一　十一月八日、雪下、三寸、四自關白給御使、於禁裏一獻可申沙汰、可申入云々、申入可申御返事由申、伺申了、十二日之由有仰、

九日、晴、一獻事、十二日分申殿下了、

十二日、晴、今日禁裏殿下一獻申御沙汰也、有和漢云々、御人數事一昨日依仰相催了、予依所勞不參、召進元長了、

〔宣胤卿記〕十一月十二日、冬至也、戊子、晴、○中略今日殿下一獻申御沙汰、可有御和漢云々、

〔長興宿禰記〕中　十一月十二日、戊子、晴、冬至也、今日禁裏和漢御會也、殿下御參內、一獻申沙汰也、

○コノ後、和漢聯句御會ヲ行ハセラルヽコト、便宜左ニ合敍ス、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十一月十八日、御ところん御はさあり、らんともちらさまいらるゝ、

卅日、御ところん御はさあり、らんとも云こう、

十二月三日、わうん御はさあり、

七日、○中略御ところんあり、おうたし御うゆ色々ふるまゐ万いらきられて、御しやうくとんあり、めてさし、

〔菊大路文書〕六　○山城　十九日、乙未幕府、石清水八幡宮領因幡宇治蒲生莊ノ內、蒲生眞清庶子割分地鳥越名、久元名、橫尾名、秋重名等ヲ眞清ニ還付ス、

八幡宮領因幡國宇治蒲生庄內、蒲生眞清庶子割分地、土師但馬守跡鳥越名、同廻田分久元名散在地、橫尾式部大夫跡橫尾秋重兩名等事、彼兩人沒落之上者、如元爲社領被返付蒲生訖、可被存知之由、所被仰下也、仍執達如件、

文明十二年十一月十九日　（布施英基）下野守（花押）　（松田貞康）豐前守（花押）

二十一日、丁酉、故伏見宮貞常親王ノ王子等貴、得度セラル、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十一月廿一日、中略（猶貴）もんせう御とくせあるへき御いとはこ并ゟ御まいり御さゝ月三こん、その外うさ并おとあり、御（遠永法親王）むろもいまた御しこうのやとまて、御ひしゝまいる、めてたし、

○等貴得度ノ日詳ナラズ、姑ク本書ニ據リテ掲書ス、

二十二日、戊戌、定法寺公助ヲ權僧正ニ任ズ、

〔宣胤卿記〕十一月廿二日、戊戌、雨下、遠山雪也、○中略今日法印公助任權僧正事、宣下到來、職事元長、

〔華頂要略〕三十四門下傳　院家一　定法寺　峯寺別當、鞍馬寺別當、法性寺座主、號善學院、公助大僧正、三條左大臣實量公三男、母實助大僧正弟子、法務、橫川長吏、多武峯寺別當、文明十二年十一月廿二日、任權僧正、二十八歲、上卿、○姓名闕ク、

奉行甘露寺辨元長、

右兵衞佐町顯基ニ昇殿ヲ聽ス、

〔親長卿記〕十一　十一月廿二日、晴陰、頭中將（中山）宣親朝臣、顯基（町）故顯卿子、昇殿事、禪閤有執奏、勅許下知之樣尋之、

得度ノ暇乞ニ參內

一條兼良ノ執奏

顯基所被聽昇殿也、可令下知給、仍執達如件、

十一月廿二日　左中將、——

藏人大內記殿（胖源在數）

河野通直、伊豫國分寺ニ命ジテ、諸給人年始ノ禮ヲ舊ニ據ラシメ、且寺中酒ヲ用フルヲ禁ズ、

〔伊豫國分寺文書〕○坤○伊豫國分寺之事、諸給人年始之禮儀之規式、任先例可有沙汰、次於寺家酒一向可被禁制者也、仍下知如件、

文明十二年十一月廿二日　刑部太輔通直（河野）（花押）

二十三日、己亥、皇女大慈光院宮、丹波ヨリ上洛シ給フ、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　○山城　○中略（大慈光院宮）をう殿さんをより、一昨日御のやり、御ゆいに御まいり、御さる色々まいる、　御湯殿上日記　十一月廿五日、

二十四日、庚子、備後杉原元忠、弟盛忠ニ、同國高洲ノ地ヲ譲ル、

〔萩藩閥閱錄遺漏〕四ノ二　高須直衞書出シ

岡殿

文明十二年十一月二十四日

上紙ニ有之 杉原中務殿 御宿所

就御身上之儀、此間太郎左衛門殿申上候儀、御心徳(得)被分候ハヽ、無爲儀目出候、殊高州三ヶ村事候間、駿河(元忠)殿御一期已後者、貴所へ可有相談由、如此駿河殿以書狀承候間可然候、彼御狀肝要儀候間進之候、恐々謹言、

文明拾貳 十一月廿四日 杉原中務(盛忠)殿 御宿所 定數(花押)

上紙ニ有之 太田垣美作殿 御宿所

惣領只(ヤヽ)分高須三个村之事、弟ニて候中務丞仁、自先年讓候上者、元忠一期之後者、不可有相違候、恐々謹言、

十一月廿四日 太田垣美作殿 御宿所 元忠書判

杉原駿河守 元忠

〔參考〕

〔萩藩閥閱錄〕六十七 高須惣左衛門

元忠 椙原、高洲、秋、法師、駿河守、——盛忠 椙原、高又太郎、左衛門尉、中務丞、駿河守、

〔福山志料〕二十二 沼隈郡 高須村 福山ヨリ四里十五町申酉ニアタル、村一里四方、關畿及榜示二枚アリ、東邊海ニ接ス、西廣島領御調郡後地村、西北同郡西原、北三成、木梨、山方ノ四村ニ隣ル、

○幕府、杉原盛平等ニ所領ヲ安堵セシムルコト、十三年三月十七日ノ條ニ見ユ、

二十六日、壬寅、甘露寺親長ヲ貢馬傳奏ト爲ス、

〔親長卿記〕十一 十一月廿六日、朝晴、自晝雪下、被下女房奉書、貢馬傳奏事可存知云々、參內、略○中其時貢馬傳奏事、可存知之由申勾當了、

二十七日、癸卯、春日若宮祭、

〔大乘院日記目錄〕三 十一月廿七日、祭禮、自酉刻初之、至子刻事了、田樂新座訴訟故也、田樂頭乘英權律師、營尊擬講、馬長實心僧都、長弘律師、英暹、、、俊乘、專政、出仕五師、別會宗算、營尊、三綱源乘、宣舜、依二條御方御事、後日無之、頭屋給同之、

〔大乘院寺社雜事記〕七十三 五月七日、

一○中略今度祭禮事、高田方依申、田樂頭以下色々、此間了弘令計略之處、如此

諸所ヨリ借用セル祭禮用具

古市澄胤本座文阿彌ヲ新座笛吹トナス六方學侶之ヲ怒ル

指合、希有事也、

〔大乘院寺社雜事記〕　七十五　十月廿六日、

一訓英古酒以下進之、去六月一日申、田樂頭屋屏風三双事、營尊五師申云々、十一月廿四日、

一祭禮方用方々より借用申分、此間連々遣之、中童子裝束一具悉皆、（西院坊主、）同一具悉皆、（松光得業、）同一具悉皆拜大童子の荷入二具、白指繩二筋、（以上光林院、）床二脚、御ス五間、指長橫一合、（以上南井坊、）磨付屏風二双、御ス十間、ワケ長指一合、（以上淨ルリ院、）杉板三十枚、（千手院、）

廿六日、雪下、

一田樂裝束給、淨ルリ院南井坊兩所也、新座笛吹照阿ミ除之、本座文阿ミ成新座笛吹了、色々雖及其沙汰、爲古市（澄胤）之成敗如此治定、不被得其意之由、方（六角）々淨ルリ院深賢房擬講方也、井坊春長房律師方ハ、爲本座無相違者也、凡學侶衆內々腹立云々、照阿ミ理運之由云々、或又照阿ミ六月以來罪科躰也、仍爲其闕分文阿ミ加之云々、所詮於寺門兩方引及（衆）輩在之間、きと不可事行事歟、今日儀ハ先以文阿ミ爲笛吹分裝束給之了、明日猶以可違亂云

神幸遲レ夜明ク奉行正體ナシ

流鏑馬

相撲

別會

新座本座各別也、私ニ相語自然□義等ハサル事も可有之歟、外樣ニ新座ニ本座者可成條且如何、先例無心元者也、新座之內ニ、爲其闕分可成笛事歟、且如何、惣而近日寺門作（法脫カ）ワレ歟也、心又橫道也、無心元作法也、可歎々々、

廿七日、

一神向（幸）遲々不幾而夜明了、假屋以下之作法每事不足之、比興中々無申計候、別會五師宗算僧都遲參、每事奉行次第無正躰、神人巫女等腹立珍事、少々則退出輩在之、辰刻五師三綱出仕如例、依田樂事、酉刻十烈（列）渡之、流鏑（馬脫カ同下ヒ）等入夜之間、籌火兩所柱松五ヶ所立之、亥刻相撲等在之、希代不思儀事也、重而尙々可尋記之、

一今日別會宗算、營尊五師兩人出仕了、營尊ハ田樂頭屋也、依違亂庭立遲々間、酉刻出仕了、宗藝五師可出仕之由成望處、不叶道理之由、五師中及評定、營尊出仕了、明年別會職事、宗藝可蒙仰之由之支度故歟、於別會者還次第也、可爲興弘五師者也、營尊ハ五師初任以後、祭禮出仕ハ今日初行也、去年別會ニ不及執行者也、當年五月與今日兩度始行了、各別會宗算奉行了、

一三綱出仕ハ源乘寺主、宣舜都維那兩人也、

文明十二年十一月二十七日

文明十二年十一月二十七日

一馬長頭、覺恩房僧都、長觀房權律師、春覺房、〻〻、行信房得業、松光房得業云々、

馬長頭

一流鏑馬頭、長川、長谷川三番、散在、合五番在之、隨兵十五騎、

流鏑馬頭

一本座田樂笛幷(列下同ジ)參申、笠持參也、新座取亂之間、明日可參申云々、

本座田樂列參

一行烈次第、以中綱別會進之、寺門同前、

新座田樂列參

廿八日、

一新座田樂笛吹、笠幷裝束持參入見參了、烈衆早々上洛間、不召具之云々、事外用心也、古市衆共召具了、

相撲懸布山村尊藤等西金堂ニ押入番頭米等ヲ奪取ル越智家榮越智代官下與次之ヲ支フ

十二月朔日、

一祭禮相撲懸布、自兩堂出之、西金堂方儀如上件、仍古市方堂衆五人中より彼布事可沙汰旨、自衆中申付之、號五人方、山村室以下古市一族共、堂司坊ニ押入テ、番頭米以下奪取之、可爲布代物支度也、越智代官下與次之披官罷向テ相支之、少々既以取之分在之、於窪院倉又如此事有之、大方物忩珍事次第也、如今者番頭米事可取散間、修正等事可爲如何哉、今度堂方事、越智方旁以失面目了、仍越智幷岸田書狀付山村幷上松院、可申所存云々、上松院ハ越智知行坊也、仍令迷惑歟云々、

宇治猿樂ハ金春座ノ脇

家系

宗印

金春元氏死ス、

〔大乘院寺社雜事記〕七十五

一金晴(春下同ジ)大夫、廿七日夜、於岡入滅了、四十九歲也、不便々々、當道此者マテ也、以外次第、是サヱ寺社之冷(冷ヵ)落也、廿七日、松下、金晴八郎致其沙汰畢、當時金晴座之脇也、

十一月晦日、

猿樂守菊大夫之舍兄致其沙汰畢、當時金晴座之脇也、

〔四座系圖書幷家々次第〕

爲觀世世阿彌壻、

禪竹氏信、

宗印

俗名式部、金春能元祖、

狂言先祖

四郎次郎

大藏彌太郎所ニ書之、

善風

大藏十郎太夫、大藏太夫所ニ書之、

法名道加、

〔秦曲正名鬩言〕式部者大和州人也、姓竹田氏、一曰圓滿井氏、名氏信、其先出於秦川勝、其裔胃(胄カ)氏安者、値村上帝世、至於氏信二十九世、氏信小名今春、聰明絕倫、人以其幼惠、遂以小字氏焉、後更禪竹、亦秦曲之始祖也、曲數以六十六、蓋

文明十二年十一月二十七日

擬豐聰六十六曲云、妻觀世元清女、生二子、長曰氏(元)元嗣焉、後更宗印、此人假靡
角戲拘欄、以張歌舞、此時爲始、故至今、獨今春氏舞場、施張錦繡於四柱云、次某
善靚、遂業之、大藏氏淨之祖也、

元氏ノ母ハ觀世元清ノ女、金春座錦繡ヲ四柱ニ張ル

〔秦氏家系略記〕

氏信　六十代、

稱彌三郎、後稱七郎、拜從五位下式部權大輔、氏信技藝絕倫、承幕旨、作散樂
俳優之新曲、又奏之於禁裡內庭、及春日社、當時新曲日行、而古樂月衰、應仁
之亂、氏信從關白兼良、赴南都、終失家領、移住大和伊勢等、尙屬春日、凡歲時
祭祀必掌之、

新曲ヲ作リ聲譽アリ

元氏　六十一代、

初稱式部、又稱六郎大夫、作出新曲、頗有聲譽、文明長享及延德之比、屢奏散
樂於禁裡內庭云、

元安　六十二代、

幼名彌三郎、後八郎大夫、大永之比、奏散樂於禁裡內庭、元安長技藝、所作新
曲最多、後人所謂能者、濫觴於氏信、終成於元安云、

〔大乘院寺社雜事記〕　三八十　文明十四年十月十三日、朝下雨

一金晴大夫父正忌日可隨神
共以不許之由申了、吉田神
下云々、〇春日若宮祭ノコト、十四年十一月二十七日ノ條ニ見ユ、
十一月二日、
一金春大夫八郎(元安)亡父正忌日、十一月廿七日也、祭禮神役事、可爲如何哉由申
之間、京都ニ伺申、吉田神主從二位兼俱申狀、墓所ニ必參詣之間忌之、無參
詣之儀者不可忌之、奈(ママ)官務雅久申狀、正忌日從神事役勘例、數ヶ度例注進
之、隨而長者近衞殿仰南曹辨俊名奉、任官局勘例、可從神事役云々、各家門
自右大將家被調下之、正文留之、一卷ニ書寫之給之了、
四日、
一古市(長田家刑)筑前守來、金春方間事、巨細被仰下之、畏入云々、
廿四日、
一今晴大夫代官源五郎參申、先日勘例云大夫、云一座者、一段御計略、畏入旨
申入之、近日河內ニ召置之、路次等難義之間、自身不參、必々祭禮ニ可參向

尋尊正忌日神役ニ隨フノ可否チ一條冬良ニ諮フ

忌日

吉田兼俱壬生雅久等勒文チ送ル

元安河內ニ在リ

文明十二年十一月二十七日

之間、可參申、又先以且以源五郎申入云々、

〔後法興院政家記〕七　春日若宮祭禮日猿樂父正忌從神事云々、

文明十四年十月廿一日、丙戌、晴、自一條（冬良）幕下有使者、春日若宮祭禮日、猿樂金春大夫父正忌也、可從神事條、可有如何哉、兩局相尋准據例之處、如此先例又攝政仰云々、南曹辨下知、非可遣長者宣事歟如何、內々俊若（名）狀遣（問）顯基許、可遣南都由仰之、勘例如此、

父遠忌日從神事例、

永久三年二月廿九日、祈年穀奉幣大原野、使肥後守藤原忠兼、雖忌日參勤之、

久安四年三月十九日、同奉幣春日祭、前若狹守藤原隆賴、雖忌日、依攝政仰勤之、事了、使以下退出之間、於馬場吹小調子、歌山城、下宿院、

承安三年三月、臨時祭、陪從盛方朝臣、依父遠忌、辭申之、然勘准據例令勤之、

文治元年五月六日、廿二社奉幣、橘以一（政字有憚）雖當遠忌日、勤奉幣使、

應永十三年八月四日、北野臨時祭、使民部少輔菅原在直、雖遠忌日參勤之、

雅久宿禰勘例

春日社若宮祭禮之日、申樂翁（座カ）中相當亡父遠忌日、而可從神事之條、可有其憚

壬生雅久勘文

吉田兼倶勘文

一條冬良書狀

哉否事、倩案由來、伴日孝子必詣墳墓之故、當日忌之、以之爲（存カ）之、無墓所參詣者、殆非禁忌之限乎、然近代不依墓所出入之有無、伴日憚之條、不決道理之故歟、就中當于遠忌日、從神事之例、官局勘例連綿之上、先例尙存之、旁以伴參役不可能猶豫乎、

〔金春系譜集錄〕一條殿御書　朱註一條左大將殿、

神祇長上從二位侍從卜部兼倶

春日若宮祭禮、申樂爲亡父正忌日之間、可從神事之條、可有憚哉否、神祇宮竝官局申狀如此候上者、可有何子細者哉、然而每々被經御事候之間、申殿下、南曹辨奉書執進之候、舊例連綿之上者、可隨神事之條、不可有後難候也、恐々謹言、

十月廿二日　　冬良

大乘院殿（コノ次ニ吉田兼倶及ビ壬生雅久ノ勘文ヲ、後法興院政家記ニ同ジキヲ以テ略ス）

〔大乘院寺社雜事記〕八十八

文明十五年十一月廿六日、

一金晴大夫來見參、自岡罷上了、明日神事用也、明日ハ故大夫正忌日也、先度事子細記之、

二十九日、乙巳、幕府、近江永源寺舍空院ニ、同院領伊勢守忠名ヲ安堵セシム、

〔永源寺文書〕二〇近江

江州山上舍空院領伊勢國守忠事、令停止日野家雜掌違亂之上者、任還補御判之旨、早令入部、可被全所務之由、所被仰下也、仍執達如件、

文明十二年十一月廿九日　　沙彌（清貞秀）（花押）

對馬守（松田數秀）（花押）

當院雜掌

三十日、丙午、義政、東福寺海藏院ニ、同院領攝津弘井莊、尾張犬山領家職、信濃太田莊、三河志貴莊等ヲ、又同院末寺楞伽寺ニ、同寺領信濃芋川領家職ヲ還付ス、

〔海藏院文書〕〇山城

東福寺海藏院領攝津國弘井庄、尾張國犬山領家職、信濃國太田庄、參川國志貴庄、山城國田畠屋地散在等事、如元所返付也、早可全領知之狀如件、

文明十二年十一月卅日

准三宮（花押）

（義政）（花押）

海藏院末寺楞伽寺領信濃國芋川領家職事、如元所返付也、早可全知行之狀如件、

文明十二年十一月卅日

皇子御所御煤拂

十二月 小 丁未朔 盡

一日、丁未、御祝、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十二月一日、御さゝ月いつものやうよりはいる、

九日、乙卯、御煤拂、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十二月九日、大雪ふる、御もゝいき、御さゝ月なといつものことし、ごしゝすのあそん、(綠小路)(清)ゆきう す、くら人三人あゝら出こう、御ゝさの御所もおおしくくら人もきえいらもる、

〔宣胤卿記〕十二月九日、乙卯、晴陰不定、雪霏々積庭、今日禁裏御煤拂人夫壹人遣切符、右京職役也、極臈(唐橋在數)在國之間、源富仲以札帋觸之、可爲尤聊爾之由仰遣了、

十一日、丁巳、盜、幕府ニ入リテ、寶刀ヲ竊ム、是日、幕府、東寺及ビ南都七大寺ニ命ジテ、之ヲ祈ラシム、尋デ、盜ヲ捕ヘ、寶刀ヲ納ム、

〔後法興院政家記〕五　十二月九日、乙卯、陰、雪降積地一許寸、傳聞、武家重代重寶、或人盜取之云々、太刀、號、銘、二刀、長刀等七色紛失云々、希代事也、

十七日、癸亥、晴、海住山亞相(高清)勸修寺黃門(經茂)等來、武家重代一昨日悉被尋出云々、近日種々被致祈禱云々、可謂神慮歟、賀茂地下人盜之、召戒問之、今日諸家進太刀云々、

二銘ノ太刀以下七種紛失ス露顯ス

盜ハ賀茂氏人

盜萬彥大夫兄弟ヲ六條河原ニ誅ス

浦上則宗拘置ス

梟首三日

東寺ニ祈禱ヲ命ズ

〔長興宿禰記〕中　文明十三年四月廿六日、庚午、晴、〇中略　是日賀茂氏人萬彥大夫、被渡大路、於六條川原被切首、弟男不渡路、同被切首、去年十一月晦日忍入將軍御所、御重寶二名、以下御劒等盜取露顯、自去年被置所司代浦上、籠留、今日被誅者也、渡路次時、乘荷車、所司代騎馬數輩、小舍人雜色數多、川原者數百人前後守護之、洛中諸人群集見物之、被誅之後、卽於川原梟首三个日云々、

〔宣胤卿記〕十二月十四日、庚申、晴、〇中略　於室町殿、大納言殿御亭、所失御太刀昨日露顯云々、

文明十三年四月廿六日、庚午、晴、〇中略　聞、去年所取武家御重代御太刀盜人、今日被渡於六條河原被誅、被懸首云々、賀茂氏人也、兄弟兩人云々、

〔東寺百合文書〕ち廿一口方　〇山城　評定引付　文明十二年庚子　同十二(十二月)日、

一御方御所樣御祈事、自理性院轉(傳)奏之奉書如是間、一七个日可致勤修云々、

文明十二年十二月十一日

愛染供不動供ヲ行フ

盗ノ母ト妻ヲ水刑ニ處ス

興福寺以下七大寺ニ祈禱ヲ命ズ

腰刀藤四郎

此旨披露之處ニ、評(諾)儀云、當任之供僧二十七人之間、上十三人者愛染供、下十三人者不動供、自明日十日、三至十九日、於住坊每日一座各勤修可有之、結願日御卷數二枝可進旨治定畢、

〔東寺執行日記〕十四　文明十三年四月、同日(二十六日)、去年賀茂氏人二人、同母、女房已上四人、二人ハ頭切之、女房二人ハ可被水入云々、

〔大乘院寺社雜事記〕七十五　十二月八日、

一同(松殿忠顯)相語、○中略公方御腰物太刀粉失(粉下同ジ)、珍事々々、

十九日、

一大納言殿御祈禱事、十一日傳奏奉書昨日到來、今日七大寺別當方申遣云々、子細何事哉、後聞、御腰者御太刀粉失故云々、則出現了、

〔大乘院寺社雜事記〕七十三　五月廿四日、(十二)

一松殿少將下向相語、公方御腰刀原藤四郎粉失事、○下略

〔大乘院寺社雜事記〕七十六　文明十三年正月七日、

一舊冬七大寺御祈禱、將軍累代御腰物粉失、御太刀二名(絶)各失了、賀茂惡黨取之、被召取之間、各出現了、

十一日、

一石左衞門自京都下向、自隨門御文持來、○中略舊冬ハ御重代御腰物御太刀盜人取之、雖令出現併是一家之凶也、

〔大乘院寺社雜事記〕七十七　○文明十三年四月三日裏文書

新春之慶每事可被任御意候條珍重候、寺社靜謐彌目出候、京都又無指事候、

一御方御所御累代御腰物竝御太刀二名なと申、人もきと不見候物共、舊冬盜人しのひ入候て、何かに五色給候、御つゝしみにて、所々御祈禱之事共仰出候故、やかて〳〵あらわれて、皆以歸まいり候、目出候、手引なとも候て、近比不思議にてしのひにい名人にて候、賀茂の物にて廿あまりの物候、異名けたはしりと申候物にて候、金裝束うり候とてあらわれ候、めしとられてかう問候つる、定而今春可被切候哉、七大寺御祈此事にて候、

一親王御元服、十二月廿日御沙汰候、此御所より御意見にて、やす〳〵と新儀なから事行候、目出候、其子細於小川御所、准后加冠にて、著座(同大納言殿、其餘兩人、理髮中山にて、無爲無事目出候、准后も御面目とて、則御參內共、自御臺

忍ノ名人

異名桁走

金具チ賣ランヨシテ露顯ス

文明十二年十二月十一日

隨心院領年貢ナシ

山名政豐播磨ニ入國セン丹波攝津細川政元ノ支配ニ屬ス赤松氏家臣ノ分裂

文明十二年十二月十一日

色々一獻共御沙汰目出候、御裝束は、只はや御直衣一おらせられ候まて
にて候、御諱勝仁、やかて如元內裏臺屋に御座、無殊事候、○本月十三日ノ條參看、
一濃州事卽時に靜謐、石さるゑもん罷上候、定而近日其方へ可下向候間、可申
入候、無殊事候、是心院領內おもひのまゝにて心安候、○齋藤利藤、弟妙純ト爭フコト、八月二十七日ノ條ニ見ユ、
一其方事、先靜謐是又目出候、成暖氣候はゝ、可下向申候、我々少領知共一向
不上候間、迷惑此事候、御所樣御けなけとは申なから、每事御朦々式共候、
世間之躰とにかくに結願ちかく成行事候、山名當年播州へ入國必定候、
丹波攝州事者細川うけ候て、西國大略一味候間、勢共あまり候へく候、結
句其に赤松一類皆以われ候間、曲事共にて候今まて遲々の事にて候、上
意も餘以緩怠之儀共過法候間、大略山名と思食候哉、不定之世間共あさ
ましく候、

一土州事沙汰外事候、根よりかれ候間、無力次第共候、
播多ノ御寺也、妙華寺前博陸左相照岳、法諱宗憲、東福寺長老名つけ申され候、松林院得業房
方へ舊冬委細如此事共書狀進候つる、さては其もまいり候はす候哉、珍

盜ヲ六條河原ニ刑ス

則宗ノ功ヲ褒ス

赤松政則物ヲ獻ジテ恩ヲ謝ス

事候、先日御狀懸(懸)得業所へ遣候、これより一二町候、今度便宜に龍與方へ
可遣狀候、萬事重而可申候、恐々謹言、○十月五日ノ條參看、

正月五日　嚴寶

〔親長卿記〕十二　文明十三年四月卅日、陰、○中略今日聞、去廿六日盜人賀茂氏人、
室町殿、大納言殿、重代御寶刀、○以下註闕ク、乘雜役被渡一條大路、至六條河原被誅云々、乍兄弟今日
聞、去廿六日賀茂氏人故勝久主子三人、爲氏人中沙汰押而打取了、無道之儀也、不
知子細了、

〔親元日記〕六　文明十三年三月十二日、丙戌、天晴、
一赤松殿より御禮、舊冬御劍二銘、出現之時、所司代浦上美作守則宗、就致粉骨、被成
御內書了、其御禮也、
公方樣へ、御太刀、久宗、御馬、栗毛、五千疋、
御方御所さまへ、御太刀、重吉、御馬、黑、五千疋、
上さまへ、五千疋、
貴殿(伊勢貞宗)へ、貳千疋、同十三日杉江方へ渡了、
以上各狀あり、

文明十二年十二月十一日

寶刀ノ出現ヲ石清水平野雨社ニ祈謝ス

四月廿六日、庚午、晴、

一御劔之盜人兄弟、大路をわたして、六條河原に頸を誅かくる由、所司代浦上、貴殿へ參申之、

〔神馬引付〕文明十三年

一石清水八幡宮　一疋栗毛、

正十九舊冬御劔出現御祈謝、

一平野御劔出現之御祈謝、　一疋栗毛、

正廿三

小早川元平、守行行房ニ安藝守行名ヲ安堵セシム、

〔小早川什書〕六（小早川元平）（花押）

椋梨之內守行名事、守行新藏人行房當知行無相違者也、彌可全領知、於諸役等者、不可有無沙汰之狀如件、

文明十二年十二月十一日

十三日、己未、第一皇子親王宣下、勝仁ト名ケ給フ、尋デ、小河第ニ於テ、御元服アラセラル、

勅別當菊亭公興奉行甘露寺元長中原康純ノ違亂ニ依リ儀遲ル家司山科言國

義政宣下ヲ賀ス　邦高親王等親王ニ太刀ヲ獻ゼラル

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲六十七　親王宣下部類其他　○山城

勝仁親王

左少辨藤原朝臣元長傳宣、權大納言藤原朝臣公興宣、奉勅宜爲今上親王者、

文明十二年十二月十三日　修理東大寺長官主殿頭兼左大史美濃權介小槻宿禰雅久奉

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一　御湯殿上日記　十二月十三日、乙○山城

ん王をこおいるゝ、ちよくのへさうは、上卿きくていの大納言（公興）、ふ行もとおう左少辨、々ねやもと（中原康純）すさうらいらんよりて夜ふくる、やん所のおいしくらの（山科言國）頭、おう（許坊城）さもしこうもとも（ひ脫カ）ちられて御うゝり御てはいともあり、上卿かの日のちんしゆ御れい申さるゝ、御さいめんあり、宮の御うさへもおおし、

十四日、むろまち殿より、きん下のめてさせてんそうして御申あり、宮の御うさへふしとのいしめ万いらられて、御さちとも万いる、

十五日、めう安んしより、宮の御うさへ御さる色々万いる、ゑこうまて御さう月御ひし〳〵と万いる、御所さまおし万いらせらるゝ、

近衛政家ニ名字ナ撰進セシム

政家撰進ノ名字

政家申詞

唐橋在治勘進

勅問ノ人々

〔後法興院政家記〕五　十二

御方御名字事、可被計申由被仰出云々、御名字注折紙、卷籠書狀、靜加思案、追而可申所存由令返答、

衆仁、（モロ）切眞、勝仁、（カツ）切申、賢仁、（タカ）切磎、貞尊、（サダタカ）切敦、益仁、（マス）切馨、良仁、（タカ）切憐、（ヒテ）英仁、切馨、

十三日、己未、雪花散、時々見日景、○略中宮御方御名字事、注申詞付奉行、折紙、

御名字事

勝良等字、可然候歟、此内宜在時宜哉、

御名字事、先規載勘文之處、今度注折紙事、不審之間、相尋奉行處、御急事間、先内々以草勅問候之由有返答、（唐橋在治）菅中納言勘進云々、

勅問人々　一條（禪閤、金良）（二條持通）大閤、九條前關白、下宮、

晩景自左少辨元長許、送御名字勘文、寫留返遣之、

十四日、庚申晴陰雪散、去夜親王宣下云々、

十六日、壬戌夜來雪降積地三四寸、終日晴陰、去十三日親王宣下、上卿菊亭亞相、

辨元長云々、御名字勝仁云々、愚意分無違歟、

〔親長卿記〕十一　十一月廿六日、朝晴、自晝雪下、○略中元長御元服親王宣下

名字勘進遲延ニ依リ宣下延引ス

一條兼良ノ音勝仁ノ小人ニ通ズトノ難チ排ス

右大史中原康澄訪

等申沙汰、相當傳奏之儀難儀也、

十二月八日、晴、親王宣下依御名字勘進遲々延引、可爲十三日云々、

十二日、晴、依若宮御名字事、方々尋之、勅問、巨細在別、○別記所見ナシ、

十三日、晴、雪時々下、御名字猶未定、令治定者可進勘文之由、菅中納言在治、示云々、予持參、昨日御申詞、今日重申詞等持參、昨日只御名字許七注折紙各申了、各々急事如此沙汰之、各進之、依今案與、後廢注引文、申詞如昨日之由、各被申候、

勅問人數

禪閤、御輕服、勝仁、貞尊、英仁、大閤、（二條）御輕服、英仁、勝仁、九條前關白、政基、貞尊、英仁、關白、政家、勝仁、西園寺前内大臣、實遠、（カタ）良仁、

勝仁、小人之俗難有之、不謂之由禪閤被申、兩三人擧奏之間、可爲勝仁云々、仰官宣旨用意、竝勘者了、

抑御名字事、奉行職事可仰勘者歟之由存之處、傳奏直申之處、臨勅問之期申奉行之條、不得其意、可給御敎書之由、菅中納言在治申之、

及晚陰、參内、召具元長、爰自勘修寺大納言許送使者云、史康澄、御訪可爲百疋

料ノ加増ヲ望ム

之由、下知之處不可叶、其上裝束等召置山上之處、延引事奉行不相觸之間不存知、於于今者不可叶云々、予云、於延引者相觸官外記了、其上人々存知事也、鈬曲申狀也、重可問答云々、已移刻、爰勸修寺青侍男召具康澄來、殿上口、予問答及再往、所詮加増御訪被下行之由仰之、仰云、只加増御訪可下行、後日可有御罪科云々、暫半更之程參仕、不及御訪之加増可參云々、

次第ノ上卿菊亭公興公ノ後土御門天皇ニ親王宣下アリシ例上卿申文ヲ催ス

家司

職事

元長自御所申出高檀紙、書御名字、勝仁二字許也、又家司名字自傳奏可書給之處、今日依沈醉無正躰之間不參云々、仍元長同書之、

家司

言國朝臣　元長　是ハ一紙、

職事

俊量朝臣

令懷中御監、侍者等今度不被仰下、可始行之由奏聞、次上卿先是候陣夜儀菊亭大納言公興、長祿元年、當今親王宣下之時、公興卿父公、著陣、奥、此間元長著床子座催申文、官方吉書也、無當時右大臣公敎季上卿也、大辨、左少辨元長勤之、上卿移著端座、召官人令敷軾、辨元長於宣仁門外請益著陣、史　康澄、插申文於杖、參進小庭、依上卿同參進軾奉申文、一々覽之、自禮紙下史如常、次辨退

藏人方吉書

親王御名字參進

勅別當ヲ仰ス

勅別當奏慶

家司名字職事名字ヲ下ス

入、次元長持藏人方吉書、著軾奉上卿、上卿結申如常、職事退入、此時不召留、已今起座二三步之時、上卿召返、辨了、不聞入、退入、次上卿以官人召辨、々參進、被下吉書、結申退入、著床子座下史、次職事元長、持親王御名字參進、下上卿、兼予尋申上卿、吉書之後、更可被著奥座歟、只乍端座可下御名字歟、乍端座可下云々、上卿結申仰々詞、可爲今上親王、次辨又如元退入、上卿又以官人召辨、雖不被召留、何辨不待軾退出哉、參進被下御名字、著床子下史、辨退入、次元長進出仰云、權大納言藤原朝臣可爲親王勅別當、應安故廣橋一品仲光于時奉勅記、上卿爲勅別當、仍權中納言藤原朝臣可爲ノ——仰之、普通者權中納言藤原朝臣可仰之云々、仍勅別當事被仰辨、辨出床子座仰史了、上卿起座立無明門前有揖、了、親族拜元長申次也、舞踏畢、又更元長進出、被申勅別當慶、次上卿著殿上、元長自上戶出、出上卿座上、下家司名字竝職事名字等、此事應安度依御同宿於內裏殿上下上卿、建久二年、寬元三年、次上卿起座、主上與親王御同宿仍被用其例之由見仲光記、仍今日如此、向御懸方黑戶東向也、昇北沓脫、著端座疊、家司言國朝臣　束帶、參進、上卿座上依便宜也、予諷諫、給家司折紙退入、職事折紙、無參仕之人、仍不被下之懷中、次上卿下殿、立庭上、北上御懸之外也、東菅原長胤申次、應安菅原言長申次、追佳例催長胤了、二拜之後退出、次元長參進立同所、申次言國朝臣、申次了、言國朝臣加立列、北上西面、兩人二拜、々々了退入、次廻殿上方、菊亭大納言被申入祝著之由、元長申次、於議定所主上有對面、爰中院大納言祇候番申

勅別當下
薦

御母ハ庭田長賢ノ女

御禮爲勅別當下薦雖然先可被參之由、中院亞相會釋、菊亭辭退、予誠今夜事勅別當御參可然歟之由入魂之間、菊亭先參了、親王御方於黑戸有御對面、近臣同於黑戸遂見參了、珍重々々、主上御方近臣等於御三間御對面、卽退出、

應永度親王宣下家司職事許被下了、如今度之儀、依時不同歟、

〔宣胤卿記〕十二月八日、甲寅晴、今日親王宣下延引、依御名字不定也、

十三日、己未晴、雪霏々、今夜當今一宮（勝仁、御歳十、御童形、御母權大納言長賢卿女、）有親王宣下、奉行藏人左少辨元長、上卿菊亭大納言、（公興卿、當今親王宣下、敎季公、右府孚時公、大納言公雄、）爲上卿、仍就住例被仰云々、御名字菅中納言在治卿勘進、親王御在所禁中對屋之間、本所之儀被用黑戸云々、條々可尋記、

十四日、庚申晴、○中略著衣冠參內、（自都護亭相伴、）先去夜親王宣下珍重之由、以左少辨申入之、（親王御方同申之、）

〔長興宿禰記〕中十二月十三日、己未晴、今日當今皇子宮御方（十歳、）有親王宣下、來廿日於室町殿准后御所可有御元服故也、上卿今出川大納言公興卿、職事藏人左少辨元長、（敎季公、）右大史中原康純（範）記少外記等參陣之、御名字勝仁、菅大內記在數勘申之、

〔歷代殘闕日記〕七十八重胤記十二月十三日、晴、

一宮御方親王宣下、本所（山科言綱）家司御參候、此儀御かゝりにても、勝仁親王、甘露寺御方も家司、菊亭殿上卿、

〔柳原家記錄〕八十六不知記砂巖四字勝仁、菅中納言在治卿勘申、立親王宣下、上卿新大納言、公興、則補勅別當、

〔大乘院寺社雜事記〕七十六文明十三年二月十一日、

一勸修寺中納言光臨、○中略京都事色々物語、若宮舊冬十三日親王宣下、廿日御元服也、不足分二万疋御臺御引違、則鳥取庄御年貢到來被返申了、

〔京都御所東山御文庫記錄〕甲二十一○山城

の御うゝ御ふんふくの事、おい〳〵御さんらうともあり、

十二月十六日、四とれよ御きんふくれ御しゆらいあり、くとんえゆし、頭中將（親俊）あとえこう、きちやう御所御ゆとのゝうへに、御ひやうふさてゝ、大うさりのきあり、めてさし、宮の御うさへ女そうおとこ御てうし事申はさ、ふし殿より御かとらけ物、御さるゝ万いる、源大納言よりも、へちして万いる、をうきいめしてうさいせらるゝ、これもおり御さる万いらする、御てんしん

（御湯殿上日記）十一月十五日、宮

竹田昭慶ヲ召シテ唄ハシム
庭田雅行陪乗
義尚中門ニ出迎フ
義政加冠ニ著座
山科言國　白川資氏　甘露寺元長　西坊城長胤　吉田兼致　脂燭ニ候ス
酒宴
義政夫人酌ニ候ス

まて御さう月七こんふいる、御ひし〳〵とめてたし、

廿日、宮の御りさ御きんふく、こ川とのまてあり、御ひらいもりさまて、御くるまにてと御なる、御りそに源大納言ふいらるゝ、御うしろ廿三人、めの(そカ)ゐりとのもりおゑ殿いし〳〵ふいる、ちうもんゑよりて、大納言(義尚)殿さんくひ廿させさまふ、そのゐりくひんよ云ゆうし大納言いしめて云こうともなり、まつ御きう所へおるよしまして、ようきん御所へ御いてあり、やりて御りくひんよ云ゆつ云う御ちやくさあり、そのゝち大納言殿、源大納言、四つしの宰相中將ちやくさ、云そくみはとねくふのあそん、もけうちのあそん、もとなり、六位なりさね、うねい(む)祢云こうも、御きんふくもる〳〵の御ねにて、御きう所へなる、藤宰相(高倉永継)御云たくめ(まゝ)に云ふう、りのあいさ云ゆつこうれ御りさ、大納言殿御ちやくさよてまち ふいらせられて、まさ御さへありる、やりて一こんの御さしきへなりて、ちと御とうひうありて、一こんいしまる、五こんふいる、宮の御方の御そ(ふ)きん宰相中將、りのゐりてん上人さちそなり〳〵ゑやくそうきらるゝ、御さいの御りさ三こんめれ御しやくも御いてあり、又五こんめこもをおしくふいる、大を見まいらきさにふいりて、御

土御門有宗御身固ニ候ス
還啓
日野政資參賀
大炊御門信子參賀
廣橋守光親王ニ物ヲ獻ズ

しやくともよのそふいらもる、天氣おぼしめすまゝふ、御ねとくなるよし、云ゆんこうの御りさ御う(行カ)さまて、のこる御事なく、千云う万を尋めてさき、きぬうつねともまて申あひて、御行もゑまても、御さのもしくおぼしまいらもる、くひしねともゐれ〳〵云うて、おろ〳〵云るしうねふいらもる、こり、御いてありさゑよ、御みうさめよ御やうのみ(か脱)ふいりてめてたし〳〵、くひん御なりて、御まへの物いし〳〵、新大納言のもゐ殿、御なりも新内まて色々ふいる、うのゝち御所おりて五こんふいる、おまことも〳〵もる〳〵と御めてさき、いよ〳〵天下さいへ尋なるへきなり、新五(大カ)もけ殿より御めてさきて、二色、一りふいる、日のゝ侍従(侍従脱カ)御ないよ云こう、御三(まゝ脱カ)て御さいめんあり、

廿一日、びんうしのとう院(殿脱カ)御ないよ御ふいり、宮の御りさもなりて、御さうり月ふいる、ぞく二位(白川資益王)御ないにふいる、御さいめんあり、下もりさの人もあまた申さるゝ、ひろもしより宮の御りさへ色々ふいる、御さいめんありて、御

文明十二年十二月十三日

義政酒饌ヲ献ズ
義政夫妻参内義尚参内セズ
邦高親王陪侍セラル
義政父子剣馬ヲ献ジ親王ニ物ヲ献ズ
近衛政家西園寺實遠花山院政長参賀
尼宮参賀
仁和寺道永法親王参賀

十度飲

さう月さふ、御三ツまて、御さう月ツいる、□うこもせう〳〵めして十ぜのせらるゝ、御ひし〳〵なり、

廿三日、むろまち殿よりおり十らう、御まな五いろ、御さる十らツいる、御さ（さん殿）よ御ツいりなし、御さいもツいる、宮の御らさもい八とき、大納言殿よりよ御ひし〳〵、むろまち殿よりもしろ御いてあり、いつもの三こん二こん、一ものおりの物なし、ふしを殿三こんめより御いてあり、うた舞とまて、御さう月九こんツいる、宮の御らさへ御やんうとこ、なとありて、いやよりことよ御ひし〳〵、むろまち殿より御むツ、しろ御さち、大納言殿よりもしろ御さちきしん（ヘ）内ふ御むツツいる、大納言殿よ御ほんに、しや色々三さん、御さり御むツ、ゑろ御さち、御さいより、御ねりぬき十らさね代よてツいる、めてたし〳〵、くにんそく（近衛政家）、さい（實遠）をんし、花山院（政長）御をいよ御ツいり、御さいめんあり、

廿四日、くろき御所〳〵御をいよ御ツいり、おり御さるともツいる、つうきん寺殿御ツいりなし、御さるいおなしくツいる、さいまちの御をいとも御申あり、御（道永法親王）むろも御まいりよて、つねの御所一こんの御さしきへ御ツいり、

德大寺實淳菊亭公興參賀雲龍院聖秀安樂光院廬山寺參賀青蓮院尊應參賀

政家シテ元服次第ヲ作進セシム
皇室御料ノ年貢ニテ沙汰ス
新儀ヲ以テ折衷セシム

（火葬）をんきそんせう（等貴）も御をんふくの御をいに御ツいり、御ゑろうと御さう月まいる、右大將（德大寺實淳）、きくていの大納言（公興）御さいめんあり、

廿五日、〇中略うん（慶秀）をう院、あんらく光院、ろさんし御をいよツいらるゝ、

廿七日、〇中略しやう（尊應）をん院御をんふくの御をいよ御ツいり、宮の御ろさへ御むツ、御さちツいる、

〔後法興院政家記〕五　十一月廿三日、己亥陰小雨雪、來月可有親王御元服云々、

廿八日、甲辰晴、〇中略自勸修寺大納言許申送云、（付書狀於祇候者、）來月若宮御元服必定候、御次第事可有御作進候、所役諸大夫一人可被沙汰進之由被仰出云々、兩條意得申候由令返答、抑御元服事、以公家御料所之御年貢可被沙汰云々、仍最略儀、每年以新儀可被折中云々、一條禪閤被指南申云々、加冠事被仰准后云々、於武家可有御元服云々、

十二月一日、丁未晴、〇中略就御元服之儀、自傳奏令見指圖、

二日、戊申晴、御元服次第事、以新儀被折中間、相談一條禪閤幷勸修寺大納言、

五日、辛亥晴陰風吹、親王御元服次第、今日令清書、付傳奏進公武、（禁裏一、武家マカナ、）